

令和 6 年度

竹田市教育行政に関する点検評価 報告書  
(令和 5 年度対象)



令和 6 年 9 月

竹田市教育委員会

# 報 告 書

この報告書は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）第 26 条第 1 項の規定に基づき、令和 5 年度に竹田市教育委員会が取り組んだ教育に関する事務の管理及び執行の状況について、点検・評価を行い、その結果を取りまとめたものです。

また、この点検・評価による P D C A サイクルの活用は、教育行政の効果的推進に大いに資するものです。

令和 6 年 9 月 5 日

竹田市教育委員会  
教育長 志賀 哲哉

## ◇ 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第 26 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第 4 項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

# — 目 次 —

|           |   |
|-----------|---|
| 報告書 ..... | 1 |
| 目次 .....  | 2 |

## 《点検・評価の概要》

|                         |   |
|-------------------------|---|
| 1 点検及び評価の実施方針について ..... | 4 |
| 2 点検・評価の対象及び期間 .....    | 4 |
| 3 点検・評価の方法 .....        | 4 |
| 4 点検・評価の公表までの経過 .....   | 7 |

## 《竹田市教育委員会の運営・活動状況》

|                                |    |
|--------------------------------|----|
| 1 竹田市教育委員会委員 .....             | 8  |
| 2 教育委員会の主な職務権限 .....           | 9  |
| 3 教育委員会会議の開催状況 .....           | 9  |
| 4 教育委員会会議の審議内容 .....           | 9  |
| ○令和5年度 教育委員会審議案件等一覧 .....      | 10 |
| 5 教育委員会会議以外の活動内容 .....         | 13 |
| 6 教育委員会の運営・活動内容についての自己評価 ..... | 14 |

## 《竹田市教育行政点検評価シート》

|                         |    |
|-------------------------|----|
| 竹田市教育行政点検評価シートの見方 ..... | 17 |
|-------------------------|----|

### 学校教育

#### 【夢に向かって挑戦し自己実現を図ろうとする力を育む教育の展開】

|                       |    |
|-----------------------|----|
| 1. 確かな学力の育成 .....     | 18 |
| 2. 豊かな心の育成 .....      | 22 |
| 3. 体力向上・健康教育の充実 ..... | 25 |
| 4. 幼児教育の充実 .....      | 29 |
| 5. 特別支援教育の充実 .....    | 31 |

#### 【安全・安心な教育環境の確保】

|                                  |    |
|----------------------------------|----|
| 6. 学びを支える教育環境の整備・充実 .....        | 33 |
| 7. いじめ・不登校・子どもの貧困等の対策の充実 .....   | 39 |
| 8. 安全教育の充実 .....                 | 43 |
| 9. 学校の働き方改革の推進と教師の健康の保持・増進 ..... | 45 |

### 生涯学習・社会教育

#### 【多様な学習活動機会（内容・方法）の充実】

|                             |    |
|-----------------------------|----|
| 1. 心豊かな暮らしをつくるための学習活動 ..... | 47 |
|-----------------------------|----|

|                                       |    |
|---------------------------------------|----|
| 2. 住みよい地域や職場をつくるための学習活動 .....         | 49 |
| 3. 子どもの健全育成に取り組む学習活動 .....            | 51 |
| <b>【自発的学習活動を支えるための条件整備（人的・物的）の充実】</b> |    |
| 4. 自発的学習活動を支えるための条件の整備充実 .....        | 52 |

## 歴史・文化

|                                   |    |
|-----------------------------------|----|
| <b>【文化財の保存・活用と歴史・文化施設の充実】</b>     |    |
| 1. 文化財保存・活用のための組織、仕組みの充実 .....    | 55 |
| 2. 歴史・文化施設の活用の充実 .....            | 58 |
| <b>【文化芸術の振興】</b>                  |    |
| 3. 文化・芸術活動の支援、文化活動を通じた交流の拡大 ..... | 60 |

## スポーツ

|                                    |    |
|------------------------------------|----|
| <b>【スポーツを通じた人づくりと地域づくり】</b>        |    |
| 1. 生涯にわたってスポーツに親しむ機運の醸成と環境整備 ..... | 63 |

## **《外部評価委員による評価意見》**

|                                   |    |
|-----------------------------------|----|
| 有識者（学識経験者）による評価及び自己評価に対する意見 ..... | 67 |
|-----------------------------------|----|

## **《おわりに》**

|                                 |    |
|---------------------------------|----|
| 令和5年度竹田市教育行政点検・評価についてのまとめ ..... | 82 |
|---------------------------------|----|

## 《点検・評価の概要》

### 1 点検及び評価の実施方針について

- ・竹田市教育委員会は、毎年、主要な施策や事務事業の取組状況について、点検及び評価を行い、課題や取組の方向性を明らかにすることにより、効果的な教育行政の一層の推進を図ります。
- ・また、点検及び評価の結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに公表することにより、市民への説明責任を果たし、市民に信頼される教育行政を推進します。

### 2 点検・評価の対象及び期間

- (1) 対象 点検・評価の対象は、「竹田市長期総合教育計画」及びそれを補完する「竹田市学校教育ビジョン」の施策を基本とした竹田市教育委員会の運営、活動状況を点検・評価の対象としました。対象年度は、令和5年度です。
- (2) 期間 点検・評価の実施期間は、令和6年4月から令和6年8月です。

### 3 点検・評価の方法

竹田市教育委員会の運営、活動状況及び竹田市長期総合教育計画の施策体系ごとの事務事業の実施状況や成果を明らかにし、今後に向けた課題の整理や方向性の確認などを、担当課による自己評価の方法で実施します。

これを原案とし、教育委員の意見、そして、点検・評価の客観性を確保するため、教育委員会が委嘱した「点検・評価に関する有識者」（外部委員2名）の意見、助言をいただきます。

- (1) 竹田市長期総合教育計画を柱として取り組んだ事務事業を対象とし、各主管課において自己評価による点検及び評価を行います。

#### ＜竹田市長期総合教育計画に掲げる◎基本目標と○基本施策＞

基本理念：「過去を誇り 現在を信じ 未来に憧れる」人づくり・まちづくり

#### 学校教育

##### ◎夢に向かって挑戦し自己実現を図ろうとする力を育む教育の展開

- ①確かな学力の育成
- ②豊かな心の育成
- ③体力向上・健康教育の充実
- ④幼児教育の充実
- ⑤特別支援教育の充実

##### ◎安全・安心な教育環境の確保

- ⑥学びを支える教育環境の整備・充実
- ⑦いじめ・不登校・子どもの貧困等の対策の充実
- ⑧安全教育の充実
- ⑨学校の働き方改革の推進と教師の健康の保持・増進

#### 生涯学習・社会教育

##### ◎多様な学習機会（内容・方法）の充実

- ①心豊かな暮らしをつくるための学習活動

- ②住みよい地域や職場をつくるための学習活動
- ③子どもの健全育成に取り組む学習活動
- ◎自発的学習活動を支えるための条件整備（人的・物的）の充実
- ④自発的学習活動を支えるための条件の整備充実

#### 歴史と文化

- ◎文化財の保存・活用と歴史・文化施設の充実
  - ①文化財保存・活用のための組織、仕組みの充実
  - ②歴史・文化施設の活用の充実
- ◎文化芸術の振興
  - ③文化・芸術活動の支援、文化活動を通じた交流の拡大

#### スポーツ

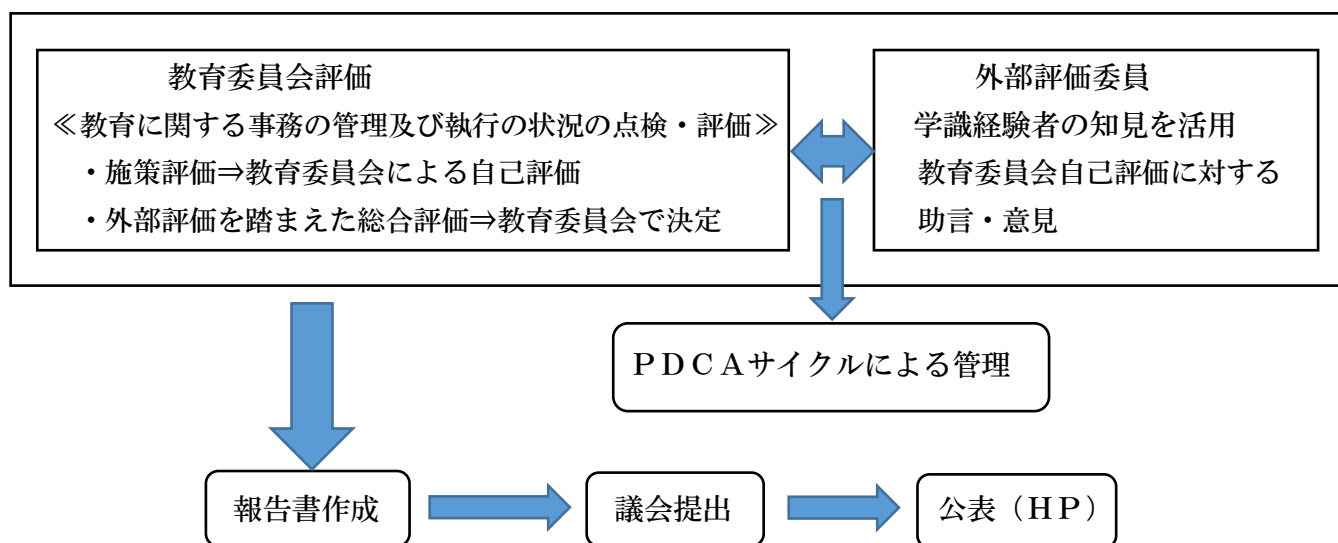
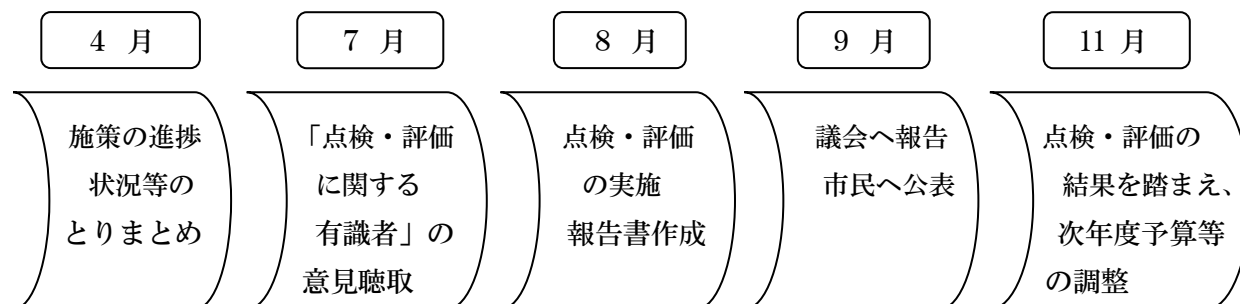
- ◎スポーツを通じた人づくりと地域づくり
  - ①生涯にわたってスポーツに親しむ機運の醸成と環境整備

- (2) 点検及び評価は、前年度の施策・事業の進捗状況を総括するとともに、課題や今後の取組みの方向性を示すものとし、毎年1回実施します。
- (3) 教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るため、「点検・評価に関する有識者」を配置します。  
ア「点検・評価に関する有識者」は、教育に関し学識経験を有する者の中から、教育委員会が委嘱  
イ「点検・評価に関する有識者」の任期は2年（再任を妨げない）
- (4) 施策・事業の進捗状況等を取りまとめ、有識者の意見を聴取した上で、教育委員会において点検及び評価を行います。
- (5) 教育委員会において、点検及び評価を行った後、その結果を取りまとめた報告書を竹田市議会へ提出します。また報告書は公表するものとします。

#### 【点検・評価に関する有識者】

| 氏 名     | 役 職 等        | 外部評価委員任期                        |
|---------|--------------|---------------------------------|
| 山 崎 清 男 | 大分大学名誉教授     | 令和 5年 4月 1日から<br>令和 7年 3月 31日まで |
| 畑 山 誠 二 | 元竹田市立竹田小学校校長 | 令和 5年 4月 1日から<br>令和 7年 3月 31日まで |

## (6) 点検・評価の流れ



### ※PDCA 基準

- 「A」評価については、今後も継続できるように利点を伸ばす方策を研究する。
- 「B」評価については、現状を継続しつつも、改良点を検討し、実践する。
- 「C」評価については、どこが良くなかったのかを分析し、改良に向けた検証を行う。
- 「D」評価については、原因究明を行い、改善できなければ事業の見直しを行う。

## (7) 評価指針

### ア. 評価基準：自己評価を行う際の指針となる評価基準

評価は、それぞれに成果指標を設定し、その達成割合によってA～Dの4段階で行います。

| 評 価 | 達成点の平均値                            |
|-----|------------------------------------|
| A   | R 7 目標値に達している、または 100%以上の達成度が見込まれる |
| B   | R 7 目標値の概ね 80%以上の達成度が見込まれる         |
| C   | R 7 目標値の概ね 60%以上の達成度が見込まれる         |
| D   | R 7 目標値の概ね 60%未満の達成度が見込まれる         |

#### イ．有識者による外部評価の活用

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第2項の規定に基づき、前年度に取り組まれた教育委員会の事業内容について、さらに教育行政の向上を図るため、その内容と教育委員会の自己評価に対し、有識者による外部評価をお願いし、外部評価結果については、「3．今後の課題と方向性」において、自己評価を再調整するものとしています。

#### 4 点検・評価の公表までの経過

|        |      |                                                      |
|--------|------|------------------------------------------------------|
| 令和 6 年 | 4 月  | 教育委員会各課宛「竹田市教育行政点検評価シート」作成を通知<br>・作成シートの提出… 5 月      |
| 令和 6 年 | 6 月  | スケジュール調整                                             |
| 令和 6 年 | 7 月  | 外部評価委員へ原稿の送付                                         |
| 令和 6 年 | 8 月  | 教育委員会で「竹田市教育行政点検評価シート」について説明<br>・前年度をベースとしたスケジュールの確認 |
| 令和 6 年 | 8 月  | 外部評価委員から一次評価後原稿返送                                    |
| 令和 6 年 | 8 月  | 自己評価再調整後、各課からの報告期限                                   |
| 令和 6 年 | 8 月  | 第8回教育委員会へ点検評価（案）提示                                   |
| 令和 6 年 | 9 月  | 外部評価委員へ修正原稿を再送                                       |
| 令和 6 年 | 9 月  | 完成                                                   |
| 令和 6 年 | 9 月  | 第9回教育委員会へ点検評価（最終案）提示                                 |
| 令和 6 年 | 9 月  | 市議会へ提出                                               |
| 令和 6 年 | 10 月 | 竹田市ホームページに掲載                                         |



## 《竹田市教育委員会の運営・活動状況》

### 1 竹田市教育委員会委員

教育委員会は、政治的中立性を維持しつつ、安定性・継続性を確保して教育行政を管理・執行するため、首長から独立した合議体の執行機関として設置されている。竹田市教育委員会は、市長が議会の同意を得て任命した教育長と4人の委員で組織されている。

竹田市教育委員会名簿

(令和6年3月31日現在)

| 職 名 | 氏 名     | 職 業           | 就任年月日                    | 任 期         |
|-----|---------|---------------|--------------------------|-------------|
| 教育長 | 志 賀 哲 哉 | 地 方<br>公務員    | R 3. 5. 1 2              | R 6. 5. 1 1 |
| 委 員 | 岡 茂 樹   | 会社員           | R 5. 6. 6                | R 9. 6. 5   |
| 委 員 | 甲 高 幸 一 | 会社員           | R 3. 6. 6                | R 7. 6. 5   |
| 委 員 | 佐 藤 恵   | 農林業           | ①H30. 6. 9<br>②R 4. 6. 9 | R 8. 6. 8   |
| 委 員 | 吉 野 聖 子 | 児童クラブ<br>スタッフ | R 2. 6. 7                | R 6. 6. 6   |

○ 令和5年度に任命された委員

岡 茂 樹

※ 「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正により、平成27年4月から、教育委員会は、代表である教育長と4人の教育委員で組織されている。

市長が主宰者となり、市長と教育委員会で構成する総合教育会議が平成27年度に設置され、教育に関する大綱が策定された。総合教育会議においては、教育条件の整備等重点的に講ずべき施策、緊急の場合に講ずべき措置について協議・調整を行う。

※ 教育長は、市長が議会の同意を得て任命し、任期は3年。

教育長は、教育委員会を代表し、教育委員会の権限に属するすべての事務の具体的な執行を行う。この教育長の統括の下に事務の処理を行う組織として、事務局が置かれている。

## 2 教育委員会の主な職務権限

竹田市教育委員会の主な職務権限は次のとおり。

- ・教育行政の大綱に関すること
- ・市立学校その他教育機関の設置、廃止及び移管に関すること
- ・重要な教育財産の取得に関すること
- ・教科用図書採択に関すること
- ・教科内容の大綱に関すること
- ・県費負担職員の懲戒及び県費負担職員たる校長の任免その他の進退について内申すること
- ・県費負担職員の服務の監督に関する一般方針を定めること
- ・前2項に定めるもののほか、人事の一般方針を定め、及び懲戒を行うこと
- ・教育長及び課長の任免を行うこと
- ・県費負担職員以外の校長、園長、公民館長、図書館長、学校給食共同調理場長、歴史文化館長、佐藤義美記念館長、文化財管理センター所長、直入B & G海洋センター所長の任免を行うこと
- ・市立学校その他教育機関の敷地の設置及び変更に関すること
- ・教育委員会規則の制定又は改廃を行うこと
- ・教育予算その他議会の議決を経るべき議案について意見を申し出ること
- ・教育委員会事務局の課の改廃に関すること
- ・市立学校の学区の設置又は変更に関すること
- ・訴訟又は異議の申立てに関すること
- ・文化財の指定解除及び申請に関すること
- ・教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価並びに議会への報告及び公表に関すること
- ・前各号に掲げるもののほか、重要な事項

これらについて教育委員会会議において審議しており、また教育委員会会議以外にも様々な活動を行っている。

## 3 教育委員会会議の開催状況

毎月1回「定例会」を開催し、随時「臨時会」を開催しているが、令和5年度は、定例会・臨時会あわせて13回の会議を開催した。

- |              |     |
|--------------|-----|
| (1) 教育委員会定例会 | 12回 |
| (2) 教育委員会臨時会 | 1回  |

## 4 教育委員会会議の審議内容

下記のとおり、令和5年度は29件の議題について審議を行った。

- |                                   |     |
|-----------------------------------|-----|
| ・教科用図書の採択に関すること                   | 1件  |
| ・県費負担職員たる校長の任免その他の進退について内申すること    | 1件  |
| ・課長の任免を行うこと                       | 2件  |
| ・教育委員会規則等の制定又は改廃を行うこと             | 11件 |
| ・教育予算その他議会の議決を経るべき議案について意見を申し出ること | 11件 |
| ・その他                              | 3件  |

# ○令和5年度 教育委員会審議案件等一覧

## (1) 教育委員会審議議題

| 開催月  | 番号 | 件 名                                                  | 提案理由                                                                                                                    | 提出日   |
|------|----|------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|
| 5月定例 | 31 | 令和5年度竹田市教育費予算(5月補正)要求書について                           | 令和5年度教育予算について、5月補正予算を要求するもの                                                                                             | 5月 9日 |
|      | 32 | 令和5年度竹田市教育費予算(6月補正)要求書について                           | 令和5年度教育予算について、6月補正予算を要求するもの                                                                                             |       |
|      | 33 | 他の普通地方公共団体の公の施設を竹田市の住民の利用に供させることに関する協議を市長に申し出ることについて | 豊後大野市の三重全天候型運動場を竹田市民が利用できる協定を結ぶため                                                                                       |       |
|      | 34 | 竹田市教育長の職務代理者の指名について                                  | 地方教育行政の組織及び運営に関する法律第13条第2項の規定により、教育長の職務代理者を指名するとなっているため                                                                 |       |
| 6月定例 | 35 | 竹田市学校給食費徴収条例施行規則の一部改正について                            | 子ども・子育て支援法第19条第2項が削られるため、該当条項を引用している箇所について改正を行うもの                                                                       | 6月 5日 |
|      | 36 | 竹田市立学校に勤務する県費負担教職員の在宅勤務実施要領の制定について                   | 職員の個々の状況に応じた多様な働き方を実現し、ワーク・ライフ・バランスの推進及び業務効率化を図り、職員ひとりが働きやすい環境を整えるとともに、災害の発生、感染症の流行時等における業務の円滑な継続を図ることを目的として必要な事項を定めるもの |       |
|      | 37 | 竹田市立学校に勤務する県費負担教職員の在宅勤務（新型コロナウイルス感染症対応）実施要領の廃止について   | 竹田市立学校に勤務する県費負担教職員の在宅勤務実施要領の制定に伴い、廃止するもの                                                                                |       |
| 7月定例 | 38 | 竹田市教育委員会委員の席次について                                    | 竹田市教育委員会会議規則第5条の規定により、委員の席次を決定するもの                                                                                      | 7月 5日 |
|      | 39 | 竹田市立小中学校個人情報保護の廃止について                                | 個人情報の保護に関する法律が改正され、法が直接適用することに伴い廃止するもの                                                                                  |       |
| 8月定例 | 40 | 令和5年度教育費予算（9月補正）要求書について                              | 令和5年度教育費予算について、9月補正予算を要求するもの                                                                                            | 8月 7日 |
|      | 41 | 令和5年度竹田市教育行政に関する点検評価報告書について                          | 地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項の規定に基づくもの                                                                                     |       |
|      | 42 | 令和6年度使用教科用図書の採択について                                  | 義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第14条の規定に基づき、毎年度種目ごとに1教科用図書を採択することが求められているため                                                     |       |

|       |    |                                      |                                                                                                                    |        |
|-------|----|--------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|
| 9月定例  | 43 | 令和5年度竹田市教育行政に関する点検評価報告書について          | 地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項の規定に基づくもの                                                                                | 9月 5日  |
| 11月定例 | 44 | 令和5年度竹田市教育費予算（12月補正）要求書の提出について       | 令和5年度教育費予算について12月補正予算を要求するもの                                                                                       | 11月 6日 |
|       | 45 | 竹田市学校林分収条例の一部改正する条例の制定を市長に申し出ることについて | P T A家庭戸数減少等により管理が困難であるとの理由から、祖峰小学校学校林管理委員会が令和5年3月31をもって、学校林に関する全ての権利を竹田市に移管し、解散したため当該学校林を廃止するもの                   |        |
|       | 46 | 竹田市立小中学校管理規則の一部改正について                | 大分県立学校管理規則に伴い、県立学校において「専門員」の補職名が設けられたことにより所要の改正を行うもの                                                               |        |
|       | 47 | 竹田市立学校児童生徒就学援助補助規程の一部改正について          | 就学援助費補助にかかる保護者の利便性の向上と学校並びに学校支援センターの煩雑な事務の軽減のためにオンライン申請・通知が行えるように所要の改正を行うもの                                        |        |
|       | 48 | 竹田市史跡御客屋敷の指定管理者の指定について               | 史跡御客屋敷の指定管理者を指定することについて、地方自治法第244条の2第6項の規定により議決を求めるもの                                                              |        |
|       | 49 | 竹田市祖母山麓体験交流施設「あ祖母学舎」の指定管理者の指定について    | 竹田市祖母山麓体験交流施設「あ祖母学舎」の指定管理者を指定することについて、地方自治法第244条の2第6項の規定により議決を求めるもの                                                |        |
| 12月定例 | 50 | 竹田市立図書館条例施行規則の一部改正について               | 図書館において、館外貸出しをした図書が破損や汚損される事例が多く発生していることから、図書館運営上、こうした行為に対応して「図書の貸出し停止」の措置がとれるようにするため、規則の第14条及び第20条にその旨の記述を明文化するもの | 12月 5日 |
| 1月定例  | 1  | 令和6年度教育費予算当初予算要求書について                | 令和6年度教育費予算について、当初予算を要求するもの                                                                                         | 1月11日  |
|       | 2  | 竹田市教育委員会課長等の任免について                   | 人事異動に伴う竹田市教育委員会課長等の任命について                                                                                          |        |
| 2月定例  | 3  | 令和5年度竹田市教育費予算（3月補正）要求書の提出について        | 令和5年度教育費予算について3月補正予算を要求するもの                                                                                        | 2月 5日  |
|       | 4  | 竹田市教育委員会委員の辞職の同意について                 | 教育委員会の人事異動に関すること                                                                                                   |        |

|      |   |                           |                                                                                                               |       |
|------|---|---------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|
| 3月定例 | 5 | 県費負担教職員の人事異動の内申について       | 県費負担教職員の人事異動について、大分県教育委員会に内申する必要があるため                                                                         | 3月 4日 |
|      | 6 | 竹田市教育委員会事務局処務規則の一部改正について  | 教育委員会事務局の係名称や業務内容、事務処理方法等を全体的に見直し、各種変更点を一括して整えるため                                                             |       |
|      | 7 | 竹田市教育委員会公印規則の一部改正について     | 竹田市直入学校給食共同調理場が竹田中央学校給食共同調理場に統合したことに伴い、公印を廃止するもの。併せて、現行の規則にはなかった定義、職務代理の場合は運用、準用についての規定を追加し、第2条にあった表を一にまとめるもの |       |
|      | 8 | 竹田市学校給食費徴収条例施行規則の一部改正について | 学校給食費の減額にかかる記載内容に誤解を生じるおそれのある表現があるため所要の改正を行うもの                                                                |       |
| 3月臨時 | 9 | 竹田市教育委員会課長等の任免について        | 人事異動に伴う竹田市教育委員会課長等の任命について                                                                                     | 3月22日 |

## (2) 請願書の受理・審査

| 開催月 | 番号 | 件 名  | 提出日 |
|-----|----|------|-----|
|     |    | 受理なし |     |

## (3) 要望書の受理・審査

| 開催月 | 番号 | 件 名  | 提出日 |
|-----|----|------|-----|
|     |    | 受理なし |     |

## (4) 協議事項

| 開催月   | 件 名                                   | 提出日    |
|-------|---------------------------------------|--------|
| 4月定例  | 小中学校入学式・幼稚園入園式の出席予定について               | 4月 5日  |
| 5月定例  | 中学校体育大会について                           | 5月 9日  |
| 6月定例  | 教育委員のその他の委員について                       | 6月 5日  |
| 8月定例  | 教育長・教育委員学校訪問について                      | 8月 7日  |
|       | 幼稚園・小学校運動会について                        |        |
| 9月定例  | 教育長・教育委員学校訪問について                      | 9月 5日  |
|       | 幼稚園・小学校運動会について                        |        |
| 12月定例 | 竹田市教育長・教育委員学校訪問意見交換記録について             | 12月 5日 |
| 2月定例  | 小中学校卒業式・幼稚園卒園式及び小中学校入学式・幼稚園入園式の対応について | 2月 5日  |

## (5) 報告事項

| 開催月   | 番号 | 件 名                      | 提出日    |
|-------|----|--------------------------|--------|
| 4月定例  | 2  | 竹田市教育費予算（3月補正）について       | 4月 5日  |
|       | 3  | 竹田市教育費予算（当初予算）について       |        |
| 6月定例  | 4  | 竹田市教育費予算（5月補正）について       | 6月 5日  |
| 7月定例  | 5  | 竹田市教育費予算（6月補正）について       | 7月 5日  |
| 9月定例  | 6  | 令和5年度竹田市教育関係功労者表彰候補者について | 9月 5日  |
| 10月定例 | 7  | 竹田市教育費予算（9月補正）について       | 10月 5日 |
| 12月定例 | 8  | たけたんインクルーシブ学籍制度の実施方針について | 12月 5日 |
| 1月定例  | 1  | 竹田市教育費予算（12月補正）について      | 1月11日  |

## 5 教育委員会会議以外の活動内容

令和5年5月8日に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に位置付けられたことにより、多くの行事がほぼ制約を受けずに行われるようになってきた。教育委員の活動もコロナ禍前のように諸行事に参加するなど、教育委員会会議以外にも以下のような活動を行った。

### (1) 学校等の訪問（5日間、20カ所）

教育現場の実態把握を目的として、学校、幼稚園、学校支援センター、また令和4年度から開始した学校給食調理場と教育支援センター「サフラン」の所管施設を訪問した。教職員の紹介や学校経営の説明を受け、授業参観を通して児童生徒等の様子について気づいた点などを出し合いながら現場の職員と意見交換を行った。校内視察で施設の改修、修繕箇所等の要望を聴いた。令和4年度より1学校当たりの時間設定を以前の設定に戻し、給食についてはコロナ禍と同様に子どもたちとは別室としたが、しっかりと学校運営の実態を把握することができた。

### (2) 総合教育会議への出席

令和6年1月に総合教育会議が開催された。竹田市教育推進大綱の改定、教育委員会における臨床心理士配置について協議を行った。また、報告事項として令和5年4月に統合した竹田中学校の統合について、アンケート調査結果等の報告を行った。竹田市のいじめ、不登校等の状況や部活動検討委員会や幼保小の円滑な接続について等を学校教育課から報告を行った。

### (3) 各種会議・研修等への参加

教育委員、教育長としての資質を高め、教育行政等の情報の取得・意見交換を図るための各種会議や研修会に積極的に参加した。令和5年度からは通常開催に戻った。

大分県市町村教育長会議（教育長）、大分県市町村教育長協議会総会（教育長）、九州都市教育長協議会定期総会及び研究大会（教育長）、大分県市町村教育委員会連合会総会（教育長・教育委員）、九州地区市町村教育委員会研修大会（教育長・教育委員）等に参加した。

### (4) その他行事への出席

幼稚園や小中学校の入園・入学式は、令和5年度から通常に戻り、教育長・教育委員は来賓として出席し告辞を行った。

幼稚園・小学校運動会、中学校体育大会にも出席した。竹田市中学校体育連盟球技・剣道大会、竹田市中学校陸上競技大会、竹田市中学校駅伝競走大会、大分県中学校駅伝競走大会は、試合数の減少で会場移動の時間が確保できないため、縮小したままの自主参加とした。

竹田市功労者表彰式、成人式、名水マラソン大会開会式に出席した。このほか、委員と事務局との連絡を密にし、日常的に教育行政に関わるようにしている。

#### (5) 各種委員の就任

教育委員会として各種委員の選出依頼があり、各教育委員が教育委員会の代表として各種委員を務め、それぞれの会議に参加した。

現在、教育委員が就任している各種委員は、竹田市民生委員推薦会委員、竹田市社会福祉協議会評議員、竹田市人権擁護審議会委員、竹田市人権啓発推進協議会会員、大分県共同募金会竹田市共同募金委員会運営委員及び審査委員、竹田市男女共同参画推進委員会委員がある。

## 6 教育委員会の運営・活動内容についての自己評価

### (1) 教育委員会会議の審議について

#### <自己評価>

各教育委員は、研修会に積極的に参加し自己研磨に努めており、教育委員会の会議においても、事務局が提示する資料のみならず、積極的に学校を訪問し保護者の意見も聴取したうえで、積極的な発言や提言を行うなど充実した審議が行われた。

また、令和5年10月から一人一台のタブレット端末貸与を導入し、ペーパーレスや会議資料の充実を図ることが出来た。

#### <課題対策>

任期満了に伴う委員の交代があることから、委員への説明はきめ細かく行うとともに、質問や課題提起に対する回答においても、各課で事前準備や情報収集等の確認を十分に行い会議に臨むこととした。

### (2) 教育委員会会議以外の活動について

#### <自己評価>

各教育委員が委嘱を受けている各種委員の会議等に参加し積極的に意見を述べ、それぞれの組織の活動で得た知見を教育委員会でフィードバックするように努めている。

学校訪問により、先生方との情報交換や授業参観で学校運営の現状を把握し、課題を認識したうえで委員会審議に反映できた。

#### <課題対策>

人権や福祉に関する外部組織の活動は、教育委員の活動を行う上でも参考になる部分が多く、今後とも委員が活動に取り組んでいけるよう事務局として支援していきたい。

学校が抱える課題も施設に関すること、学習に関することなど多岐にわたることから、学校訪問資料を早目に送付するなどして課題を事前に知らせたうえで学校訪問に臨む。また、保護者から直接委員へ情報提供や相談があることから、事務局として関係課に繋いだり、個別に対応したりして課題対策を行う。

総合教育会議は1回開催し、教育の現状とその課題を市長とも共有した。課題も多く緊急問題だけでなく、学校のあり方等長期的な課題もあることから定期的な開催に努めていきたい。

### (3) その他教育委員会の運営について

#### ＜自己評価＞

教育委員の研修については、委員会の組織として独自の研修会を開催することが望ましいことから、令和5年度も、12月定例会終了後に人権・部落差別解消推進についての研修会を行った。生涯学習課の社会教育専門員に講師をお願いし、「人権研修『部落差別問題への理解』～差別解消に向けて一緒に考えましょう!」について研修した。教育長、教育委員、教育委員会部局課長が参加した。

また、新任の委員へは、事前レクチャーを行い、教育委員としての立場や会議の運営について、また年間の活動等についてスムーズに参加できるよう説明を行った。

委員会審議の内容はホームページで公開している。ホームページの「子育て・教育」・「教育委員会からのお知らせ」の中で会議録が見つけやすくなった。

総合教育会議の会議録もホームページで公開している。

#### ＜課題対策＞

各種研修会への出席について案内を行うとともに、部落差別解消推進等人権等の研修については、今後も継続して行いたい。また、大きく変動する現代社会の課題に対応するためにも「生成AI」や「性多様性」など情報冊子の提供だけでなく、情報共有の場を設けることも考えていきたい。

教育委員会の活動を広く知らせる方策として、ケーブルテレビの活用についても引き続き検討したい。



# 竹田市教育行政点検評価シート

過去を誇り・現在を信じ・未来に憧れる人づくり実施施策

（令和5年度実施施策の評価）



▲ICTを活用した協働的な学び

## <例>

## 竹田市教育行政点検評価シートの見方

### 1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ ←基本目標分野別

<担当課>

竹田市長期総合教育計画に掲載された「基本目標」→「基本施策」→「主要施策」にある各事業を評価する

|                                    |                                 |       |       |      |
|------------------------------------|---------------------------------|-------|-------|------|
| 基本目標                               | 夢に向かって挑戦し自己実現を図ろうとする力を育む教育の展開   |       |       |      |
| 基本施策                               | 1. 確かな学力の育成                     |       |       |      |
| 主要施策                               | ① 学びの基盤づくりの推進                   |       |       |      |
| 成 果 指 標 に 対 す る 自 己 評 価            |                                 |       |       |      |
| 成果指標の名称                            | 単位                              | R5実績値 | R7目標値 | 自己評価 |
| 各学校の学習習慣及び生活習慣の<br>自 己 評 価 の 肯 定 率 | %                               | 80%   | 80%   | A    |
| 評 価 理 由                            | 自己評価結果についての理由、目標値への達成状況の分析による記入 |       |       |      |

### 2. 令和5年度の主な取組み（前年度の課題対応を含む）

|               |                 |                       |
|---------------|-----------------|-----------------------|
| 主要な事務<br>事業名称 | 取 り 組 み 内 容     |                       |
|               | 事業概要            | 成 果                   |
|               | 当該年度に取り組んだ事業の内容 | 事業実施後の結果、どのような成果があったか |

### 3. 今後の課題と方向性

|               |                             |
|---------------|-----------------------------|
| 主要な事務<br>事業名称 | 施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む） |
|               |                             |

# 竹田市教育行政点検評価シート

## 1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（学校教育）

＜学校教育課＞

|                                          |                                                                                                                                                  |       |       |      |
|------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|-------|------|
| 基本目標                                     | 夢に向かって挑戦し自己実現を図ろうとする力を育む教育の展開                                                                                                                    |       |       |      |
| 基本施策                                     | １．確かな学力の育成                                                                                                                                       |       |       |      |
| 主要施策                                     | ① 学びの基盤づくりの推進                                                                                                                                    |       |       |      |
| 成 果 指 標 に 対 す る 自 己 評 価                  |                                                                                                                                                  |       |       |      |
| 成果指標の名称                                  | 単位                                                                                                                                               | R5実績値 | R7目標値 | 自己評価 |
| 学 習 習 慣 及 び 生 活 習 慣 の<br>自 己 評 価 の 肯 定 率 | %                                                                                                                                                | 77.9% | 80%   | B    |
| 評 価 理 由                                  | 各校の重点目標の達成指標より実績値を算定。目標値より下回っているが、各校が竹田市教育ビジョンおよび学力向上プランを意識し取り組みを進めている様子が見て取れる。特に「自分の考えを伝える」ことはすべての学校の重点目標に設定されて工夫された取組が展開されている。そのことより自己評価をBとした。 |       |       |      |

## 2. 令和5年度の主な取組み（前年度の課題対応を含む）

| 主要な事務<br>事業名称         | 取 り 組 み 内 容                                                                                 |                                                                                                                                        |
|-----------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                       | 事業概要                                                                                        | 成 果                                                                                                                                    |
| 竹田市学力<br>向上プラン<br>の徹底 | <ul style="list-style-type: none"> <li>取組状況の進捗の確認（年2回）</li> <li>竹田市学力向上プランの見直し検討</li> </ul> | <p>各校の学習習慣および生活習慣の課題を焦点化した取組と竹田市学力向上プランとの整合性を確認し、校長所長会議にて説明したことで、各校の目標が竹田市のプランと同じベクトルで進むようになった。また、アンケートを2回実施したことで取組の弱いところが明らかとなった。</p> |

## 3. 今後の課題と方向性

| 主要な事務<br>事業名称           | 施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|-------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 竹田市学力<br>向上プラン<br>の 徹 底 | <p>竹田市のめざす子どもの姿にむけて、教育ビジョンや学力向上プランが設定されていることについて、校長所長会議を通じて周知してきた。さらに、教頭、各種主任を中心に組織的に取組み、竹田市教職員全体、そして地域へと広げていく必要がある。今後の方針としては、①組織的な取組に向けた教頭および教務主任対象の研修。②教育委員会の取組の地域への周知および学校と学校運営協議会との連携。</p> <p>生活習慣の充実に向けて「メディアとの付き合い方」が問題となっている。各学校において定期的及び継続的な実態把握、また、各学校で学期に1回以上のメディアとの付き合い方についての学習を実施する。</p> |

# 竹田市教育行政点検評価シート

## 1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（学校教育）

＜学校教育課＞

|                                  |                                                                                                                                                                                                            |                      |            |      |
|----------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------|------------|------|
| 基本目標                             | 夢に向かって挑戦し自己実現を図ろうとする力を育む教育の展開                                                                                                                                                                              |                      |            |      |
| 基本施策                             | 1. 確かな学力の育成                                                                                                                                                                                                |                      |            |      |
| 主要施策                             | ② 多様な他者と協働した探究的な学びの実践                                                                                                                                                                                      |                      |            |      |
| 成 果 指 標 に 対 す る 自 己 評 価          |                                                                                                                                                                                                            |                      |            |      |
| 成果指標の名称                          | 単位                                                                                                                                                                                                         | R5実績値                | R7目標値      | 自己評価 |
| ICT の活用を含めた他校との<br>交 流 授 業 の 実 施 | 回                                                                                                                                                                                                          | 63 回<br>(0.8 回／1 学年) | 1 回以上／1 学年 | C    |
| 評 価 理 由                          | コロナ禍での制約がなくなりとはしたが、以前の T 授業のような交流授業は各校の独自性に任されていた。そのため、交流授業などの取組がコロナ禍以前に比べ減少している。学校や学年部会によっては小規模校だからこそ複数学校が ICT で繋がり交流授業を実施している例もある。また、英語の授業においても ICT を活用し海外や他校との交流授業を仕組んだ学校もあるが、目標に達成していないため、自己評価を C とした。 |                      |            |      |

## 2. 令和5年度主な取組み（前年度の課題対応を含む）

| 主要な事務事業名称           | 取 り 組 み 内 容        |                                                                                         |
|---------------------|--------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|
|                     | 事業概要               | 成 果                                                                                     |
| 対面および ICT を活用した交流授業 | Zoom の活用による複数校合同授業 | 同級生との意見交流や自身を表現する場面で、有効な交流となっている。また、単学級ばかりの竹田市においては、教員にとって学び合う機会となっており、人材育成の面で効果をあげている。 |

## 3. 今後の課題と方向性

| 主要な事務事業名称           | 施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）                                                                                                                                                                                           |
|---------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 対面および ICT を活用した交流授業 | <p>極小規模校においては、校内における多様な他者との交流は難しい。その点を補完するために、各学校は地域を訪れ、地域の方々との学習を継続していく（全学校で実施）。学校間における交流授業については、6年度は5年度の1年部会での ICT 活用による複数校合同授業を各校・他学年に広げていく。また、海外や県内との交流例もあったことから好事例として紹介し市内各校に広げ、多様な他者との交流、協働的な学びへと進化させていきたい。</p> |

# 竹田市教育行政点検評価シート

## 1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（学校教育）

＜学校教育課＞

|                                                                    |                                                                                                                                                                 |                      |                  |      |
|--------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------|------------------|------|
| 基本目標                                                               | 夢に向かって挑戦し自己実現を図ろうとする力を育む教育の展開                                                                                                                                   |                      |                  |      |
| 基本施策                                                               | 1. 確かな学力の育成                                                                                                                                                     |                      |                  |      |
| 主要施策                                                               | ③ ICT活用の推進                                                                                                                                                      |                      |                  |      |
| 成 果 指 標 に 対 す る 自 己 評 価                                            |                                                                                                                                                                 |                      |                  |      |
| 成果指標の名称                                                            | 単位                                                                                                                                                              | R5 実績値               | R7目標値            | 自己評価 |
| ①効果的な ICT 活用に向けた教職員研修                                              | 回                                                                                                                                                               | ①40 回<br>(2.6 回／各学校) | ①各学校年間 3 回<br>以上 | B    |
| ②授業及び家庭学習でのタブレットの効果的使用。児童アンケート「学校で授業中に自分で調べる場面でタブレットをどれくらい使っていますか」 | %                                                                                                                                                               | ②67%                 | ②毎日 90%以上        | C    |
| 評 価 理 由                                                            | ICT 活用に向けての教職員研修について、校長・所長会議及び教務主任会議で伝えたが、時期や回数等、学校裁量に任せた結果、目標値に 0.4 回足りない。<br>復習のためのドリル等、知識定着のための活用に関しては頻繁に活用しているが、「自分で調べる場面」で「毎日使っている」と答えた児童生徒の割合が目標値に達していない。 |                      |                  |      |

## 2. 令和5年度の主な取組み（前年度の課題対応を含む）

| 主要な事務<br>事業名称   | 取 り 組 み 内 容             |                                                                                                                                                                      |
|-----------------|-------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                 | 事業概要                    | 成 果                                                                                                                                                                  |
| ICT 活用<br>教育の推進 | 一人1台端末を活用し、教育の質の向上をめざす。 | <p>直入中の総合的な学習のまとめとして、iPad を活用した授業を公開し、具体的な場面として教職員研修に位置づけ、ICT を活用した授業力向上の研修の場となった。</p> <p>ドリル教材も10月には2種類導入し、さらに認知機能のトレーニングとして、コグトレを導入し個別最適な学びのツールとして効果的に活用できている。</p> |

## 3. 今後の課題と方向性

| 主要な事務<br>事業名称   | 施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|-----------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ICT 活用<br>教育の推進 | <p>タブレット使用については、校内における職員研修の定期的な実施、また、児童生徒に対するメディアリテラシーの時間を道徳や特別活動の年間指導計画で設定しより良い活用をめざしていく。</p> <p>活用として「調べる」だけでなく、生徒が「考えをまとめる」「考えを交流する」ツールとして使えるように ICT 支援員による研修や授業支援を行っていく。</p> <p>個別最適な学びの実現に向けて、児童生徒自身が自分の得意分野の伸張および苦手分野の克服ができるよう、ドリル教材、認知機能に関する教材、図書の本に係る教材を整備している。その効果的な活用に向けて研修等を行っていく。</p> |



# 竹田市教育行政点検評価シート

## 1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（学校教育）

＜学校教育課＞

|                         |                                                                                                                          |                            |                             |      |
|-------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------|-----------------------------|------|
| 基本目標                    | 夢に向かって挑戦し自己実現を図ろうとする力を育む教育の展開                                                                                            |                            |                             |      |
| 基本施策                    | 1. 確かな学力の育成                                                                                                              |                            |                             |      |
| 主要施策                    | ④ 学力調査の活用                                                                                                                |                            |                             |      |
| 成 果 指 標 に 対 す る 自 己 評 価 |                                                                                                                          |                            |                             |      |
| 成果指標の名称                 | 単位                                                                                                                       | R5実績値                      | R7目標値                       | 自己評価 |
| 竹田市標準学力調査<br>(学年末)の結果   | 教科<br>数                                                                                                                  | 全国平均以上<br>小 5/11<br>中 0/10 | 全国平均以上<br>小 8/11<br>中 10/10 | C    |
| 評 価 理 由                 | 昨年度来の問題分析から各校への啓発のみでは成果が上がらないことから、組織的な展開へ進めるため、教務主任研修を行い、学力向上に向けての効果的な取組はどうあればよいか協議し、各校の学力向上プランの検討につなげていったが、目標値達成には、程遠い。 |                            |                             |      |

## 2. 令和5年度の主な取組み（前年度の課題対応を含む）

| 主要な事務<br>事業名称           | 取 り 組 み 内 容                                                        |                                                                    |
|-------------------------|--------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------|
|                         | 事業概要                                                               | 成 果                                                                |
| 4月12月<br>実施の学力<br>調査の活用 | 4月実施(竹田市、大分県、全国)12月実施<br>標準学力調査の調査結果を分析し、課題を把握<br>するとともに授業改善等に活かす。 | 教科ごとの分析、および各校ごとの分析をもとに<br>教務主任会議において、今後の取組について協議<br>し、授業改善が進みつつある。 |
| たけたん小<br>テストの実<br>施     | 小学校4年生および5年生の算数の課題とな<br>っている問題を毎月1回配信する。                           | 基本問題であったが、4、5年生の成績に上昇が<br>見られた。また、6年生の応用問題の上昇が見られ<br>た。            |

## 3. 今後の課題と方向性

| 主要な事務事業名称          | 施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）                                                                                            |
|--------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 4月実施の学力調査<br>の活用   | 竹田市（小4）、大分県（小5、中2）、全国（小6、中3）の各学力調査結果の分析を各教科部会で実施し、具体的な授業改善の方向性を示し、各校は学力向上プランの100%の実施をめざす。また、市教委はたけたん小テストを実施し、各校の支援を行う。 |
| 年2回「学力向上プ<br>ラン」改訂 | 学校教育課は、上記の調査の分析を受け、学力向上委員会（指導教諭等で構成）において学力向上プランの検討を行う。また、進捗状況等のアンケートを実施し、「竹田市学力向上プラン」を年2回改訂し、各学校に周知し、各校の学力向上プランに反映させる。 |

## 竹田市教育行政点検評価シート

### 1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（学校教育）

＜学校教育課＞

|                         |                                               |                     |                      |      |
|-------------------------|-----------------------------------------------|---------------------|----------------------|------|
| 基本目標                    | 夢に向かって挑戦し自己実現を図ろうとする力を育む教育の展開                 |                     |                      |      |
| 基本施策                    | 2. 豊かな心の育成                                    |                     |                      |      |
| 主要施策                    | ① 人権・部落差別解消教育の推進                              |                     |                      |      |
| 成 果 指 標 に 対 す る 自 己 評 価 |                                               |                     |                      |      |
| 成果指標の名称                 | 単位                                            | R5 実績値              | R7目標値                | 自己評価 |
| 職員研修（各学校・園の実施）<br>実施率   | 回                                             | 44回<br>(2.58回／1校・園) | 幼・小・中の校内研修<br>を年2回実施 | A    |
| 評価理由                    | 部落差別解消に向けて、各校および園が年間2回以上の研修を計画的に実施することができている。 |                     |                      |      |

### 2. 令和5年度の主な取組み（前年度の課題対応を含む）

| 主要な事務事業<br>名称        | 取組み内容             |                                                                                     |
|----------------------|-------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|
|                      | 事業概要              | 成果                                                                                  |
| 学校教育での人権・部落差別解消教育の推進 | 部落差別解消に係る教職員研修の実施 | 各学校が学期に1回以上研修を実施するように啓発し実施できた。<br>内容としては、部落問題に係る動画の視聴・意見交流、授業研究、実践のまとめの作成および協議等である。 |

### 3. 今後の課題と方向性

| 主要な事務事業名称            | 施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）                                                                                                                                                                           |
|----------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学校教育での人権・部落差別解消教育の推進 | 今後も引き続き職員研修を行っていくが、内容として、「部落問題の知識」および「部落差別解消に向けた施策」に関する内容を重点的に行い、部落差別解消に向けて推進していく。そのため、目標値の設定を各校・園の校内研修の実施を年3回に改める。また、全教職員の意識の向上及び知識理解のために全員研修会を実施していく。さらに、人権・部落差別解消教育推進委員会において、実態把握の実施と分析を継続的に行っていく。 |

## 竹田市教育行政点検評価シート

### 1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（学校教育）

＜学校教育課＞

|                               |                               |                   |                  |      |
|-------------------------------|-------------------------------|-------------------|------------------|------|
| 基本目標                          | 夢に向かって挑戦し自己実現を図ろうとする力を育む教育の展開 |                   |                  |      |
| 基本施策                          | 2. 豊かな心の育成                    |                   |                  |      |
| 主要施策                          | ② 竹田郷土学の実践                    |                   |                  |      |
| 成 果 指 標 に 対 す る 自 己 評 価       |                               |                   |                  |      |
| 成果指標の名称                       | 単位                            | R5実績値             | R7目標値            | 自己評価 |
| 総合的な学習の時間における<br>ゲストティーチャーの活用 | %                             | 全学校で実施<br>実施学年95% | 各学年1回以上<br>90%以上 | A    |

|      |                                                                                                             |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 評価理由 | ほとんどの学校でゲストティーチャーの活用ができています。活用していない学級は2学級。各校とも地域の人を活用し郷土学を推進している。また、中学校においてはその生き方について学ぶようにゲストティーチャーを活用している。 |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

## 2. 令和5年度の主な取組み（前年度の課題対応を含む）

| 主要な事務<br>事業名称 | 取 り 組 み 内 容                                                      |                                                                                                                                                                                                 |
|---------------|------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|               | 事業概要                                                             | 成 果                                                                                                                                                                                             |
| 竹田郷土学の推進      | 「タケタカタロー」プロジェクトの推進<br><br>教育課程に位置付け、カリキュラムマネジメントによる各校での計画的な実践と改善 | 中学校においては、各学校での取組の動機付けとして、竹田に関わって人生を切り拓いている方々の話を聞くことで、自分と竹田との関りについて、また自分の将来のことについて考える中学生の姿が、事後の感想からうかがえた。<br><br>各教科の横断的な学習を意識した、カリキュラムが整えられ、計画にそった郷土学の取組が進められている。そのまとめや取組の状況を学習発表会や文化祭の中で見て取れる。 |

## 3. 今後の課題と方向性

| 主要な事務<br>事業名称 | 施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）                                                                                                                                                  |
|---------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 竹田郷土学の推進      | 総合的な学習の時間において教科横断的な教育課程を作成し、各校での計画的な実践と改善を重ねていきている。それを支える取組として、農業、産業、文化における竹田の宝（人・こと・もの）を整理し、各校に配布してきた。今後は竹田を拠点に活動している農業を中心に資料提供を行う。また、学習の出口として、どう発信するかについて、市教委として各校に支援していく。 |

# 竹田市教育行政点検評価シート

## 1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（学校教育）

＜学校教育課＞

|                                                          |                               |                        |                |      |
|----------------------------------------------------------|-------------------------------|------------------------|----------------|------|
| 基本目標                                                     | 夢に向かって挑戦し自己実現を図ろうとする力を育む教育の展開 |                        |                |      |
| 基本施策                                                     | 2. 豊かな心の育成                    |                        |                |      |
| 主要施策                                                     | ③ 道徳教育の充実                     |                        |                |      |
| 成 果 指 標 に 対 す る 自 己 評 価                                  |                               |                        |                |      |
| 成果指標の名称                                                  | 単位                            | R5実績値                  | R7目標値          | 自己評価 |
| 児童生徒アンケート「道徳の授業で自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動にとりくんでいますか」 | %                             | 83.9%（小6）<br>86.7%（中3） | 肯定的回答<br>90%以上 | B    |



|      |                                                              |
|------|--------------------------------------------------------------|
| 評価理由 | 「議論する道徳」を意識した道徳の授業改善に取り組む教職員は確実に増えているが、小学校・中学校ともに目標値に達していない。 |
|------|--------------------------------------------------------------|

## 2. 令和5年度の主な取組み（前年度の課題対応を含む）

| 主要な事務<br>事業名称      | 取 り 組 み 内 容                       |                                                                                         |
|--------------------|-----------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|
|                    | 事業概要                              | 成 果                                                                                     |
| 「考え、議論する」道徳科の授業の推進 | 授業改善の取組と合わせ、「考え、議論する」道徳科の授業を推進する。 | 考えを深める課題の設定等、全教科での授業改善に取り組んでいる。<br><br>放課後学習会を開催し、道徳の授業づくりの研修を行い、経験の浅い教員を中心に意欲的に研修に臨んだ。 |

## 3. 今後の課題と方向性

| 主要な事務<br>事業名称      | 施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）                                                                                             |
|--------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 「考え、議論する」道徳科の授業の推進 | 児童生徒が主体的に「考え、議論する」道徳科の授業を実施できるように、校長会議で好事例を紹介したり、研修資料を提供したりする。また、教務主任会議で授業改善テーマとして、「考えづくり」「議論のさせ方」を話題にし、各校での取組に反映させていく。 |

# 竹田市教育行政点検評価シート

## 1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（学校教育）

＜学校教育課＞

|                                |                                                                                        |                  |                    |      |
|--------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------|------------------|--------------------|------|
| 基本目標                           | 夢に向かって挑戦し自己実現を図ろうとする力を育む教育の展開                                                          |                  |                    |      |
| 基本施策                           | 2. 豊かな心の育成                                                                             |                  |                    |      |
| 主要施策                           | ④ 読書活動の推進                                                                              |                  |                    |      |
| 成 果 指 標 に 対 す る 自 己 評 価        |                                                                                        |                  |                    |      |
| 成果指標の名称                        | 単位                                                                                     | R5実績値            | R7目標値              | 自己評価 |
| 全国学力・学習状況調査における「読書が好き」な児童生徒の割合 | %                                                                                      | 小：80.2<br>中：64.2 | 小：80%以上<br>中：70%以上 | B    |
| 評価理由                           | 図書館司書や図書館担当の教職員を対象に、図書館活用の研修を通して、活用の充実を図ることで、小学校は目標に達している。中学校は16ポイント程度低く、目標値に達していないため。 |                  |                    |      |

## 2. 令和5年度の主な取組み（前年度の課題対応を含む）

| 主要な事務<br>事業名称 | 取 り 組 み 内 容                                    |                                                        |
|---------------|------------------------------------------------|--------------------------------------------------------|
|               | 事業概要                                           | 成 果                                                    |
| 各学校での読書活動の推進  | ・全ての小学校の低学年（1～3年）で、毎日、学校図書館の本を借り換える実践を引き続き行った。 | ・学校図書館で毎日本を借り換えることにより、学校図書館に慣れるとともに、活字に親しむ習慣を身に付けつつある。 |

|               |                                                                                                              |                                                                                                                                                              |
|---------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校図書館蔵書システムを全校一斉に導入することにより、蔵書の検索や図書の貸し出し・返却等が容易にできるようにした。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・蔵書システムの導入により、今まで手作業で行っていた図書メディアの貸借の作業が大幅に短縮され、図書館司書の児童生徒と向き合う時間が増えた。それによって、個々の好みや用途に応じた図書の選択ができるようになっている。</li> </ul> |
| 図書館を活用した授業の充実 | 令和4年度から学校図書館活用教育を授業に取り入れる取組として、教員及び学校司書の合同研修を実施した。                                                           | 「調べ学習の基礎～図鑑を活用する」「ビブリオバトル・指導の実践」の内容で教員・学校司書合同研修を行った。学校図書館活用教育について、授業レベルにおとした実践方法を教職員に示すことができた。                                                               |

### 3. 今後の課題と方向性

| 主要な事務<br>事業名称        | 施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）                                                                                                                                                                                                                 |
|----------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 各学校での<br>読書活動の<br>推進 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでにしている小学校低学年の毎日の図書借換えを継続するとともに、本年度実施した中学校でのビブリオバトルについての研修など、読書活動についての実践を中学校でも広げることができるよう研修を進める。</li> <li>・学校図書館蔵書システムや付随するソフトの活用が小中学校において進むことにより、各校における読書活動が活発に行われるようよう、学校司書の資質向上を図る。</li> </ul> |
| 図書館を活用した授業の充実        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度実施したような学校図書館を活用した授業の具体的な展開のしかたが教職員に伝わるよう、授業ですぐに使える実践を紹介する。</li> <li>・引き続き『たけたん自習室』の取組の一環として、児童が市立図書館を定期的に訪問できる機会を設定し、様々な本に触れる場を提供する。</li> </ul>                                                  |

## 竹田市教育行政点検評価シート

### 1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（学校教育）

＜学校教育課＞

|                                  |                                                                                         |                    |                    |      |
|----------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|--------------------|--------------------|------|
| 基本目標                             | 夢に向かって挑戦し自己実現を図ろうとする力を育む教育の展開                                                           |                    |                    |      |
| 基本施策                             | 3. 体力向上・健康教育の充実                                                                         |                    |                    |      |
| 主要施策                             | ① 生活習慣を整える取組                                                                            |                    |                    |      |
| 成 果 指 標 に 対 す る 自 己 評 価          |                                                                                         |                    |                    |      |
| 成果指標の名称                          | 単位                                                                                      | R5実績値              | R7目標値              | 自己評価 |
| 全国学力・学習状況調査における「朝食を毎日食べる」児童生徒の割合 | %                                                                                       | 小：81.1%<br>中：80.8% | 小：89%以上<br>中：91%以上 | B    |
| 評価理由                             | 生活習慣を振り返る「生活 TOP10」の一つとして、毎年調査を行っていた時期に比べ、「毎朝食べている」児童生徒の割合は下がっており、小学校・中学校ともに目標値に達していない。 |                    |                    |      |

## 2. 令和5年度の主な取組み（前年度の課題対応を含む）

| 主要な事務<br>事業名称          | 取 り 組 み 内 容                                                                         |                                                                                 |
|------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|
|                        | 事業概要                                                                                | 成 果                                                                             |
| 生活の決まりの徹底              | 県教育庁が提示している学校評価の4点セットをもとに、各校が生活の決まりの中での弱みについて重点化したうえで、具体的な取組指標を設定して生活指導を進めた。        | 生活習慣を整えるために、具体的な取組指標を設定し、定期的に検証・改善を繰り返し、粘り強い指導と支援を継続している。                       |
| 保護者に連携・協力を求め生活習慣を整える取組 | 各校における基本的な生活習慣上の課題については、学校運営協議会や保護者懇談会の中で、保護者・地域とも目標を共有しながら、学校・家庭・地域一体となって取組を進めている。 | どの学校も、「朝食を毎日食べる」の項目だけでなく、生活習慣を整える取組を保護者と協力して取組んでいる。強化月間を位置づけ、チェックをしながらの取組も見られる。 |

## 3. 今後の課題と方向性

| 主要な事務<br>事業名称          | 施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）                                                                                 |
|------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 生活の決まりの徹底              | 各学校で基本的な生活習慣上の課題を洗い出したうえで、学校ごとの重点項目を設定し、児童生徒の生活習慣維持及び改善に努めているが、朝食摂取率が低下したことから、校長会等の機会を活用して各学校への一層の啓発が必要である。 |
| 保護者に連携・協力を求め生活習慣を整える取組 | 引き続き保護者や地域との緊密な連携のもとに、児童生徒の生活習慣定着の取組をすすめるが、特に朝食摂取の重要性に鑑み保護者会や学校運営協議会等の場を利用して、朝食摂取の啓発に努める。                   |

# 竹田市教育行政点検評価シート

## 1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（学校教育）

＜学校教育課＞

|                                                            |                               |                                                  |                                              |      |
|------------------------------------------------------------|-------------------------------|--------------------------------------------------|----------------------------------------------|------|
| 基本目標                                                       | 夢に向かって挑戦し自己実現を図ろうとする力を育む教育の展開 |                                                  |                                              |      |
| 基本施策                                                       | 3. 体力向上・健康教育の充実               |                                                  |                                              |      |
| 主要施策                                                       | ② 体力向上の取組                     |                                                  |                                              |      |
| 成 果 指 標 に 対 す る 自 己 評 価                                    |                               |                                                  |                                              |      |
| 成果指標の名称                                                    | 単位                            | R 5実績値                                           | R 7目標値                                       | 自己評価 |
| 運 動 の 好 き な 児 童 生 徒 の 割 合<br>(全国体力・運動能力調査 小5・中2<br>「好き」のみ) | %                             | 小：男子75. 0%<br>女子54. 2%<br>中：男子65. 2%<br>女子52. 8% | 小：男子80%以上<br>女子70%以上<br>中：男子80%以上<br>女子60%以上 | B    |

|      |                                                                                                          |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 評価理由 | 「一校一実践」の取組や遊び集会等、楽しみながら体を動かす活動をどの学校も取り入れているが、小学校・中学校ともに目標値の達成していない。特に中学校は、体育の授業や部活動以外で、体を動かすことが少ない実態がある。 |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|

## 2. 令和5年度の主な取組み（前年度の課題対応を含む）

| 主要な事務<br>事業名称        | 取 り 組 み 内 容                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                  |
|----------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                      | 事業概要                                                                                                                              | 成 果                                                                                                                                                                              |
| 体力向上1校1実践の取組         | 竹田市体力向上推進会議が中心となり、引き続き体育の授業改善、児童生徒の体力向上に取り組んだ。各校では体力向上プランの中で、「1校1実践」として各校の児童生徒の体力に関する課題に応じた実践を設定し、年間にわたって実践を進めた。                  | 体力向上推進委員の授業公開や学校訪問指導を通して、経験の浅い教育の体育授業力向上に対する主体的な取組が見られる。                                                                                                                         |
| 体育指導教師の活用及び体育担当者会の開催 | 1学期に体育主任等研修会を実施した。竹田小学校に配置の体育専科教員が、示範授業を行ったのち授業の内容や盛り込まれた工夫等について協議を行った。<br><br>体育専科教員が全小学校を年に2回訪問し、単元計画の立て方や授業について実践的なアドバイスをを行った。 | 小規模校が多い本市においては、各校で互見授業を持つことが難しい。研修会のなかで体育専科教員が示す授業モデルを見学することにより、経験年数の浅い教員にとっては、自分の実践に取り入れる授業の工夫を探す機会となった。<br><br>体育専科が各校を訪問し、単元の設定から授業者と共に授業を組み立てていくことは特に若年の教員にとって授業改善の機会となっている。 |

## 3. 今後の課題と方向性

| 主要な事務事業名称            | 施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）                                                                                                |
|----------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 体力向上1校1実践の取組         | 引き続き県及び全国の体力調査を分析し、各校の課題となっている種目について「1校1実践」の取組の中で課題を克服できるよう取組を進める。その際体育専科教員が学校訪問をする折に、各校の体力の課題等についてアドバイスを受ける機会を設ける。        |
| 体育指導教師の活用及び体育担当者会の開催 | 引き続き体育専科教員による年2回の学校訪問を実施することにより、特に若年の教員の授業改善を図る。これまで「体育主任等研修会」としていた研修会を、「体育担当者等研修会」と改め、主任ばかりでなく幅広く体育の授業改善を望む教員が参加できるようにする。 |

# 竹田市教育行政点検評価シート

## 1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（学校教育）

＜学校教育課＞

|                         |                                                                                           |       |       |      |
|-------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|-------|-------|------|
| 基本目標                    | 夢に向かって挑戦し自己実現を図ろうとする力を育む教育の展開                                                             |       |       |      |
| 基本施策                    | 3. 体力向上・健康教育の充実                                                                           |       |       |      |
| 主要施策                    | ③ 食育・虫歯予防の取組                                                                              |       |       |      |
| 成 果 指 標 に 対 す る 自 己 評 価 |                                                                                           |       |       |      |
| 成果指標の名称                 | 単位                                                                                        | R5実績値 | R7目標値 | 自己評価 |
| むし歯保有者（DMF）             | 本/人                                                                                       | 0.71  | 0.9   | A    |
| 評価理由                    | フッ化物洗口や栄養教諭を活用した食育指導等、各学校の取組により、改善はしているが、目標値には達成していない。目標値を達成している学校もあるが、学校によって差があるのが現状である。 |       |       |      |

## 2. 令和5年度の主な取組み（前年度の課題対応を含む）

| 主要な事務<br>事業名称 | 取 り 組 み 内 容                                                                                                                                                                                    |                                                                                                       |
|---------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|               | 事業概要                                                                                                                                                                                           | 成 果                                                                                                   |
| 食育の推進         | 全小中学校に栄養教諭を派遣し、児童生徒の給食の状況を把握するとともに、「食に関する指導」を実施した。対象学年は小学校1・5年、中学校は1年または3年とし、「食のマナー」や「必要な栄養を意識した朝食」について学活や家庭科において授業を展開した。また地域の調理師を講師に招き、「和食」についての実習を実施し、その模様をケーブルテレビにより地域住民への食の啓発事業として撮影・放映した。 | 栄養教諭が各学校を訪問して具体的な授業として指導を展開することにより、児童生徒の食に関する意識を高めた。<br><br>地域講師と連携しての調理実習は、児童生徒の食に対する興味・関心の醸成につながった。 |
| 歯の健康指導の取組     | 学校歯科医師会及び学校薬剤師会の協力により、年間を通じて全小中学校でフッ化物洗口を実施した。                                                                                                                                                 | 学校行事等での休止はあったが、市内全小・中学校で継続的に取り組むことができた。                                                               |

## 3. 今後の課題と方向性

| 主要な事務<br>事業名称 | 施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）                                                                                                                                                                 |
|---------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 食育の推進         | 栄養教諭による「食の指導」は例年4月はじめの希望調査に始まり、3学期までの授業実施が軌道にのっている。本年度、3学期に年間の指導をふまえた「朝食に関するアンケート」を中学校1年生を対象に行い、「朝食の摂取」と「不定愁訴」との相関を探ろうとした。しかし、アンケートの標本数が少なく、クロス集計が難しかったため、次回からは全生徒を対象のアンケートに切り替えることを計画している。 |
| 歯の健康指導の取組     | 引き続きフッ化物洗口を全小中学校で進める。小学校に比して中学校の実施希望者数が少ないことから、保護者案内での文書を精査し、フッ化物洗口実施の啓発に努める。                                                                                                               |

# 竹田市教育行政点検評価シート

## 1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（学校教育）

＜学校教育課＞

|                         |                                                                                     |         |       |      |
|-------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|---------|-------|------|
| 基本目標                    | 夢に向かって挑戦し自己実現を図ろうとする力を育む教育の展開                                                       |         |       |      |
| 基本施策                    | 4．幼児教育の充実                                                                           |         |       |      |
| 主要施策                    | ① 幼児教育推進のための体制の構築                                                                   |         |       |      |
| 成 果 指 標 に 対 す る 自 己 評 価 |                                                                                     |         |       |      |
| 成果指標の名称                 | 単位                                                                                  | R5実績値   | R7目標値 | 自己評価 |
| 架け橋期のカリキュラムの作成率         | %                                                                                   | 100%（小） | 90%以上 | A    |
| 評価理由                    | モデルとなっている南部幼稚園・南部小学校ではカリキュラムが完成し、検証・改善の取組の最中である。その他のブロックも、南部幼稚園・南部小学校をモデルに作成を始めている。 |         |       |      |

## 2. 令和5年度の主な取組み（前年度の課題対処を含む）

| 主要な事務<br>事業名称 | 取 り 組 み 内 容                |                                                                      |
|---------------|----------------------------|----------------------------------------------------------------------|
|               | 事業概要                       | 成 果                                                                  |
| 幼小の連携         | 幼保こ小合同研修会をブロックごとに実施。       | 南部小学校、南部幼稚園、市内4ブロックで合同研修会を実施することができ、児童や幼児の様子をもとに、指導の重点について協議することができた |
| カリキュラムの作成     | 各小学校、幼稚園において架け橋期のカリキュラムの作成 | 令和6年4月に向けて各小学校および各幼稚園のカリキュラムの整備をすることができた。                            |

## 3. 今後の課題と方向性

| 主要な事務<br>事業名称 | 施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）                                                                                                                                                    |
|---------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 幼小の連携         | 架け橋期のカリキュラム（南部幼・小プラン）をもとに各校および各園において、架け橋プログラムのカリキュラムを作成できている。今後は実践検証のためにブロックごとで合同研修会を開催し、小学校と幼児教育施設が連携できるよう交流を進めていく。さらに、子どもたちのスムーズな接続のために、学校教育課は社会福祉課と連携し、専門家の派遣などを通じて支援をしていく。 |
| 幼児教育の質の向上     |                                                                                                                                                                                |

# 竹田市教育行政点検評価シート

## 1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（学校教育）

＜学校教育課＞

|                         |                                                       |        |          |      |
|-------------------------|-------------------------------------------------------|--------|----------|------|
| 基本目標                    | 夢に向かって挑戦し自己実現を図ろうとする力を育む教育の展開                         |        |          |      |
| 基本施策                    | 4．幼児教育の充実                                             |        |          |      |
| 主要施策                    | ② 関係機関との連携強化                                          |        |          |      |
| 成 果 指 標 に 対 す る 自 己 評 価 |                                                       |        |          |      |
| 成果指標の名称                 | 単位                                                    | R 5実績値 | R 7目標値   | 自己評価 |
| 作 業 療 法 士 の 派 遣 回 数     | 回                                                     | 4 5回   | 各校・園3回以上 | A    |
| 評 価 理 由                 | 作業療法士の活用が進み、昨年度より5園および2校増加した。訪問回数も達成し、取組を進めることができている。 |        |          |      |

## 2. 令和5年度の主な取組み（前年度の課題対応を含む）

| 主要な事務<br>事業名称         | 取 り 組 み 内 容                                             |                                                                                                |
|-----------------------|---------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                       | 事業概要                                                    | 成 果                                                                                            |
| 関係機関との連携による切れ目ない支援の充実 | 園児の発達の状況を把握し、保育・教育活動の改善のため、各幼稚園において年間3回、OT（作業療法士）を活用する。 | 公立幼稚園および小学校に述べ45回、OT（作業療法士、理学療法士、発達障害支援士など）派遣を実施し、子どもの発達の状況の把握と教員に対する研修や保護者に対する啓発資料の作成・配布を行った。 |

## 3. 今後の課題と方向性

| 主要な事務<br>事業名称         | 施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）                                                                                                                    |
|-----------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 関係機関との連携による切れ目ない支援の充実 | 令和5年度は切れ目のない支援に向けて、全幼児教育施設および全小学校1年生に向けて派遣を行うことができた。今後はさらに、職員研修への派遣、派遣時の保健師との連携など、5才児検診から小学校入学、進級まで期間を切れ目無く支援できるよう連携していきたい。また、その成果についてもまとめていく。 |



# 竹田市教育行政点検評価シート

## 1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（学校教育）

＜学校教育課＞

|                                     |                                                                                               |        |        |      |
|-------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|--------|--------|------|
| 基本目標                                | 夢に向かって挑戦し自己実現を図ろうとする力を育む教育の展開                                                                 |        |        |      |
| 基本施策                                | 5．特別支援教育の充実                                                                                   |        |        |      |
| 主要施策                                | ① 特別支援教育体制の充実                                                                                 |        |        |      |
| 成 果 指 標 に 対 す る 自 己 評 価             |                                                                                               |        |        |      |
| 成果指標の名称                             | 単位                                                                                            | R 5実績値 | R 7目標値 | 自己評価 |
| 「個別の指導計画」の作成率（通常学級の支援が必要な児童生徒への作成率） | %                                                                                             | 100%   | 100%   | A    |
| 評価理由                                | 「個別の指導計画」の作成率は達成している。竹田市特別支援ネットワーク会議の相談員だけでなく、個別の指導計画推進教員、臨床心理士などを活用し、各校ごとに計画を作成し、相談体制を整えている。 |        |        |      |

## 2. 令和5年度の主な取組み（前年度の課題対応を含む）

|                    |                                                    |                                                             |
|--------------------|----------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------|
| 主要な事務              | 取 り 組 み 内 容                                        |                                                             |
| 事業名称               | 事業概要                                               | 成 果                                                         |
| 竹田市特別支援ネットワーク会議の充実 | 必要に応じて、専門家を招聘して、教育相談会やケース会議を開催する。<br>個別の指導計画を作成する。 | 7件の相談に対し、専門家を招聘しケース会議を開催するとともに、個別の指導計画が新たに必要な児童生徒全員分を作成できた。 |

## 3. 今後の課題と方向性

|                    |                                                                                                                                                                                                                                                               |  |
|--------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 主要な事務              | 施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）                                                                                                                                                                                                                                   |  |
| 事業名称               |                                                                                                                                                                                                                                                               |  |
| 竹田市特別支援ネットワーク会議の充実 | 特別支援ネットワーク会議に係るケース会議については、大学教授、臨床心理士、家庭相談員、支援学校などのメンバーを揃え多角的に学校への支援を行っている。さらに2回の相談で時間が足りず、追加で1日実施した際も協力していただいている。各校のニーズは年々高まり、巡回相談や検査に関しても特別支援学校のコーディネーターや市の臨床心理士を活用し、相談体制を整えている。しかし、教育支援委員会の対象の児童生徒70名全てに関わることはできていない実態がある。特別支援ネットワーク会議および竹田市の相談体制を整える必要がある。 |  |



# 竹田市教育行政点検評価シート

## 1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（学校教育）

＜学校教育課＞

|                         |                                                                   |                   |            |      |
|-------------------------|-------------------------------------------------------------------|-------------------|------------|------|
| 基本目標                    | 夢に向かって挑戦し自己実現を図ろうとする力を育む教育の展開                                     |                   |            |      |
| 基本施策                    | 5. 特別支援教育の充実                                                      |                   |            |      |
| 主要施策                    | ② 教師の専門性の向上                                                       |                   |            |      |
| 成 果 指 標 に 対 す る 自 己 評 価 |                                                                   |                   |            |      |
| 成果指標の名称                 | 単位                                                                | R5実績値             | R7目標値      | 自己評価 |
| ① 校 内 研 修 の 実 施 回 数     | 回                                                                 | 28回<br>(1.8回／1学校) | ①各学校年間3回以上 | C    |
| ② オンデマンド研修への参加          | 回                                                                 | 14回<br>(0.09回／1人) | ②教師1人1回以上  | D    |
| 評価理由                    | 回数においては、各学校の裁量に任せたため、①・②ともに目標値には達成していない。<br>とくにオンデマンド研修参加への意識は低い。 |                   |            |      |

## 2. 令和5年度の主な取組み（前年度の課題対応を含む）

|               |                                                                                     |                                               |
|---------------|-------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------|
| 主要な事務<br>事業名称 | 取組み内容                                                                               |                                               |
|               | 事業概要                                                                                | 成果                                            |
| 特別支援教育研修の充実   | 教職員の専門性を高めるため、特別支援コーディネーター等研修を実施する。各校において校内研修の充実を啓発。巡回指導などで担任及び管理職などの同席および教育委員会の参加。 | 年間2回の研修会を実施した。各校に校内研修の実施を呼びかけ、個別の相談や情報共有は進んだ。 |

## 3. 今後の課題と方向性

|               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|---------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 主要な事務<br>事業名称 | 施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 特別支援教育研修の充実   | 竹田市教育支援委員会では、知的学級の申請において、「教科の評定が3以上」「当該学年の学習をしている」などの実態が報告された。また、医療との連携が見られない申請も多く見られた。巡回相談やケース会議においては、児童生徒の困りではなく、指導者の困りの相談に終始し、児童生徒の困りを把握していない相談も散見された。個別の指導計画の作成は進んでいるが、「児童の生徒の困り」や「保護者の願い」の把握など、特別支援教育の前提の研修時間が不足しており、人材育成が進んでいない実態がある。現状の研修や巡回相談などの体制を維持しつつ、各校において特別支援教育の研修を年間3回以上実施して、教職員の知識や技能の向上を図っていききたい。また、今後はそれぞれのキャリアステージに応じてオンデマンド研修などを活用していく。 |

# 竹田市教育行政点検評価シート

## 1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（学校教育）

＜教育総務課＞

|                         |                                                                                        |    |       |       |      |
|-------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------|----|-------|-------|------|
| 基本目標                    | 安全・安心な教育環境の確保                                                                          |    |       |       |      |
| 基本施策                    | 6. 学びを支える教育環境の整備・充実                                                                    |    |       |       |      |
| 主要施策                    | ① 安全安心な学校施設・設備の整備・充実                                                                   |    |       |       |      |
| 成 果 指 標 に 対 す る 自 己 評 価 |                                                                                        |    |       |       |      |
| 成果指標の名称                 |                                                                                        | 単位 | R5実績値 | R7目標値 | 自己評価 |
| 維持補修計画の実施率              |                                                                                        | %  | 50    | 100   | D    |
| 洋式トイレの整備率               |                                                                                        | %  | 50    | 70    | C    |
| 教室LED照明整備率              |                                                                                        | %  | 10    | 50    | D    |
| 評価理由                    | 校舎、体育館、プール等の項目ごとの短期的な維持補修計画、また洋式トイレ整備やエアコン設置にかかる個別の方針案を定めているが、財政的な事情により、大きな進捗がない状況にある。 |    |       |       |      |
|                         | 平成30年度に長寿命化計画が策定され、以後の事業計画をとりまとめているが、学校統廃合の課題に向けて協議が進められていることもあり、積極的な大規模改修着手に至っていない。   |    |       |       |      |

## 2. 令和5年度の主な取組み（前年度の課題対応を含む）

| 主要な事務<br>事業名称 | 取 り 組 み 内 容                                                                            |                                                                                                         |
|---------------|----------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|               | 事業概要                                                                                   | 成 果                                                                                                     |
| 施設の維持補修事業     | 年度当初に学校施設管理者と施設の状況を確認し点検を行う。また、学校管理者から施設改修要望箇所を聴取する。維持補修及び改修が必要な箇所を特定して、優先順位をつけ事業実施した。 | 限られた予算の中で、緊急度や安全面を考慮しつつ優先順位をつけ、事業実施することができた。<br><br>老朽化に伴う不具合等が見られる箇所も確認されたが、年次計画により予算措置を行い、対応することができた。 |
| 洋式トイレの整備      | 令和2年度創設の新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金により、繰越事業として令和3年度に改修を行ったが、令和5年度は実施していない。                 | —                                                                                                       |
| 教室LEDの照明整備    | 小中学校の教室の照明器具をLEDに交換することで、国の進める脱炭素化、省エネルギー化に資する。合わせて、修繕料、電気代の節約を図った。                    | 照明器具の交換、LED化を順次、可能な学校、箇所から行うことができた。                                                                     |

### 3. 今後の課題と方向性

|               |                                                                                                                                            |
|---------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 主要な事務<br>事業名称 | 施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）                                                                                                                |
| 施設の維持<br>補修事業 | 限られた予算での事業実施となるが、緊急度や安全面を考慮しつつ優先順位をつけ、実施する。                                                                                                |
| 洋式トイレ<br>の整備  | 国庫事業等を活用し、計画的にトイレの洋便化を図る。                                                                                                                  |
| 教室 LED<br>の整備 | 設備として改修工事が必要な箇所については今後計画的に取り組んでいく。<br>水銀灯の製造中止により屋内運動場の LED 化の緊急度が高くなっている。国庫補助事業を活用するために、教室の LED 化と合わせて計画を立てる必要があるが、リースでの対応も含めて早期着手の検討を行う。 |

## 竹田市教育行政点検評価シート

### 1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（学校教育）

＜教育総務課＞

|                         |                                                                                         |       |       |      |
|-------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|-------|-------|------|
| 基本目標                    | 安全・安心な教育環境の確保                                                                           |       |       |      |
| 基本施策                    | 6. 学びを支える教育環境の整備・充実                                                                     |       |       |      |
| 主要施策                    | ② ICT活用等教育環境の整備・充実                                                                      |       |       |      |
| 成 果 指 標 に 対 す る 自 己 評 価 |                                                                                         |       |       |      |
| 成果指標の名称                 | 単位                                                                                      | R5実績値 | R7目標値 | 自己評価 |
| 普通教室等における機器充足率          | %                                                                                       | 100   | 100   | A    |
| 評価理由                    | 小中学校の普通教室ほか特別教室や屋内運動場に、電子黒板機能を有する大型提示装置が整備済みであり、児童生徒への一人1台端末も完備し、授業等でICT機器が効果的に活用されている。 |       |       |      |

### 2. 令和5年度の主な取組み（前年度の課題対応を含む）

|               |                                                  |                                                                              |
|---------------|--------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|
| 主要な事務<br>事業名称 | 取組み内容                                            |                                                                              |
|               | 事業概要                                             | 成果                                                                           |
| ICT支援業務       | 児童生徒、教員のICT機器の利活用を支援し、スキルアップを援助するため、ICT支援員を配置した。 | 出前授業としてドローンを使用したプログラミング体験と操縦体験を市内の小学校5年生、中学校2年生を対象として実施するなど先端技術を体験させることができた。 |

### 3. 今後の課題と方向性

|               |                                                                                            |
|---------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|
| 主要な事務<br>事業名称 | 施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）                                                                |
| ・タブレット<br>の更新 | タブレットを導入して3年が経過した。タブレットの耐用年数が5年とした場合、遅くとも2年後には入れ替え作業に着手しなければならない。機種選定、資金計画を含め動向を注視する必要がある。 |

|                  |                                                                                                                                          |
|------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ・保護者への連絡ツールの更新   | 現在導入している保護者への連絡ツールは学校からの一方通行となっていることから、出欠席の連絡ができる機能などを備えたシステムへの移行を検討したい。                                                                 |
| ・パソコンルームのパソコンの更新 | パソコンルームで使用しているパソコンについては、耐用年数 5 年が経過しようとしている。文部科学省が今後のパソコンルームの在り方について、「ファブスペース」としての活用を求めていることから、動向を注視し、Society5.0 時代に対応した設備整備を行うことが必要である。 |

## 竹田市教育行政点検評価シート

### 1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（学校教育） < 竹田中央学校給食共同調理場 >

|                         |                                                                                                                          |       |       |      |
|-------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|-------|------|
| 基本目標                    | 安全・安心な教育環境の確保                                                                                                            |       |       |      |
| 基本施策                    | 6. 学びを支える教育環境の整備・充実                                                                                                      |       |       |      |
| 主要施策                    | ③学校給食の充実                                                                                                                 |       |       |      |
| 成 果 指 標 に 対 す る 自 己 評 価 |                                                                                                                          |       |       |      |
| 成果指標の名称                 | 単位                                                                                                                       | R5実績値 | R7目標値 | 自己評価 |
| 異物混入（危険物）の件数            | 件                                                                                                                        | 0     | 0     | A    |
| 評 価 理 由                 | 竹田中央と久住の2つの学校給食共同調理場管内において危険物の異物混入事案はなく、健康被害を及ぼすような混入事案の報告もなかった。各共同調理場において検収や調理段階で未然に13件の異物発見し適切な対応ができたことは、実施主体として評価できる。 |       |       |      |

### 2. 令和5年度の主な取組み（前年度の課題対応を含む）

| 主要な事務<br>事業名称 | 取 り 組 み 内 容                                                                                                                                 |                                                                                                                                                          |
|---------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|               | 事業概要                                                                                                                                        | 成 果                                                                                                                                                      |
| 学校給食共同調理場運営事業 | 学校給食は、栄養と安全が管理される必要あり、そのためには食品や処理されたものに異物を混入させないことである。しかし、大量調理の過程においては、予期せぬことで異物混入が発生している。学校給食法の規定に基づく学校給食衛生管理基準を踏まえ、異物混入対応マニュアルに沿って対応している。 | 異物混入対応マニュアルに沿って調理場では、検収や調理過程において目視等による確認を心掛けた。各調理場では白衣や帽子から髪の毛が見えないように着衣にも厳重に注意してきた。学校給食専門部会を学期ごとに開催し、衛生管理や異物混入時の対応について学校との連携を強化することで、危険物の異物混入を防ぐことができた。 |

### 3. 今後の課題と方向性

|               |                             |
|---------------|-----------------------------|
| 主要な事務<br>事業名称 | 施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む） |
|---------------|-----------------------------|

|               |                                                                                                             |
|---------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学校給食共同調理場運営事業 | 今後も学校給食法の規定に基づく学校給食衛生管理基準を踏まえ、研修などを通して職員全員で異物の発見に努めるとともに情報を共有し、異物混入対応マニュアルの再確認などの対策を講じながら安心安全な給食提供に向けて努力する。 |
|---------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

## 竹田市教育行政点検評価シート

### 1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（学校教育）

＜教育総務課＞

|                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |       |       |      |
|--------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|-------|------|
| 基本目標                     | 安全・安心な教育環境の確保                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |       |       |      |
| 基本施策                     | 6. 学びを支える教育環境の整備・充実                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |       |       |      |
| 主要施策                     | ④ 適正な学校規模への対応                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |       |       |      |
| 成 果 指 標 に 対 す る 自 己 評 価  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |       |       |      |
| 成果指標の名称                  | 単位                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | R5実績値 | R7目標値 | 自己評価 |
| 学校の在り方の方向性が決まった<br>学 校 数 | 校                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 3 校   | 6 校   | D    |
| 評 価 理 由                  | 令和5年4月から久住中学校、都野中学校は竹田中学校に統合され新たにスタートした。<br>城原小学校は、4月に自治会長会であいさつを行ったが、それ以降は説明会等もできず11月末に目標年度の延期のお知らせを送付した。2月に統合検討委員会を予定していたが、自治会長会会長名で中止の申出があったため中止となった。白丹小学校については、4月に久住地域、白丹自治会であいさつを行い、8月に保護者説明会、11月にPTAとの意見交換会を行った。統合に反対する内容の意見が多く出された。2月に統合検討委員会を行ったが、構成員のところで話がまとまらず不成立となった。直入中学校については、4月に自治会長会であいさつを行い、6月に小中合同の保護者説明会を行い、11月に直入中学校、直入小学校と別々にPTAとの意見交換会を行った。1月に直入地域意見交換会を行った。全ての意見交換会で前向きな意見はあまりなく、統合反対の意見が多く出された。2月に開催予定だった統合検討委員会は、自治会長会等の3団体の申出により中止となった。今年度も3校については、学校の在り方について方向性は見い出せず、統合検討委員会を立ち上げるまでに至らなかった。 |       |       |      |

### 2. 令和5年度の主な取組み（前年度の課題対応を含む）

| 主要な事務<br>事業名称 | 取 り 組 み 内 容                                                                                                                 |                                                                                                                                              |
|---------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|               | 事業概要                                                                                                                        | 成 果                                                                                                                                          |
| 適正な学校規模の方向性   | <p>小中学校の6校について、令和2年度実施のアンケート結果を基に、今後のあり方について協議し、教委委員会、総合教育会議で意思決定を行った。</p> <p>○今後の学校の在り方について、提案内容<br/>白丹小・・・久住小へ令和6年度統合</p> | <p>4校の学校保護者、中学校においては将来入学予定の小学校保護者、未就学児保護者、地域（自治会長）への説明会を行った。</p> <p>令和7年度に南部小学校への編入による統合と決定している菅生小学校については、保護者との協議を継続し、学校間の交流を進めてきたが、統合年度</p> |

|  |                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                              |
|--|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  | 城原小・・・竹田小へ令和6年度統合<br>菅生小・・・南部小へ令和6年度統合<br>久住中・・・竹田中へ令和5年4月統合<br>都野中・・・竹田中へ令和5年4月統合<br>直入中・・・竹田中へ令和6年度統合<br>市議会説明ののち、各学校保護者、未就学児保護者、地域（自治会長）への説明会を行った。 | の見直しは行われなかった。<br>白丹小学校は、統合検討委員会を行ったが不成立となった。<br>城原小学校は統合検討委員会を予定していたが自治会より中止の申出があったため開催に至らなかった。<br>直入中学校は、直入地域意見交換会を開催した。統合検討委員会を予定したが、自治会・存続を考える会・代表有志より申出が出されたので開催に至らなかった。 |
|--|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

### 3. 今後の課題と方向性

|                     |                                                                                        |
|---------------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 主要な事務<br>事業名称       | 施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）                                                            |
| 適正な学校<br>規模の方向<br>性 | 統合の方向性が決定していない3校（城原小・白丹小・直入中）について、保護者と地域住民参加の学校統合検討委員会を立ち上げ、その中で統合の方向性について検討していくことが必要。 |

## 竹田市教育行政点検評価シート

### 1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（学校教育）

＜学校教育課＞

|                          |                                                                                |        |        |      |
|--------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|--------|--------|------|
| 基本目標                     | 安全・安心な教育環境の確保                                                                  |        |        |      |
| 基本施策                     | 6. 学びを支える教育環境の整備・充実                                                            |        |        |      |
| 主要施策                     | ⑤ 地域とともにある学校づくりの推進                                                             |        |        |      |
| 成 果 指 標 に 対 す る 自 己 評 価  |                                                                                |        |        |      |
| 成果指標の名称                  | 単位                                                                             | R 5実績値 | R 7目標値 | 自己評価 |
| 学校運営協議会における作業部会<br>の 設 置 | %                                                                              | 100%   | 100%   | A    |
| 評 価 理 由                  | 学校運営協議会での「熟議」が定着してきており、「熟議」をするためにも少人数になるグループでの議論が必要であるため、全ての学校で作業部会の設置ができています。 |        |        |      |

### 2. 令和5年度の主な取組み（前年度の課題対応を含む）

|               |       |    |
|---------------|-------|----|
| 主要な事務<br>事業名称 | 取組み内容 |    |
|               | 事業概要  | 成果 |



|        |                                                                                                        |                                                                                                                                                      |
|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 課題への取組 | <p>学校運営協議会や公開授業を通して、地域の人々と課題や方針・目標を共有し、家庭や地域と一体となって取組を行う。</p> <p>部会を設け、喫緊の課題に焦点を当てるとともに、具体的な取組を行う。</p> | <p>学校運営協議会で部会を設けることを通して、地域の人々と喫緊の課題や焦点化した目標・方針を共有できている。学校行事を共に協議する場面も見られた。</p> <p>南部小学校の取組をモデルとした学校サポーターに関しては制度化し、様々な場面で地域が連携できる取組を行う学校も増えてきている。</p> |
|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

### 3. 今後の課題と方向性

|               |                                                                                                                                     |
|---------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 主要な事務<br>事業名称 | 施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）                                                                                                         |
| 課題への取組        | <p>学校運営協議会での熟議、保護者との懇談を通して、各学校の喫緊の課題の解決・改善に向けて、委員と対等な立場で取り組む会にしていける必要がある。そして、その取組を各校保護者や地域に向けて周知していく。</p> <p>地域協働活動推進員の活用を推進する。</p> |

## 竹田市教育行政点検評価シート

### 1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（学校教育）

＜学校教育課＞

|                         |                                                                             |                   |       |      |
|-------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|-------------------|-------|------|
| 基本目標                    | 安全・安心な教育環境の確保                                                               |                   |       |      |
| 基本施策                    | 6. 学びを支える教育環境の整備・充実                                                         |                   |       |      |
| 主要施策                    | ⑥ 市内高等学校への支援                                                                |                   |       |      |
| 成 果 指 標 に 対 す る 自 己 評 価 |                                                                             |                   |       |      |
| 成果指標の名称                 | 単位                                                                          | R5実績値             | R7目標値 | 自己評価 |
| 市内高校(3校)の体験入学・説明会への参加   | %                                                                           | 33.3 %<br>1 / 3 校 | 100%  | D    |
| 評価理由                    | 竹田高校へは、体験セミナーや体験入学等を通じて、学校に触れる機会はたくさんあるが、久住高原農業高校や稲葉学園への説明会や体験入学には、参加していない。 |                   |       |      |

### 2. 令和5年度の主な取組み（前年度の課題対応を含む）

|               |                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                  |
|---------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 主要な事務<br>事業名称 | 取 り 組 み 内 容                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                  |
|               | 事業概要                                                                                                                                                                     | 成 果                                                                                                                                              |
| 課題への取組        | <p>市内にある高等学校、大分県立竹田高等学校、大分県立久住高原農業高等学校、学校法人稲葉学園高等学校の3校の高等学校の教育内容や教育環境について、生徒や保護者に各高等学校の魅力伝える場をつくる、</p> <p>竹田高校の維持・発展に寄与することを目的とする、市長をトップに据えた「竹田高校の未来を輝かせる会」の取組を推進する。</p> | <p>中学生の竹田高校での体験セミナーを9回実施することができた。</p> <p>中学校の若手教職員向け高校ガイダンスでは竹田市内の高校を紹介することができた</p> <p>たけたん自学舎において、竹田高校の生徒がサポーターとして参加し、小学生や中学生に勉強を教える姿がみられた。</p> |

### 3. 今後の課題と方向性

|               |                                                                                                                         |
|---------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 主要な事務<br>事業名称 | 施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）                                                                                             |
| 課題への取<br>組    | 各高校の学校運営協議会等との連携によって、生徒・保護者に対して市内 3 校の特色ある教育活動、成果、進路先の周知徹底を図る。<br>久住高原農業高校と稲葉学園の学校説明会や体験入学に参加する。<br>地域クラブと高校の連携をすすめていく。 |

## 竹田市教育行政点検評価シート

### 1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（学校教育）

＜学校教育課＞

|                                                              |                                                                                                             |                |                             |      |
|--------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|-----------------------------|------|
| 基本目標                                                         | 安全・安心な教育環境の確保                                                                                               |                |                             |      |
| 基本施策                                                         | 7. いじめ・不登校・子どもの貧困等の対策の充実                                                                                    |                |                             |      |
| 主要施策                                                         | ① いじめ対策の充実                                                                                                  |                |                             |      |
| 成 果 指 標 に 対 す る 自 己 評 価                                      |                                                                                                             |                |                             |      |
| 成果指標の名称                                                      | 単位                                                                                                          | R5 実績値         | R 7 目標値                     | 自己評価 |
| い   じ   め   解   消   率<br>(児童生徒の問題行動に関する調査<br>前年度  解消件数/認知件数) | %                                                                                                           | 小：68％<br>中：61％ | 小・中ともに83以上<br>(R 1 全国解消率以上) | C    |
| 評   価   理   由                                                | 全ての学校で「いじめの見逃し0」に高い意識をもって取組み、日ごろの生徒指導や学級経営を通じて解消に向けて取り組んでいる。解消率は目標値には達成していないが、どの学校も解消に向けて、丁寧に慎重に取り組みを進めている。 |                |                             |      |

### 2. 令和5年度の主な取り組み（前年度の課題対応を含む）

|               |                                                                                                                                                             |                                                                                                                                        |
|---------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 主要な事務<br>事業名称 | 取 り 組 み 内 容                                                                                                                                                 |                                                                                                                                        |
|               | 事業概要                                                                                                                                                        | 成 果                                                                                                                                    |
| 未然防止対策        | 短時間で継続的に行う「人間関係づくりプログラム」を各校で引き続き実施した。年度初めには地域児童・生徒支援コーディネーターによる教育相談コーディネーター対象の「人間関係づくりプログラム研修」を行い、各校で行うプログラムの展開例を紹介した。<br>ネットいじめ等にも対応できるようネットリテラシー教育の充実を図る。 | 人間関係づくりプログラムの実施率が向上し、令和5年度2学期終了段階の調査では、全ての小中学校が毎週実施している。年度初めの教育相談コーディネーター等研修で実施した「人間関係づくりプログラム」の演習では、各校で展開するプログラムのイメージを各学校に持ち帰ることができた。 |
| 早期発見・<br>早期対応 | 「いじめはどの子ども、どの学校においても起こりうるもの」という認識のもと、引き続き「いじめ見逃しゼロ」を目指す。<br>令和5年に改定した「竹田市いじめ防止基本                                                                            | 全ての小中学校において、いじめが認知されていることから、教職員の中に「いじめ見逃しゼロ」の意識が定着しつつあることがうかがえる。<br>校長・所長会議で、組織的な対応の好事例を紹介す                                            |



|             |                                                            |                                                                                                                    |
|-------------|------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|             | 方針」を参考にしながら、各学校の基本方針の見直しや周知・徹底を図り、生徒指導主任等を中心とした組織的な対応に努める。 | ることによって、管理職を中心に組織的対応の重要性を再認識した。                                                                                    |
| 関係機関と連携した支援 | スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等関係機関と連携した支援の充実を図る。                | スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーとの協働による児相生徒支援が定着してきており、「県いじめ不登校調査」の2学期終了時における SC 及び SSW が対応した生徒指導上の相談等の件数は、令和4年に比して倍増している。 |

### 3. 今後の課題と方向性

| 主要な事務<br>事業名称       | 施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）                                                                                                 |  |
|---------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 未然防止対策              | 引き続き地域児童・生徒支援コーディネーターを各校に派遣し、教員研修等を行うことにより、より手軽で効果のある「短時間で継続的に行う人間関係づくりプログラム」の普及を目指す。                                       |  |
| 早期発見・<br>早期対応       | 適宜実施する「いじめに関するアンケート」や教職員による観察をより丁寧に展開することにより、「起きているいじめについては絶対に見逃さない」姿勢を貫く。教育委員会として各学期に行う生徒指導に係る学校訪問に加え、日常の各学校との連絡・報告を緊密に行う。 |  |
| 関係機関と<br>連携した支<br>援 | スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、社会福祉課と教育委員会が連携した児童生徒支援を、引き続き強力に進める。                                                                |  |

## 竹田市教育行政点検評価シート

### 1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（学校教育）

＜学校教育課＞

|                                                     |                                             |                                  |                |      |
|-----------------------------------------------------|---------------------------------------------|----------------------------------|----------------|------|
| 基本目標                                                | 安全・安心な教育環境の確保                               |                                  |                |      |
| 基本施策                                                | 7. いじめ・不登校・子どもの貧困等の対策の充実                    |                                  |                |      |
| 主要施策                                                | ② 不登校対策の充実                                  |                                  |                |      |
| 成 果 指 標 に 対 す る 自 己 評 価                             |                                             |                                  |                |      |
| 成果指標の名称                                             | 単位                                          | R5 実績値                           | R 7 目標値        | 自己評価 |
| 不登校児童生徒数<br>（前年度文科省「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸問題に関する調査」） | 人／<br>1000 人                                | 小 12.0（県 14.4）<br>中 59.0（県 63.4） | 小 4 以下<br>中 30 | D    |
| 評 価 理 由                                             | 不登校の要因は多様化しており、1000 人当たり不登校の発生数は、目標に達していない。 |                                  |                |      |

## 2. 令和5年度の主な取組み（前年度の課題対応を含む）

| 主要な事務<br>事業名称         | 取 り 組 み 内 容                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                              |
|-----------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                       | 事業概要                                                                                                                                                                                                                                       | 成 果                                                                                                                                                                                                                          |
| 未然防止対策                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「自己決定の場を与える」「自己存在感を与える」「共感的人間関係を育成する」という生徒指導の3機能を意識した授業づくり、認め合う学級・学校づくり、わかる授業を展開するとともに、「人間関係づくりプログラム」を積極的に展開した。</li> <li>・地域児童生徒支援コーディネーターを一層活用して、「人間関係づくりプログラム」の実践や不登校児童生徒に対する支援を推進する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学校において「新大分スタンダード」に基づく、生徒指導の3機能を意識した授業の展開に努めた。また、人間関係づくりプログラムについて、毎週実施している小中学校が令和5年2学期の段階で100%に達した。</li> <li>・地域児童生徒支援コーディネーターは各学校やサフランにおいて児童生徒の相談活動を行い、きめ細かな児童生徒支援に努めた。</li> </ul> |
| 早期発見・早期対応             | 学級集団の状況について調査するHyper-QUの各校における分析のタイミングで、校長会においてプロット図の看取り方について説明を加えた。年2回実施する調査を各校において分析することにより、学級や一人一人の実態と変容を把握し指導に活用した。                                                                                                                    | 学級集団の状況については、1回目に比べて2回目の結果で改善がみられた学級も多かった。                                                                                                                                                                                   |
| 学校復帰<br>社会復帰に向けた支援の充実 | 教育支援センター「サフラン」や、竹田中に設置した登校支援ルームにおいて、支援員が中心となり学校に行きづらかったり、クラスに入りづらかったりする児童生徒の学習支援及び相談活動を行った。                                                                                                                                                | サフランや登校支援ルームという学校やクラスとの緩衝地帯を経ることにより、学級や学校に復帰できた児童生徒もいる。                                                                                                                                                                      |

## 3. 今後の課題と方向性

| 主要な事務<br>事業名称         | 施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）                                                                                                                                                             |
|-----------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 未然防止対策                | これまでに築いてきた「人間関係づくりプログラム」に関する活動の広がりをさらに確実なものにするため、今年度新たに着任した不登校対応教員と地域児童生徒支援コーディネーターの連携のもとで、プログラムの一層の定着を図る。                                                                              |
| 早期発見・早期対応             | 不登校傾向を見せる児童生徒の状況については、学校と関係機関相互の早期の情報共有が不可欠である。学校からの確実な情報提供と、それを受けた月に一回のいじめ・不登校等対策連絡会議において、早期の対応ができるよう定期的な協議と連携を一層進める。                                                                  |
| 学校復帰<br>社会復帰に向けた支援の充実 | 竹田中に加えて登校支援ルームを竹田南部中学校にも設置することにより、登校しにくい生徒、クラスに入りにくい生徒への支援を強化する。不登校児童生徒であっても、「誰かが関わり、ひとりにしない」状態を目指す。年度当初の訪問により、竹田市のガイドラインに沿っていると判断されるフリースクールについては、教育委員会と校長の協議により、校長が通室を学校出席とみなす措置を継続する。 |

# 竹田市教育行政点検評価シート

## 1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（学校教育）

＜学校教育課＞

|                                       |                                                                               |        |        |      |
|---------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|--------|--------|------|
| 基本目標                                  | 安全・安心な教育環境の確保                                                                 |        |        |      |
| 基本施策                                  | 7. いじめ・不登校・子どもの貧困等の対策の充実                                                      |        |        |      |
| 主要施策                                  | ③ 子どもの貧困対策の充実                                                                 |        |        |      |
| 成 果 指 標 に 対 す る 自 己 評 価               |                                                                               |        |        |      |
| 成果指標の名称                               | 単位                                                                            | R 5実績値 | R 7目標値 | 自己評価 |
| 学校及び SSW 等から就学支援案件としてあがった家庭への就学援助費支給率 | %                                                                             | 100%   | 100%   | A    |
| 評 価 理 由                               | 学校からの情報や当該家庭から直接の連絡、SSW 等からの情報により貧困の状況を把握し、社会福祉課等との連携に基づいて、具体的な就学援助費の支給等を行った。 |        |        |      |

## 2. 令和5年度の主な取組み（前年度の課題対応を含む）

| 主要な事務<br>事業名称 | 取 り 組 み 内 容                                              |                                                                                                                             |
|---------------|----------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|               | 事業概要                                                     | 成 果                                                                                                                         |
| 早期発見・<br>早期対応 | 学校からの情報や福祉、SSW 等からの情報、家庭からの直接相談の内容について、相談に即応できる体制の充実を図る。 | 貧困の状況にあたり、あることが疑われたりする家庭について、ケース会議等を実施して即応できる体制をとった。                                                                        |
| 関係機関と連携した支援   | スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー・社会福祉課等との連携を強化する。                | 県教育事務所、社会福祉課・スクールソーシャルワーカー、地域児童生徒支援コーディネーター、サフラン、社会福祉課及び学校教育課との連絡会議を月に1回、サフラン、社会福祉課及び学校教育課との連絡会を週に1回継続することにより、連携の強化が図られている。 |

## 3. 今後の課題と方向性

| 主要な事務<br>事業名称 | 施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）                                                                                                                 |
|---------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 早期発見・<br>早期対応 | 経済的困難の状態にあっても就学支援の手続きが遅れる家庭もあり、家庭生活の不安定さから学校への行き渋りが発生する事案もある。こうした就学支援の状況（生活保護・準要保護）を的確に把握するには学校との緊密な連絡が不可欠であり、学校訪問やその他相談の機会等を活用して実態の把握に努める。 |
| 関係機関と連携した支援   | 家庭の情報については学校教育担当者だけでは把握が困難なため、引き続き生活保護担当者を含めた社会福祉課等関係機関との緊密な連携を図る。前述月に1回の連絡会議と週に一回の連絡会の他、あらゆる場面で情報の収集を行う。                                   |

# 竹田市教育行政点検評価シート

## 1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（学校教育）

＜学校教育課＞

|                          |                                                                    |        |        |      |
|--------------------------|--------------------------------------------------------------------|--------|--------|------|
| 基本目標                     | 安全・安心な教育環境の確保                                                      |        |        |      |
| 基本施策                     | ８．安全教育の充実                                                          |        |        |      |
| 主要施策                     | ① 防災教育の充実                                                          |        |        |      |
| 成 果 指 標 に 対 す る 自 己 評 価  |                                                                    |        |        |      |
| 成果指標の名称                  | 単位                                                                 | R 5実績値 | R 7目標値 | 自己評価 |
| 学校・園における地震・水害に対する避難訓練の実施 | %                                                                  | 100%   | 100%   | A    |
| 評価理由                     | 地震に対する避難訓練や地震による火事に対する避難訓練、水害に対する避難訓練等、各校の実態・課題に即した訓練が計画的に実施されている。 |        |        |      |

## 2. 令和5年度の主な取組み（前年度の課題対応を含む）

| 主要な事務<br>事業名称 | 取 り 組 み 内 容                                                                                                               |                                                                                                                |
|---------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|               | 事業概要                                                                                                                      | 成 果                                                                                                            |
| 防災教育の充実       | 災害時に適切な意思決定や行動選択ができるよう、各学校において実践的な防災教育を推進した。                                                                              | 児童生徒が、災害時に適切な意思決定や行動選択ができるよう、各学校において避難訓練などの実践的な場を通じて指導している。救急救命講習の全学校での実施はできなかったが、中学校での実施や主体的な保護者会での実施がなされている。 |
| 家庭や地域との連携     | 災害時の対応等について家庭や地域と共有するために、学校だよりやPTAに係る会の場での啓発をするとともに、災害時の引き取り訓練や登下校訓練、地域との共同訓練などを行った。また日ごろ地域の交通指導をしてくださっているボランティアと情報共有をした。 | 保護者と学校が意識を共有することにより、学校と家庭が連携して「安全」について考える機会となった。                                                               |

## 3. 今後の課題と方向性

| 主要な事務<br>事業名称 | 施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）                                                                    |
|---------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 防災教育の充実       | 竹田市消防局との連携のもとで、初期消火訓練、救命救急訓練の機会を増やす。あわせて災害にそなえたハザードマップについて教職員が再確認することを各学校に求める。                 |
| 家庭や地域との連携     | 児童生徒が災害時に適切な意思決定や行動選択ができるよう、家庭や地域と連携した防災教育を一層推進する。コロナ禍により休止し、昨年度再開した救命救急講習をできるだけ多くの小中学校で実施する。。 |

# 竹田市教育行政点検評価シート

## 1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（学校教育）

＜学校教育課＞

|                              |                                                               |       |       |      |
|------------------------------|---------------------------------------------------------------|-------|-------|------|
| 基本目標                         | 安全・安心な教育環境の確保                                                 |       |       |      |
| 基本施策                         | 8. 安全教育の充実                                                    |       |       |      |
| 主要施策                         | ② 防災対策等の推進                                                    |       |       |      |
| 成 果 指 標 に 対 す る 自 己 評 価      |                                                               |       |       |      |
| 成果指標の名称                      | 単位                                                            | R5実績値 | R7目標値 | 自己評価 |
| 地震及び水害対応について<br>危機管理マニュアルの策定 | %                                                             | 33%   | 100%  | D    |
| 評価理由                         | 地震・水害いずれかの危機管理マニュアルが策定されていても、地震・水害ともに整備されている学校は 1/3 にとどまっている。 |       |       |      |

## 2. 令和5年度の主な取組み（前年度の課題対応を含む）

| 主要な事務<br>事業名称 | 取組み内容                                                                                             |                                                         |
|---------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------|
|               | 事業概要                                                                                              | 成果                                                      |
| 防災対策の推進       | 防災対策の第一歩として、全小中学校が危機管理マニュアルを策定することを求める。中でも近年近隣の県・市町で被害が生じている地震と水害についての危機管理マニュアルの策定と各校教職員へ周知を徹底する。 | 各学校は、当該の危機管理マニュアルについて、地震・水害・雷への対応の策定に対して、全ての学校で見直しを行った。 |
| 家庭や地域との連携     | 学校だよりやPTAに係る会議の場を活用して、防災について周知することにより、学校と家庭が連携しながら児童生徒への指導を行う。                                    | 学校での防災学習の様子を、家庭には学校便り等で保護者や家庭に周知し、共有することができた。           |

## 3. 今後の課題と方向性

| 主要な事務<br>事業名称 | 施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）                                                                                                         |
|---------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 防災対策の推進       | 各校の危機管理マニュアルを見直し、特に水害及び地震については近年の近隣での被害に鑑み対応の確認を図る。さらに長期休業など比較的時間の取りやすい期間等を活用し、危機管理マニュアルの内容について周知徹底し、緊急時に教職員が「自分がどう動くか」についての意識を高める。 |
| 家庭や地域との連携     | 学校だよりやPTA等の集会等の機会、見守りボランティア等の会議の機会等を利用して、緊急時の登下校の方法や引き渡し方法について保護者や地域と共通認識をもつ。また、非常時のメール確認に備え、常時学校メールが保護者に伝わっているかを確認する。              |

# 竹田市教育行政点検評価シート

## 1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（学校教育）

＜学校教育課＞

|                             |                                                           |    |       |       |      |
|-----------------------------|-----------------------------------------------------------|----|-------|-------|------|
| 基本目標                        | 安全・安心な教育環境の確保                                             |    |       |       |      |
| 基本施策                        | 9. 学校の働き方改革の推進と教師の健康の保持・増進                                |    |       |       |      |
| 主要施策                        | ① 学校の働き方改革の推進                                             |    |       |       |      |
| 成 果 指 標 に 対 す る 自 己 評 価     |                                                           |    |       |       |      |
| 成果指標の名称                     |                                                           | 単位 | R5実績値 | R7目標値 | 自己評価 |
| 1 ヶ月の時間外勤務時間が<br>45 時間以上の教師 |                                                           | 人  | 29    | 5     | D    |
| 評価理由                        | 1 ヶ月の時間外勤務時間 45 時間以上の教師は、令和4年度は23人と減少したが、令和5年度は29人と増えたため。 |    |       |       |      |

## 2. 令和5年度の主な取組み（前年度の課題対応を含む）

| 主要な事務<br>事業名称 | 取組み内容                                                                 |                                                                                                                                                       |
|---------------|-----------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|               | 事業概要                                                                  | 課題                                                                                                                                                    |
| 学校の働き方改革の推進   | 全員が退庁時間を意識するような「見える化」の工夫。<br>校内労働安全衛生委員会の確実な実施。<br>月の中間での、時間外勤務時間の確認。 | 1ヶ月の時間外勤務時間45時間以上の教師は、令和4年度は、1ヶ月平均23人であったが、令和5年度は29人と増えてしまった。各学校で勤務実態計画にそった取り組みがなされているが、時間外勤務時間が多い教師は固定している傾向にある。また、経験の少ない教員の増加により、授業準備等に時間がかかる傾向がある。 |

## 3. 今後の課題と方向性

| 主要な事務<br>事業名称 | 施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）                                                                                                                                                                                  |
|---------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学校の働き方改革の推進   | 休日の部活動の地域クラブ移行の取組をすすめ、中学校の時間外勤務時間の縮減をめざすとともに、人材育成も合わせ、効果的・効率的な業務との向き合い方についても好事例の紹介等を行なっていく。また、校内労働安全衛生委員会の確実な実施と働きかたの見直しを継続させ、教師が教育活動に専念し、持てる資質能力を十分に発揮し、子どもたちに対して効果的な教育活動を行うことができるよう、今後もより一層の働き方改革の推進をしていく。 |



# 竹田市教育行政点検評価シート

## 1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（学校教育）

＜学校教育課＞

|                         |                                                                                 |        |        |      |
|-------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|--------|--------|------|
| 基本目標                    | 安全・安心な教育環境の確保                                                                   |        |        |      |
| 基本施策                    | 9. 学校の働き方改革の推進と教師の健康の保持・増進                                                      |        |        |      |
| 主要施策                    | ② 教師の健康保持・増進                                                                    |        |        |      |
| 成 果 指 標 に 対 す る 自 己 評 価 |                                                                                 |        |        |      |
| 成果指標の名称                 | 単位                                                                              | R 5実績値 | R 7目標値 | 自己評価 |
| 学期ごとの竹田市立学校職員安全衛生推進者研修  | %                                                                               | 66%    | 100%   | C    |
| 健 康 診 断 再 検 査 受 診 率     | %                                                                               | 100%   | 100%   | A    |
| 評 価 理 由                 | 9月～12月に竹田市立学校職員安全衛生推進者研修を設定できていない。<br>全教職員が健康診断を受診し、個別の声かけ等により要精密該当者も全員再受診している。 |        |        |      |

## 2. 令和5年度の主な取組み（前年度の課題対応を含む）

| 主要な事務<br>事業名称          | 取 り 組 み 内 容                                                |                                                                                                   |
|------------------------|------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                        | 事業概要                                                       | 成 果                                                                                               |
| 学期ごとの竹田市立学校職員安全衛生推進者研修 | 6月と2月に竹田市立学校職員安全衛生推進委員会を開催し、研修を行っているが、9月～12月に研修会を開催できなかった。 | それぞれの学校の様子を交流し、自校の取組に活かすとともに、「働きがい」や「多忙感」は個々によって異なること、そのために校内の安全衛生委員会がお互いの状況を把握することが大切であることを確認した。 |
| 教職員の健康診断               | 健康診断を受診し、要精密該当者は、再受診することによって健康に働き続けることができる。                | 全教職員が健康診断を受診し、要精密検査該当者も全員が再受診することによって病気の早期発見・早期治療に繋がっている。                                         |

## 3. 今後の課題と方向性

| 主要な事務<br>事業名称          | 施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）                               |
|------------------------|-----------------------------------------------------------|
| 学期ごとの竹田市立学校職員安全衛生推進者研修 | 9月～12月に竹田市全体で職員の働きかたについて振り返り、改善に向けての取組を推進することを確認する場を設定する。 |
| 教職員の健康診断               | 引き続き100%実施を呼びかけ、教職員の病気を早期発見し、治療に繋げていく。                    |

# 竹田市教育行政点検評価シート

## 1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（生涯学習・社会教育）

＜生涯学習課＞

|                         |                                                                                                                                                                                |        |        |      |
|-------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|--------|------|
| 基本目標                    | 多様な学習活動機会（内容・方法）の充実                                                                                                                                                            |        |        |      |
| 基本施策                    | 1. 心豊かな暮らしをつくるための学習活動                                                                                                                                                          |        |        |      |
| 主要施策                    | ① 青少年教育の充実                                                                                                                                                                     |        |        |      |
| 成 果 指 標 に 対 す る 自 己 評 価 |                                                                                                                                                                                |        |        |      |
| 成果指標の名称                 | 単位                                                                                                                                                                             | R 5実績値 | R 7目標値 | 自己評価 |
| ジュニアリーダーセミナー            | 回                                                                                                                                                                              | 7      | 5      | A    |
| 評 価 理 由                 | コロナ禍も落ち着き、令和5年度には7回の講座開催をすることができた。<br>参加児童達が校区を超えた仲間と活動する姿に、ジュニアリーダーセミナーを開催する意義を感じた。<br>また、地域の方の指導を得ることで、地域や年代を超えた交流も行えたことは成果であるとする。異なる学校や学年との活動を通じて、子ども達の大きく成長した姿を実感することができた。 |        |        |      |

## 2. 令和5年度の主な取組み（前年度の課題対応を含む）

| 主要な事務<br>事業名称           | 取 り 組 み 内 容                                                                           |                                                                                                                                                                                   |
|-------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                         | 事業概要                                                                                  | 成 果                                                                                                                                                                               |
| 青少年教育<br>（ジュニアリーダーセミナー） | 市内の各小学校4年～6年の児童が参加し、生活体験・自然体験等さまざまな活動教室を行う。参加児童が親睦・交流を深めることにより、心豊かな青少年の育成を図ることを目的とする。 | <p>ジュニアリーダーセミナー</p> <p>登録者数 25 人</p> <p>郷土料理づくりや着物の着付け体験においては、当時の人の生活様式などに触れ、新たな知識を得ることができた。竹田市の代表的なイベントである竹楽にかかわることで、地元運営者により、事業目的や開催の意義を聞く機会も作れ、竹田市が誇る郷土や観光などについて考える機会となった。</p> |

## 3. 今後の課題と方向性

| 主要な事務<br>事業名称           | 施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）                                                                                                                                                                                                                                              |
|-------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 青少年教育<br>（ジュニアリーダーセミナー） | <p>例年のように、違う学校の児童の集まりのため初めは緊張した空気感だったが、時間とともに打ち解け、他校の児童とともに活動する貴重な交流ができた。また、年間開催数も7回と通常に戻すことができた。トレッキングや観光イベントへの参画などを通じて、過去の生活様式を知る中で、現在の自分たち生活圏の自然や食育についても考える機会を得られた。</p> <p>令和6年度についても、「竹田の魅力」を身近に感じ、より「竹田の良さ」「竹田を好き」になってもらえる内容とすることを念頭に、地域の方々の協力を得ながら開催できるよう検討する。</p> |



# 竹田市教育行政点検評価シート

## 1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（生涯学習・社会教育）

＜生涯学習課＞

|                         |                                                                                            |    |       |       |      |
|-------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|----|-------|-------|------|
| 基本目標                    | 多様な学習活動機会（内容・方法）の充実                                                                        |    |       |       |      |
| 基本施策                    | 1. 心豊かな暮らしをつくるための学習活動                                                                      |    |       |       |      |
| 主要施策                    | ② 成人・高齢者の学習活動推進・支援                                                                         |    |       |       |      |
| 成 果 指 標 に 対 す る 自 己 評 価 |                                                                                            |    |       |       |      |
| 成果指標の名称                 |                                                                                            | 単位 | R5実績値 | R7目標値 | 自己評価 |
| 市 民 教 養 講 座             |                                                                                            | 回  | 10    | 8     | A    |
| 評 価 理 由                 | 全体的に参加人数の減少がみられたが、昨年よりも講座回数を増やし、受講生の学ぶことへの充実感を与えられた。10回の学習会を進めることで、多くの受講生からは満足の声を聞くことができた。 |    |       |       |      |

## 2. 令和5年度の主な取組み（前年度の課題対応を含む）

| 主要な事務<br>事業名称 | 取 り 組 み 内 容                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|---------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|               | 事業概要                                                                                                                                                                                                                                                                           | 成 果                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 竹田市民<br>教養大学  | <p>竹田市に在住する市民で、学習意欲のある者を対象に、生きがいのある充実した生活を営み、豊かな情緒を培うことを目的とする。</p> <p>5月 開講式 講演テーマ『健康長寿』</p> <p>6月 防災講座</p> <p>8月 竹田市人権を守る市民の集い</p> <p>10月 瀧廉太郎声楽コンクール歴史講座<br/>修学旅行（湯布院）</p> <p>11月 豊肥地区解放文化祭 鑑賞</p> <p>12月 クリスマスコンサート</p> <p>1月 詐欺被害防止講座</p> <p>2月 人権落語</p> <p>3月 生涯学習まつり</p> | <p>市民教養大学 受講生 合計 186 人</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・竹田学級 76 人 学習会 10 回開催</li> <li>・久住学級 33 人 学習会 7 回開催</li> <li>・直入学級 53 人 学習会 7 回開催</li> <li>・荻学級 24 人 学習会 6 回開催</li> </ul> <p>昨年と比べ、受講者の人数も増加した。また、受講生たちへ学習機会を提供するために、講座の回数を増やすことが出来た。昨年、音楽を取り入れた講座が好評だったことから、12 月にグランツつけたキナーレでクリスマスコンサートを行った。年代に合わせた曲の選択は参加者に大変好評であった。</p> <p>10 月の研修旅行は、各教室で場所を選択し、旅行を楽しむとともに、市外で多くのものを学ぶことが出来た。3 月の生涯学習まつりでは初の観劇を行い、参加者からは、良い刺激になったという感想もいただいた。1 年を通し、多様な講座を提供できた。</p> |

## 3. 今後の課題と方向性

|               |                             |
|---------------|-----------------------------|
| 主要な事務<br>事業名称 | 施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む） |
|---------------|-----------------------------|

|              |                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|--------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 竹田市民<br>教養大学 | <p>市民教養大学大学を開催することで、受講生が様々なことを学び、意識の改革をはかり、自身の自己啓発の場となっている。学ぶことは、生活を楽しく、充実させるためだけではなく、認知症予防として良い影響をもたらす。座学だけでなく音楽や寸劇などを積極的に取り込んでいくことが必要である。</p> <p>また、新規受講生の募集が課題となっており、参加者の固定化と高齢化に歯止めがかかっていない。これらを解決するために全年齢を対象にした教養大学としたが、今後も参加しやすい開催日や時間帯、テーマなど検討する必要がある。</p> |
|--------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

## 竹田市教育行政点検評価シート

### 1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（生涯学習・社会教育） <生涯学習課>

|                         |                                                                                               |       |       |      |
|-------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|-------|-------|------|
| 基本目標                    | 多様な学習活動機械（内容・方法）の充実                                                                           |       |       |      |
| 基本施策                    | 2．住みよい地域や職場をつくるための学習活動                                                                        |       |       |      |
| 主要施策                    | ① 人権学習の推進                                                                                     |       |       |      |
| 成 果 指 標 に 対 す る 自 己 評 価 |                                                                                               |       |       |      |
| 成果指標の名称                 | 単位                                                                                            | R5実績値 | R7目標値 | 自己評価 |
| 人権教育推進指導者養成講座受講<br>修了者  | 人                                                                                             | 14    | 25    | D    |
| 人権学習学級受講者               | 人                                                                                             | 330   | 600   | D    |
| 評 価 理 由                 | 人権教育推進指導員養成講座修了者、人権学習学級受講者数が目標値の 60%を超えることができなかった。ただし、養成講座修了者数は前年度から倍増しており各職場の参加者への理解は広がっている。 |       |       |      |

### 2. 令和5年度の主な取組み（前年度の課題対応を含む）

| 主要な事務<br>事業名称     | 取 り 組 み 内 容                                                                                                                                          |                                                                                                         |
|-------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                   | 事業概要                                                                                                                                                 | 成 果                                                                                                     |
| 人権教育推進<br>指導者養成講座 | <p>部落差別問題をはじめとするさまざまな人権問題解決のため、人権問題に深い認識を持った指導者を養成する目的で、行政職員を対象に年間6回の講座を開催する。</p> <p>内容は、講演・ワークショップ・フィールドワークにより差別意識の根絶をはかる。</p>                      | <p>参加者は各職場から23人の参加があったが、14人は受講を修了することができた。</p>                                                          |
| 学習学級              | <p>人権問題について系統的な学習を行い、地域や団体、職場での人権意識の高揚とリーダーの育成に期する目的で、自治会（公民館）・PTA・企業等に市報等で呼びかけを行い年間10回の講座を開催する。</p> <p>内容は、講演やワークショップを通じて人権・部落差別問題の解決にむけ、正しい理解と</p> | <p>今年度は、47人（事業所8人、学校15人、地区14人、市役所10人）の参加で人権学習学級を開催し延べ330人の参加があった。参加者は幅広い人権問題について正しい理解と認識を深めることができた。</p> |

|  |         |  |
|--|---------|--|
|  | 認識を深める。 |  |
|--|---------|--|

### 3. 今後の課題と方向性

| 主要な事務<br>事業名称         | 施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）                                                                        |
|-----------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 人権教育推進<br>指導者養成講<br>座 | 本年度の受講生は23人と目標値の25人を満たすことができず、各職場に人権問題の必要性を改めて理解してもらう必要がある。また、修了者は増加しているが講座に参加しやすい職場環境の改善も必要である。   |
| 人権学習学級                | 本年度の受講者は47人、延べ人数で330人であった。目標値の600人を10回の講座で達成することができなかった。講座回数を増やすことは難しいことから参集する団体数及び参加人数の見直しが課題である。 |

## 竹田市教育行政点検評価シート

### 1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（生涯学習・社会教育） ＜生涯学習課＞

|                         |                                                                                               |    |       |       |      |
|-------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|----|-------|-------|------|
| 基本目標                    | 多様な学習活動機械（内容・方法）の充実                                                                           |    |       |       |      |
| 基本施策                    | 2. 住みよい地域や職場をつくるための学習活動                                                                       |    |       |       |      |
| 主要施策                    | ② 地域活動参加の推進                                                                                   |    |       |       |      |
| 成 果 指 標 に 対 す る 自 己 評 価 |                                                                                               |    |       |       |      |
| 成果指標の名称                 |                                                                                               | 単位 | R5実績値 | R7目標値 | 自己評価 |
| PTA、企業等人権教育研修会          |                                                                                               | 人  | 903   | 1,700 | D    |
| 評価理由                    | 人権教育研修会の開催回数が増加したことは評価できる。しかし全ての学校、企業で開催されていないことは改善の必要がある。研修会の参加者人数も増加しており目標達成にむけた取り組みを継続したい。 |    |       |       |      |

### 2. 令和5年度の主な取組み（前年度の課題対応を含む）

| 主要な事務<br>事業名称            | 取 り 組 み 内 容                                                            |                                                                             |
|--------------------------|------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|
|                          | 事業概要                                                                   | 成 果                                                                         |
| 人権教育促進<br>のための講師<br>派遣事業 | 各課の関連事業所、市内の企業、学校、公民館、各種団体等が自主的に人権学習会等を実施する場合に講師を派遣し、人権に関する学習機会の拡充を図る。 | 人権学習会等は学校が6回、公民館分館等が2回と前年度の1回から増加し、参加者の人権に対する意識の高揚と啓発、人権問題についての知識の修得につながった。 |

### 3. 今後の課題と方向性

| 主要な事務<br>事業名称 | 施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む） |
|---------------|-----------------------------|
|---------------|-----------------------------|

|                          |                                                                                                                                                                           |
|--------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 人権教育促進<br>のための講師<br>派遣事業 | <p>小学校では、半数の学校で学習会等を開催し人権教育の促進がはかれた。しかし、中学校、企業及び事務所では学習会等を開催することが出来なかった。今後も粘り強く人権教育の必要性を機会があるごとに丁寧に説明し、人権教育の促進につなげる必要がある。</p> <p>また、各団体の管理者に啓発を行うことが必要であり、派遣事業の周知を行う。</p> |
|--------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

## 竹田市教育行政点検評価シート

### 1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（生涯学習・社会教育）

＜生涯学習課＞

|                         |                                                                                                                                                             |    |       |       |      |
|-------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|-------|-------|------|
| 基本目標                    | 多様な学習活動機会（内容・方法）の充実                                                                                                                                         |    |       |       |      |
| 基本施策                    | 3. 子どもの健全育成に取り組む学習活動                                                                                                                                        |    |       |       |      |
| 主要施策                    | ① 家庭教育の充実、地域と学校の連携推進                                                                                                                                        |    |       |       |      |
| 成 果 指 標 に 対 す る 自 己 評 価 |                                                                                                                                                             |    |       |       |      |
| 成果指標の名称                 |                                                                                                                                                             | 単位 | R5実績値 | R7目標値 | 自己評価 |
| 家 庭 教 育 講 演 会 等         |                                                                                                                                                             | 回  | 1     | 4     | D    |
| 評 価 理 由                 | 感染症の流行によって、親子で取り組む食育や体操教室など中止となっていた事業が令和4年度から再開傾向にある中、本事業については、令和5年度も保護者・指導者の希望等を考慮し、前年度同様ZOOMで開催することが出来た。講演はモニター越しであったが、幼稚園保護者の思いを共有できる場を提供できたことは一定の成果である。 |    |       |       |      |

### 2. 令和5年度の主な取組み（前年度の課題対応を含む）

| 主要な事務<br>事業名称 | 取組み内容                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                     |
|---------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|               | 事業概要                                                                                                                                                | 成果                                                                                                                                                                  |
| 家庭教育事業        | <p>公立幼稚園PTA連合会と共催で行う「家庭教育講演会」を、ZOOMにより開催。</p> <p>竹田市公立幼稚園（竹田幼稚園・南部幼稚園）2園の保護者を対象に実施した。</p> <p>・講師：柴田真佑氏</p> <p>・演目：「食べることは生きること」親から子へ・・・命のバトンタッチ</p> | <p>前年度の講演が有意義かつ好評であり、幼稚園指導者からの要望もあり本年も開催した。</p> <p>「乳幼児・児童等それぞれの時期における生活や食育を通じ、何を食べるかが生きる力の基礎となる事について保護者ととともに学ぶ」内容の講演を継続して行った。令和5年度も、保護者からは貴重な話が聞けたという声が多く聞かれた。</p> |

### 3. 今後の課題と方向性

| 主要な事務<br>事業名称 | 施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）                                                                                                                                                      |
|---------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 家庭教育          | <p>竹田市においても核家族化や地域社会とのつながりが希薄化している現状であること等から、子育ての悩みはより多様化しており、これを解決するため、家庭、地域、学校との連携が大切である。</p> <p>地域のサポートや交流を通じ、保護者のニーズに添えていけるよう継続して取り組んでいく。次年度は感染症も落ち着いたことにより、対面での開催を計画する。</p> |

# 竹田市教育行政点検評価シート

## 1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（生涯学習・社会教育） <生涯学習課>

|                         |                                                                            |        |         |      |
|-------------------------|----------------------------------------------------------------------------|--------|---------|------|
| 基本目標                    | 自発的学習活動を支えるための条件整備（人的・物的）の充実                                               |        |         |      |
| 基本施策                    | 4．自発的学習活動を支えるための条件の整備充実                                                    |        |         |      |
| 主要施策                    | ① 公民館・分館等その他教育施設の整備と活用推進                                                   |        |         |      |
| 成 果 指 標 に 対 す る 自 己 評 価 |                                                                            |        |         |      |
| 成果指標の名称                 | 単位                                                                         | R5実績値  | R7目標値   | 自己評価 |
| 公民館分館等施設利用者数            | 人                                                                          | 77,800 | 120,000 | C    |
| 評 価 理 由                 | 施設利用者は目標値の 65％未満と低調であった。ただし、前年度より 14,800 人増加し、公民館を学びの拠点とする取り組みは確実に推進されている。 |        |         |      |

## 2. 令和5年度の主な取り組み（前年度の課題対応を含む）

| 主要な事務<br>事業名称 | 取 り 組 み 内 容                                                                                               |                                                                                                                                                       |
|---------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|               | 事業概要                                                                                                      | 成 果                                                                                                                                                   |
| 公民館分館<br>教室事業 | 新型コロナウイルスが5類に移行されたことから3公民館、14公民館分館等で、幅広い年代層の人々が、地域の即した教育・学術・文化を学び、生きがいや健康づくり、仲間づくりができるように、場所や空間、教室等を提供する。 | 各公民館が地域の要望により教室を開催することで地域の活性化がはかれた。<br>また、3月に開催されました「生涯学習まつり」には各教室での成果を発表するため、前年度より多くの作品を展示することができた。                                                  |
| 中央公民館<br>教室事業 | 中央公民館には、「つどう」「まなぶ」「むすぶ」の基本的役割があり、その役割を意識した上で、住民に親しまれる事業展開を行った。<br>しかし、中央公民館が無い場合、グランツや公民館、分館等と協力し事業を行う。   | 令和5年度は初心者向けむけの「カメラ女子教室」を開催し、座学と実践編を行った。<br>講師には Release の佐藤智子さんをお迎えし8人の参加があった。<br>参加者はカメラの知識を習得するとともに、ジュニアリーダーセミナーの着付け教室とコラボして撮影を行うことで、よりカメラへの関心を深めた。 |

## 3. 今後の課題と方向性

| 主要な事務<br>事業名称 | 施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）                                                                            |
|---------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 公民館分館<br>教室事業 | 各公民館分館等では地域に根差した取り組みにより、市民を社会教育に誘う活動を行っている。地域に根差した活動は、参加者の固定化と事業のマンネリ化を招くため、新たな事業展開と利用者目線にそった検討が必要である。 |

|               |                                                                                                                                                                                                       |
|---------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 中央公民館<br>教室事業 | <p>中央公民館施設がない当市では、各公民館で実施している教室を住民に対し公開できるよう取り組む必要がある。</p> <p>中央公民館事業は昨年 1 講座のみで、利用者のニーズにあっているか再度検討する必要がある。また、各公民館分館等では Wi-Fi 整備が行われ、生涯学習の観点からスマホ教室、web を使った講座等を開催し、誰一人デジタル社会から取り残されない取り組みも必要である。</p> |
|---------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

## 竹田市教育行政点検評価シート

### 1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（生涯学習・社会教育）

＜図書館＞

|                         |                                                                                                                                                                                                  |       |       |      |
|-------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|-------|------|
| 基本目標                    | 自発的学習活動を支えるための条件整備（人的・物的）の充実                                                                                                                                                                     |       |       |      |
| 基本施策                    | 4．自発的学習活動を支えるための条件の整備充実                                                                                                                                                                          |       |       |      |
| 主要施策                    | ② 図書館サービスの充実                                                                                                                                                                                     |       |       |      |
| 成 果 指 標 に 対 す る 自 己 評 価 |                                                                                                                                                                                                  |       |       |      |
| 成果指標の名称                 | 単位                                                                                                                                                                                               | R5実績値 | R7目標値 | 自己評価 |
| 市民一人あたりの年間貸出冊数          | 冊                                                                                                                                                                                                | 3.92  | 7     | D    |
| 市民登録率                   | %                                                                                                                                                                                                | 35.0  | 35    | A    |
| 登録者（市民）一人あたりの貸出冊数       | 冊                                                                                                                                                                                                | 11.34 | 18    | C    |
| 評価理由                    | 令和5年度市民への年間貸出冊数は 75,084 冊で市民一人当たり 3.92 冊（目標に対して 56%の達成度で評価 D）、市民登録者数は 6,623 人で人口 19,138 人に対する登録率は 35.0%（目標に対して 100%の達成度で評価 A）、市民への総貸出冊数を登録者数で除した登録者（市民）一人あたりの貸出冊数は 11.34 冊（目標に対して 63%の達成度で評価 C）。 |       |       |      |

### 2. 令和5年度の主な取組み（前年度の課題対応を含む）

| 主要な事務<br>事業名称 | 取 り 組 み 内 容                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                               |
|---------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|               | 事業概要                                                                                                                                                                    | 成 果                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 図書館サービスの充実    | <p>◆第1次「竹田市子ども読書活動推進計画」推進の柱として、令和3年9月からスタートさせた「小学校への団体貸出」を継続した。令和5年度は11小学校を各4回巡回し、延べ4,840冊の貸し出しと回収を行った。また、市内全校への新図書館システム導入に伴い、夏休み期間中の貸出ができない状況を補うため市立図書館からの貸出を強化した。</p> | <p>・市立図書館における R5 年度の児童個人への延べ貸出人数は 1,896 人で、令和元年度と比較して 1,281 人、昨年度と比較して 584 人減少している。また、R5 年度の児童への延べ貸出冊数は 11,811 冊で、令和元年度と比較して 6,921 冊、昨年度と比較して 3,665 冊減少している。児童の来館が減少していることが背景にある。こうした活字離れの傾向に対処し市立図書館に来ることができない遠隔地の小学校に通う児童などが多くの本に親しむ機会を提供することができた意義は大い。</p> |



|  |                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                     |
|--|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  | <p>◆SNSのアカウントを開設</p> <p>5月21日の新図書館開館6周年の取組みとしてInstagramとXのアカウントを開設し、毎週水曜日の新着情報のほか、イベントや行事の様子などを情報発信した。</p>                                                                               | <p>・情報化社会に即応した新たな取組み。現在のフォロワー数は150人あまり。新しい情報伝達ツールとして徐々に浸透し利用拡大の一助となっている。</p>                                                                                                                                        |
|  | <p>◆3町図書室の支援</p> <p>・3ヶ月毎に、荻・久住・直入の図書室に設置している「竹田市立図書館コーナー」に概ね200冊ずつ新しい図書を配本と回収を行った。</p> <p>・毎月3町図書室を巡回し図書整理等の業務支援を行った。</p> <p>・行政連絡便を活用して3図書室と市立図書館の図書の運搬（貸出・返却）を行い、地域住民の利便性の向上を図った。</p> | <p>・図書購入予算のない3町図書室に定期的に新しい図書を配本するとともに、市立図書館まで来ることができない方への支援を行い、利用拡大を図った。</p> <p>・令和5年度中、荻駅交流館図書室で延べ735人・2,068冊、久住図書室で延べ252人・705冊、直入図書室で延べ195人・1,057冊を貸し出した。荻・直入図書室で昨年度と比較して大幅に向上している。特に直入図書室の貸出は昨年度の2倍以上になっている。</p> |

### 3. 今後の課題と方向性

| <p>主要な事務<br/>事業名称</p> | <p>施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）</p>                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|-----------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>図書館サービスの充実</p>     | <p>■学校及び学校図書館と連携して、市内11小学校への団体貸出と回収を継続する。</p> <p>■第2次竹田市子ども読書活動推進計画の策定と電子図書館の導入に向けた調査研究<br/>第1次の計画期間が令和6年度で終了するため、令和7年度から5年間の第2次計画を策定する。<br/>また、この計画の策定と並行して、市内の児童・生徒が各自タブレットを貸与されている状況を踏まえ、児童の活字離れに対応する新たなツールとして学校と連携した電子図書館の可能性についても調査研究を行う。</p> <p>■荻・久住・直入3町図書室の支援を継続</p> <p>■荻・久住・直入3図書室におけるイベントの開催</p> |

# 竹田市教育行政点検評価シート

## 1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（歴史・文化）

＜まちづくり文化財課＞

|                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |        |         |      |
|-------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|---------|------|
| 基本目標                    | 文化財の保存・活用と歴史・文化施設の充実                                                                                                                                                                                                                                                                                      |        |         |      |
| 基本施策                    | 1. 文化財保存・活用のための組織、仕組みの充実                                                                                                                                                                                                                                                                                  |        |         |      |
| 主要施策                    | ① 文化財理解のための学習機会の充実と保存・活用の組織づくり                                                                                                                                                                                                                                                                            |        |         |      |
| 成 果 指 標 に 対 す る 自 己 評 価 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |        |         |      |
| 成果指標の名称                 | 単位                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | R5実績値  | R7 目標値  | 自己評価 |
| 岡 城 跡 入 場 者 数           | 人                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 53,237 | 100,000 | D    |
| 講 座 等 実 施 回 数           | 回                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 76     | 24      | A    |
| 評価理由                    | 国指定史跡岡城跡の令和元年度の入場者は 70,000 人であったが、コロナ禍によって休業や各種の制限を余儀なくされ、令和3年度までの3年間に大きく減少した。また、令和5年度の年間入場者計は 53,237 人と、前年度の 54,604 人から 1,300 人余り減少して、目標値を下回っている。<br>講座については、小学生に対するこども学芸員事業や文化財資料活用モデル校選定事業を実施するほか、希望する市民等に対する説明会やガイド等にも積極的に取り組んでいる。歴史文化館に於いても、企画展示などにあわせたワークショップやギャラリートーク等を開催し、講座総回数は目標を大きく上回る76回に達した。 |        |         |      |

## 2. 令和5年度の主な取組み（前年度の課題対応を含む）

| 主要な事務事業名称    | 取 り 組 み 内 容                                                                                                   |                                                                                                                                    |
|--------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|              | 事業概要                                                                                                          | 成 果                                                                                                                                |
| 岡城跡整備工事      | <ul style="list-style-type: none"> <li>城内の通路舗装を実施し、登城客の利便性を高める。</li> </ul>                                    | <p>通路舗装4箇年目を実施、大手門木製階段から上の上り坂が改善したことで、大手門付近から東側の主要通路の舗装がほぼ完了した。</p> <p>令和6年度は、登城口から大手門木製階段までの登り坂部分の状況改善等を課題として、整備に取り組む計画としている。</p> |
| 岡城跡石垣周辺伐木・伐竹 | <ul style="list-style-type: none"> <li>石垣への被害が予想されるものや景観を悪くしている雑木、雑草の整理を継続的に実施。</li> </ul>                    | <p>令和5年度は、西の丸北側から近戸の周辺部分の伐採を実施。城下町からの眺望改善を行った。</p>                                                                                 |
| 子ども学芸員事業の実施  | <ul style="list-style-type: none"> <li>小学校の授業に子ども学芸員事業のプログラムを組み込み、古墳群に関する授業を実施。（まちづくり文化財課・歴史文化館合同）</li> </ul> | <p>令和5年度は、大分県立埋蔵文化財センターと協働し、菅生小学校児童を対象に、七ツ森古墳群に関する授業を実施。展示物を作成するとともに、研究の成果を大分市平和市民公園能楽堂で発表・展示した。さらに、竹田市歴史文化館においても展示した。</p>         |



|                  |                                                                             |                                                                                                                                                             |
|------------------|-----------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 文化財資料活用モデル校事業の実施 | <ul style="list-style-type: none"> <li>モデル校への文化財展示及び説明会（出前授業）の開催</li> </ul> | <p>令和5年度は、久住小学校に於いて実施。弥生時代から明治時代に至る歴史全般についての学習を市内のフィールドワークを交えて行った。</p> <p>また、校区の遺跡と遺物等について、歴史的背景を踏まえながら授業を実施。校内に市内各所の遺跡で出土した遺物を展示し、本物の文化財と身近に触れる機会を設けた。</p> |
| 岡城清掃の日の開催        | <ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティアによる岡城の清掃活動</li> </ul>          | <p>毎年「岡城清掃の日」に九州電力グループと市民協働で石垣清掃を実施している。令和5年度も九州電力グループ138名と市民ボランティア97名参加で秋の行楽シーズンに向けての清掃を行った。</p>                                                           |
| 岡城跡防災への取り組み      | <ul style="list-style-type: none"> <li>岡城跡駐車場崖面の状況調査</li> </ul>             | <p>岡城が阿蘇溶結凝灰岩により形成されていることを踏まえ、観覧ルート等の防護工事を行ってきた。令和3年度に行った駐車場急崖部の地質調査に続き、令和4年度には、防護工事の設計業務を実施し、工事方針説明会を行った。令和5年度は、工事着手し伐採等の駐車場急崖部の対策工事を行った。</p>              |

### 3. 今後の課題と方向性

| 主要な事務事業名称    | 施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）                                                                                                                                                                                        |
|--------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 岡城跡石垣の可視化    | <p>平成27年から積み重ねて来た支障木伐採・伐開による石垣の可視化については、引き続き行うことが岡城跡の魅力創出に非常に有効な方法であると確信している。伐開には大きな財源が必要であり、また、既に完了した部分の竹等の再度の繁茂についても除去に努める必要があるため、毎年必要な場所を見定めて、長期的に行っていく。令和5年度からは、城下町から見る岡城の眺望に着眼し、西の丸西側方向の伐開・景観改善にも取り組んでいる。</p> |
| 岡城清掃の日の開催    | <p>多くの竹田市民の誇りである岡城跡の美化に、市民の皆様にも携わっていただく機会を作り、共に史跡を守る機運を高める。</p> <p>秋の行楽期を迎える前の10月第2土曜日を岡城清掃の日と定め、高石垣等についての美化作業も行ってもらえる九州電力との協力体制を維持しながら、継続的に美化作業を行っていく。</p>                                                        |
| 岡城跡安全確保対策の推進 | <p>現在は、岡城料金所裏崖面についての防災工事に着手している。今後2～3年をかけて、当該部分の安全性を高める工事を行っていく予定としている。</p> <p>また、引き続き危険箇所等をチェックしながら地震発生等に備える対策を講じる。</p>                                                                                           |
| 子ども学芸員事業の実施  | <p>子どもガイド養成の講座については、参加希望者数が少ないため、令和4年度から子ども学芸員事業へと移行。</p> <p>令和6年度は、城原小学校児童を対象に城原神社・岡大豆・城原井路に関する研究授業を実施予定。最終的には、子どもたちによる発表を行う計画としている。</p>                                                                          |

# 竹田市教育行政点検評価シート

## 1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（歴史・文化）

＜まちづくり文化財課＞

|                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |       |        |      |
|-------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|--------|------|
| 基本目標                    | 文化財の保存・活用と歴史・文化施設の充実                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |       |        |      |
| 基本施策                    | 1. 文化財保存・活用のための組織、仕組みの充実                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |       |        |      |
| 主要施策                    | ② 文化財保存活用地域計画の策定・推進                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |       |        |      |
| 成 果 指 標 に 対 す る 自 己 評 価 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |       |        |      |
| 成果指標の名称                 | 単位                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | R5実績値 | R7 目標値 | 自己評価 |
| 文化財の保存修理及び整備件数          | 件                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 18    | 5      | A    |
| 評 価 理 由                 | <p>令和4年12月開催の文化審議会文化財分科会において、「竹田市文化財保存活用地域計画」の認定について文化庁長官に答申、同日付で文化庁長官により認定された。</p> <p>竹田市の歴史文化の特徴・文化財の現状把握をするとともに、関連文化財群という概念のもと、わかりやすく整理し「竹田らしさを彩ってきた文化財を知る・守る・活かす」という基本理念を設定。</p> <p>文化財の保存・活用に関して竹田市が目指す将来的なビジョンや、具体的な事業等の実施計画及び保存活用に関する方針や措置を整理した。</p> <p>これに従って計画的な取組を進めることで、継続性・一貫性のある文化財の保存・活用を促進出来るようになった。</p> <p>令和5年度は、認定を受けた「竹田市文化財保存活用地域計画」に基づき、市内の文化財の保存修理及び整備を推進し、その文化財の保存修理及び整備件数は18件と目標値を上回っている。</p> |       |        |      |

## 2. 令和5年度の主な取組み（前年度の課題対応を含む）

| 主要な事務事業名称      | 取 り 組 み 内 容                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|----------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                | 事業概要                                                                                          | 成 果                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 文化財保存活用地域計画の推進 | <ul style="list-style-type: none"> <li>文化財の保存活用の推進</li> <li>竹田市歴史的風致維持向上計画（第2期）の策定</li> </ul> | <p>「竹田らしさを彩ってきた文化財を知る・守る・活かす」という基本理念にそって、市内小学校への出前授業や子ども学芸員養成講座、岡城跡をはじめとする文化財の保存活用（修復、景観整備、説明板等の設置）を実施した。</p> <p>また、関連計画である竹田市歴史的風致維持向上計画（第1期計画）が令和5年度最終年を迎え、第1期計画の最終評価を実施し、最終評価の内容を踏まえた第2期計画（計画期間：令和6年度～令和15年度）を交通拠点の整備や住環境の整備による回遊性の向上、空き家や空き店舗の利活用、デジタルコンテンツを活用した文化財の魅力向上の取り組みを行い、生活者、来訪者双方が、日常的に行きかう、情感あふれる竹田城下町を歩いて楽しめるまちづくりを目指し策定を行い、国の認定を受けた。</p> |

### 3. 今後の課題と方向性

| 主要な事務事業名称             | 施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|-----------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 竹田市文化財保存活用<br>地域計画の推進 | <p>令和4年度に、文化財の保存・活用に関する将来的なビジョンや具体的な事業計画を定める「文化財保存活用地域計画」の策定を行い、文化財の保存と活用に向けて全庁的に支援する仕組みを確立した。</p> <p>また、作成した計画を広く周知し、民間団体等の関係者のみならず地域住民の理解・協力を得ることにより、地域社会総がかりによる文化財を知る・守る・活かす取組を推進し、より充実した文化財の保存・活用を図っていく。</p> <p>令和5年度には、竹田市歴史的風致維持向上計画（第2期）を策定した。上位計画である竹田市総合計画や竹田市文化財保存活用地域計画と整合させながら文化財の保存活用に取り組む。</p> |

## 竹田市教育行政点検評価シート

### 1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（歴史・文化）

＜歴史文化館＞

|                         |                                                                                                                                                                                                                            |        |        |      |
|-------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|--------|------|
| 基本目標                    | 文化財の保存・活用と歴史・文化施設の充実                                                                                                                                                                                                       |        |        |      |
| 基本施策                    | 2. 歴史・文化施設の活用の充実                                                                                                                                                                                                           |        |        |      |
| 主要施策                    | ① 歴史文化館の事業の充実                                                                                                                                                                                                              |        |        |      |
| 成 果 指 標 に 対 す る 自 己 評 価 |                                                                                                                                                                                                                            |        |        |      |
| 成果指標の名称                 | 単位                                                                                                                                                                                                                         | R5実績値  | R7目標値  | 自己評価 |
| 歴 史 文 化 館 入 館 者 数       | 人                                                                                                                                                                                                                          | 15,137 | 10,000 | A    |
| 研 究 報 告 書 の 発 行         | 冊                                                                                                                                                                                                                          | 5      | 5      | A    |
| 評 価 理 由                 | 入館者数については、所蔵資料を中心として県内博物館・美術館等から重要文化財をはじめ様々な資料を借用して特別展・企画展をほぼ2か月毎に開催することができ、竹田市立歴史資料館時代に比べ大幅に増加し、また前年度から千人以上増加し、目標値をクリアすることができた。<br><br>また、展示解説図録や報告書等の発行については、展示や調査を着実に進めるとともに発信していくという意識をもちつつ目標に向けて取り組み、目標値をクリアすることができた。 |        |        |      |

### 2. 令和5年度の主な取組み（前年度の課題対処を含む）

| 主要な事務<br>事業名称 | 取 り 組 み 内 容                                                                                                                    |                                                                               |
|---------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|
|               | 事業概要                                                                                                                           | 成 果                                                                           |
| 学芸事業          | <ul style="list-style-type: none"> <li>史資料の燻蒸<br/>9/13～9/15 収蔵庫A燻蒸</li> <li>市民ギャラリーの活用<br/>市美展、県美展巡回展をはじめ、15種の展示に活用</li> </ul> | <p>⇒所蔵資料及び寄託資料等の燻蒸は予定通り実施できた。資料整理も進められた。</p> <p>⇒市民ギャラリーは様々な分野の展示等に活用された。</p> |

|            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 特別展示事業     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別展・企画展の開催<br/>4/1～5/14 「おかしなどうぶつ」展<br/>5/20～7/23 「廉太郎と大吉」展<br/>7/28～8/27 「Japan Gallery Ⅲ」展<br/>9/2～10/22 「竹田の器と食文化」展<br/>10/28～12/17 「羽儀を整ふ」展<br/>12/23～3/3 「三宅山御鹿狩絵巻」展<br/>3/9～3/31 「圧巻の岡本依大コレクション」展</li> <li>・講演会<br/>11/23 野田菜生子（大分市美術館学芸員）<br/>「田能村竹田と花鳥図」30名<br/>市民ギャラリー</li> </ul> | <p>⇒市民をはじめ 15,137 人の来館者があった。<br/>各展示を様々な工夫をしながら予定通りに開催できたことにより、入館者の増加を図ることができた。また、重要文化財の公開実績を積み重ねることにより、博物館としての客観的な信頼を増すことができた。</p> <p>⇒参加者数を制限して先着順で募集した。定数を越える申し込みがあり、盛会だった。</p>                                                                                |
| 講座アーカイブス事業 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種講座等の開催<br/>教育現場と連携した学校出前授業・学校来館講座等を開催<br/>ワークショップは、16回開催</li> <li>・研究報告書等の発行<br/>図録・ガイドブック・展示報告を5冊</li> <li>・古文書等貴重資料デジタル化整備事業<br/>未撮影史料のデジタル化を推進</li> </ul>                                                                                                                             | <p>⇒来館した小・中・高校、特別支援学校に展示解説等を実施できた。</p> <p>⇒244 人の様々な年齢層の参加があった。また、各展示に関連したワークショップを実施したことも、市民をはじめ多くの人に興味・関心をもつきっかけともなった。</p> <p>⇒「羽儀を整ふ」展の展示解説図録、「三宅山御鹿狩絵巻」「圧巻の岡本依大コレクション」「竹田の鉄道 百年の歩み」のガイドブック、「Japan Gallery Ⅲ」報告書を作成することができた。</p> <p>⇒久住町民センター旧蔵資料等をデジタル化した。</p> |
| 運営管理       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・重要文化財公開許可の文化庁へ申請</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                | <p>⇒「羽儀を整ふ」展において、重要文化財 2 点を借用・展示することができた。</p>                                                                                                                                                                                                                     |

### 3. 今後の課題と方向性

| 主要な事務事業名称               | 施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|-------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 運営管理・学芸・特別展示・講座アーカイブス事業 | <p>竹田市歴史文化館・由学館は、岡城跡や旧城下町、旧竹田荘等を回遊する拠点となる施設として、竹田市の歴史・文化的特色を生かしたまちづくりや地域活性化・観光振興に寄与するような展示活動等を実施するとともに、竹田市の貴重な歴史・文化を次世代に継承していくような教育的普及活動もしなければならない。今後も、特別展・企画展の内容をさらに充実させリピーターを増やす努力とともに、来館講座や出前授業、子ども学芸員による展示をはじめ学校教育との連携をさらに図っていく必要がある。</p> <p>展覧会や調査研究を実施していくには、長期的な事業計画を作成する必要があり、計画にもとづき他の博物館・美術館と借用折衝を行い、連携事業を構築していく必要がある。重要文化財に指定されている美術品の公開実績を積み上げることも欠かせない。また、新たに購入や寄</p> |

|  |                                                                                                             |
|--|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  | 贈、寄託された資料をはじめ収蔵資料を様々な形で活用する方策を考えるとともに、展示や調査活動を着実に進めながら、研究紀要や展示解説図録、ガイドブック等の発行を通してしっかりと発信していかなければならないと考えている。 |
|--|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

## 竹田市教育行政点検評価シート

### 1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（歴史と文化）

＜生涯学習課＞

|                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |    |       |       |      |
|-------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|-------|-------|------|
| 基本目標                    | 文化芸術の振興                                                                                                                                                                                                                                                                                           |    |       |       |      |
| 基本施策                    | 3. 文化・芸術活動の支援、文化活動を通じた交流の拡大                                                                                                                                                                                                                                                                       |    |       |       |      |
| 主要施策                    | ① 市民による文化芸術活動の支援                                                                                                                                                                                                                                                                                  |    |       |       |      |
| 成 果 指 標 に 対 す る 自 己 評 価 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |    |       |       |      |
| 成果指標の名称                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 単位 | R5実績値 | R7目標値 | 自己評価 |
| 全日本高等学校声楽コンクール<br>応募者数  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 人  | 32    | 35    | B    |
| 評価理由                    | 本年度は、新型コロナウイルス感染症の感染状況や、第5類に分類されたこと等から、一部おもてなし事業を復活させ開催した。32名（28都道府県）の出場者（高校生）が参加し、声楽の研鑽とともに、全国の志を同じくする生徒同士の交流の場を提供することができた。<br><br>また、本年度は瀧廉太郎没後120年の年にあたり、コンクール期間中に廉太郎のピアノ曲を中心とした演奏会や、廉太郎の出身校である竹田小学校の児童による荒城の月「原曲」演奏の披露等を実施した。参加者である市民の皆さんとともに作曲家「瀧廉太郎」の功績を顕彰し、「文化水準の高いまちづくり」を継続する意識の高揚につながった。 |    |       |       |      |

### 2. 令和5年度の主な取組み（前年度の課題対応を含む）

| 主要な事務<br>事業名称 | 取組み内容                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                       |
|---------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|               | 事業概要                                                                                                                                                                                                                                                         | 成果                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 声楽コンクール       | <p>瀧廉太郎記念音楽祭は作曲家・瀧廉太郎を顕彰する事業として、昭和22年に創設された。廉太郎の偉業を後世に伝えるべく、メイン事業の「全日本高等学校声楽コンクール」は、声楽家を志す高校生の登竜門として毎年開催し、豊かに音楽を学び、育つ場所となることを目指している。</p> <p>本コンクールには、全国の都道府県各代表及び音楽姉妹都市代表が参加し、予選・本選を2日間で行う。</p> <p>瀧廉太郎作曲の課題曲及び自由曲を歌唱し、東京藝術大学教授をはじめとする審査員の審査を経て優勝者を決定する。</p> | <p>音楽祭メイン事業の「瀧廉太郎記念全日本高等学校声楽コンクール」を開催することにより、竹田市ゆかりの作曲家・瀧廉太郎の偉業を後世に伝えるとともに、芸術文化の薫り高い街づくりを推進、芸術文化振興に取り組む「竹田市」を参加者や関係者を通じて県内外に情報発信することができた。</p> <p>また、主催する「瀧廉太郎記念音楽祭実行委員会」には、文化活動を行う団体等が参加していることから、この事業を通じ各団体の活動をより充実したものとするとともに、市民や各種団体の連携を促進している。</p> |

|  |                                                                                                                                             |  |
|--|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
|  | <p>瀧廉太郎賞として第1位、第2位の出場者には、ウィーン留学助成金を贈り、翌年度のコンクールにおいて「ウィーン留学報告演奏会」を開催し、その成果を披露する。単に優劣を競うのみでなく、声楽家を志す高校生の成長を市民とともに見届ける「教育的なコンクール」を概念としている。</p> |  |
|--|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|

### 3. 今後の課題と方向性

| 主要な事務<br>事業名称  | 施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|----------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 全日本高等学校声楽コンクール | <p>① 西日本大会から全国大会に規模を拡大して32年が経過。旅費助成、宿泊費助成を廃止しても出場者数は例年の平均値を保っており、本コンクールを目指す全国の高校生にとって憧れの聖地と言われるまでに至った。しかしながら、未出場の県もまだ数県あり、合唱や声楽の「強豪校」と呼ばれる学校を中心に案内を発送しているものの、有意な結果は得られていない。引き続き、全国大会としての知名度の拡大、出場校の増加に向けて、今後も努力をしていかなくてはならない。</p> <p>② コンクール期間中の中入場者数が少ない。全国から集まるレベルの高い声楽の演奏をもっと竹田市民、特に小・中学生の鑑賞の機会を広げていく必要がある。</p> <p>③ 昨年は、コンクール最終日に、瀧廉太郎の出身校である竹田小学校の児童による「荒城の月「原曲」」の演奏を実施し、顕彰することができた。ここ数年、荒城の月「原曲」を顕彰する活動を行っているが、本コンクールは、「瀧廉太郎記念」を銘打つ全国コンクールであり、引き続き竹田市としては、原曲「荒城の月」を大事に顕彰していくことが求められている。</p> |

## 竹田市教育行政点検評価シート

### 1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（歴史・文化）

<生涯学習課>

|                         |                                                                                                                                                                                                     |       |       |      |
|-------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|-------|------|
| 基本目標                    | 文化芸術の振興                                                                                                                                                                                             |       |       |      |
| 基本施策                    | 3. 文化・芸術活動の支援、文化活動を通じた交流の拡大                                                                                                                                                                         |       |       |      |
| 主要施策                    | ② 文化芸術によるまちづくりの推進                                                                                                                                                                                   |       |       |      |
| 成 果 指 標 に 対 す る 自 己 評 価 |                                                                                                                                                                                                     |       |       |      |
| 成果指標の名称                 | 単位                                                                                                                                                                                                  | R5実績値 | R7目標値 | 自己評価 |
| 佐藤義美記念館入館者数             | 人                                                                                                                                                                                                   | 700   | 750   | B    |
| 評価理由                    | 竹田よしみ会と協同で行う事業（童謡祭や作詩コンクール）について、11月3日に童謡祭および作詩コンクール（表彰式）を開催し、佐藤義美の顕彰に取り組んだ。<br>令和2年度から城下町文化施設共通観覧利用券の販売を開始したことにより、観光客の回遊性の向上を図ることができている。共通券の認知度が上がり、今年度は入館者数が増加した。市報7月号に入館無料券を掲載し、夏休み中の小中学生をターゲットに集 |       |       |      |

|  |                        |
|--|------------------------|
|  | 客を図ったが、利用者は26名と低調であった。 |
|--|------------------------|

## 2. 令和5年度の主な取組み（前年度の課題対応を含む）

| 主要な事務<br>事業名称 | 取 り 組 み 内 容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|---------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|               | 事業概要                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 成 果                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 義美記念館<br>運営管理 | <p>「第35回さとうよしみ竹田童謡祭」</p> <p>「第35回佐藤義美賞竹田童謡作詩コンクール」</p> <p>日時：令和5年11月3日（金、文化の日）</p> <p>場所：竹田市総合文化ホール（廉太郎ホール）</p> <p>大分県内の小・中・高校学校に応募を呼びかけ「第35回佐藤義美賞竹田童謡作詩コンクール」を行った。表彰式において審査員の一人であり児童文学者の矢崎節夫氏に入賞者ひとりひとりの作詩に対して、講評をいただいた。また入賞者には、よしみ会より賞品が贈られた。</p> <p>「童謡コンサート」</p> <p>日時：令和5年11月3日（金、文化の日）</p> <p>場所：竹田市総合文化ホール（廉太郎ホール）</p> <p>「本との出会いひろば」</p> <p>日時：令和5年11月3日（金、文化の日）</p> <p>場所：竹田市総合文化ホール（創作広間）</p> <p>いずれも、竹田よしみ会と竹田市教育委員会<br/>で構成された「佐藤よしみ竹田童謡祭実行委員会」による民間団体と行政の共同事業であり、佐藤義美顕彰事業と親子で参加できるイベントを行っている。今年度は大分県教育庁社会教育課と共催で絵本の読み聞かせを行った。</p> | <p>童謡作詩コンクールは、校長会・広報誌等で周知し、応募数は395点となった。</p> <p>表彰式は、12名の入賞者に賞品と賞状が授与され子どもたちは受賞に対する満足感と貴重な体験の機会となった。</p> <p>童謡コンサートは「RENTARO 室内オーケストラ九州」を招き、義美の曲を楽しんだ。同時開催の「本との出会いひろば」では、大分県教育庁社会教育課と共催で絵本の読み聞かせを行い、参加者の親子から大変好評だった。</p> <p>義美記念館施設の環境整備については、定期的な清掃・草刈作業等を行い、安全で快適な記念館運営につながり来館者は快適に施設見学が出来た。</p> |

## 3. 今後の課題と方向性

| 主要な事務<br>事業名称 | 施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）                                                                                                                                                                                           |
|---------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 佐藤義美記念館運営管理   | <p>令和2年6月から販売を開始した「城下町文化施設共通観覧利用券」により、来館者数の増につながった。今後も周知・販売を継続し、来館者数増加に向けて努力するとともに、まちめぐり手形にも義美記念館を追加することによって、更なる来館者増加を目指す。</p> <p>また、市内の学校への社会見学の呼びかけを積極的に行い、地元である竹田市の児童が佐藤義美の功績を知り、作品に触れることによって、詩や童話・童謡に関心を持たせる。</p> |



# 竹田市教育行政点検評価シート

## 1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（スポーツ）

＜生涯学習課＞

|                         |                                                                                                                                                                           |    |       |       |      |
|-------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|-------|-------|------|
| 基本目標                    | スポーツを通じた人づくりと地域づくり                                                                                                                                                        |    |       |       |      |
| 基本施策                    | 1. 生涯にわたってスポーツに親しむ機運の醸成と環境整備                                                                                                                                              |    |       |       |      |
| 主要施策                    | ① 総合型地域スポーツクラブ等の推進・支援                                                                                                                                                     |    |       |       |      |
| 成 果 指 標 に 対 す る 自 己 評 価 |                                                                                                                                                                           |    |       |       |      |
| 成果指標の名称                 |                                                                                                                                                                           | 単位 | R5実績値 | R7目標値 | 自己評価 |
| 竹田スポレク教室数               |                                                                                                                                                                           | 教室 | 26    | 29    | B    |
| 評 価 理 由                 | 竹田スポーツ・レクリエーションクラブは誰もがスポーツに親しむことができる社会を実現するために、それぞれの体力や年齢、技術、興味・目的に応じて、いつでも、どこでも、だれでもできる生涯スポーツ活動の場として提供している。参加人数は令和4年度（23教室・346人）→令和5年度（26教室・370人）と前年度に比較し教室及び会員数は増加している。 |    |       |       |      |

## 2. 令和5年度の主な取組み（前年度の課題対応を含む）

| 主要な事務<br>事業名称   | 取 り 組 み 内 容          |                                                      |
|-----------------|----------------------|------------------------------------------------------|
|                 | 事業概要                 | 成 果                                                  |
| 県民すこやか<br>スポーツ祭 | 親子3世代のレクリエーションゲームの実施 | 全体的に人口の減少など、クラブの運営が厳しい状況となってきたが、ケーブルテレビを利用し広報活動を行った。 |
| 新規教室の開<br>催     | テニス教室の新規開催           | 昨年度はコロナの影響で教室数が減少したが、令和5年度は増加することができた。               |

## 3. 今後の課題と方向性

| 主要な事務<br>事業名称              | 施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）                                                                                                                                                                                       |
|----------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 竹田スポーツ・<br>レクリエーションク<br>ラブ | <p>竹田市の人口減少などによりクラブの運営が厳しい状況となっている。特に会員登録料等も含め自主財源確保が継続的な課題となっている。</p> <p>特定の競技だけでなく、競技人口が少ない団体の魅力の啓発や、市民が多くスポーツに関心を持てる環境が求められていることから広報活動などを積極的に行い、教室の周知等を行い会員数の増を図る。</p> <p>部活動の地域移行等にも積極的に協力し、会員400名以上をめざす。</p> |

# 竹田市教育行政点検評価シート

## 1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（スポーツ）

＜生涯学習課＞

|                         |                                    |    |       |       |      |
|-------------------------|------------------------------------|----|-------|-------|------|
| 基本目標                    | スポーツを通じた人づくりと地域づくり                 |    |       |       |      |
| 基本施策                    | 1. 生涯にわたってスポーツに親しむ機運の醸成と環境整備       |    |       |       |      |
| 主要施策                    | ② 市民スポーツを支える環境整備                   |    |       |       |      |
| 成 果 指 標 に 対 す る 自 己 評 価 |                                    |    |       |       |      |
| 成果指標の名称                 |                                    | 単位 | R5実績値 | R7目標値 | 自己評価 |
| 体育施設の施設整備               |                                    | 件  | 6     | 3     | A    |
| 評 価 理 由                 | 竹田市公共施設整備計画に基づき計画どおり事業の実施することができた。 |    |       |       |      |

## 2. 令和5年度の主な取組み（前年度の課題対応を含む）

| 主要な事務<br>事業名称                 | 取 り 組 み 内 容                                   |                                                                                              |
|-------------------------------|-----------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|
|                               | 事業概要                                          | 成 果                                                                                          |
| R5竹田市総合運動公園市民球場バックスクリーン塗装改修工事 | 市民球場バックスクリーンが経年劣化したことから、欠損部分の修繕及び鉄部分の錆止め等を実施。 | バックスクリーンの長寿命化を図ることができた。<br>また、試合中に注目されるバックスクリーンが全面塗装により綺麗になった事で利用者から気持ちよくプレーができるとの声をいただいている。 |

## 3. 今後の課題と方向性

| 主要な事務<br>事業名称 | 施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）                                                                                                             |
|---------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 体育施設改修        | 老朽化が進んでいる体育施設については、安全性の確保と長寿命化を図るため竹田市公共施設整備計画に基づき計画的な改修に取り組むとともに、利用の少ない施設や改修に多大な費用が掛かる施設については、点検などの結果をもとに利用者等と協議の上、取り壊しも含め施設の整理を行っていく。 |

# 竹田市教育行政点検評価シート

## 1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（スポーツ）

＜生涯学習課＞

|                         |                                                                   |         |         |      |
|-------------------------|-------------------------------------------------------------------|---------|---------|------|
| 基本目標                    | スポーツを通じた人づくりと地域づくり                                                |         |         |      |
| 基本施策                    | 1. 生涯にわたってスポーツに親しむ機運の醸成と環境整備                                      |         |         |      |
| 主要施策                    | ③ 各種大会、教室等の充実                                                     |         |         |      |
| 成 果 指 標 に 対 す る 自 己 評 価 |                                                                   |         |         |      |
| 成果指標の名称                 | 単位                                                                | R5実績値   | R7目標値   | 自己評価 |
| 体育施設利用者数                | 人                                                                 | 116,580 | 130,000 | B    |
| 評価理由                    | 体育施設利用者数は前年度より約 5,000 人増加しているが、令和 7 年目標値に達するには増加率をより向上させる必要があるため。 |         |         |      |

## 2. 令和5年度の主な取組み（前年度の課題対応を含む）

| 主要な事務<br>事業名称 | 取 り 組 み 内 容                                                                                                                                                  |                                                                                                                 |
|---------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|               | 事業概要                                                                                                                                                         | 成 果                                                                                                             |
| 各種大会の実施       | 第 30 回 B & G 直入カップバレーボール大会<br>第 19 回市民球技大会<br>第 30 回 ドリームゲームス in おぎ<br>第 76 回 県民スポーツ大会<br>第 76 回 竹田市駅伝競走大会<br>第 50 回 竹田市少年少女駅伝ロードレース大会<br>第 35 回 岡の里名水マラソン大会 | 新型コロナの 5 類移行により、市民を対象としたスポーツ行事、九州大会規模の選手権大会、各種教室など実施することができた。<br><br>スポーツに触れる機会を提供することで、スポーツに親しむ機運の醸成を図ることができた。 |
| 教室事業          | 陸上教室 九電工 大塚祥平選手ほか<br>ソフトボール教室 タカギ北九州<br>野球教室 大分 B リングス                                                                                                       | 競技団体と連携し、子ども達を対象とした教室を開催することができ、トップレベルの選手に触れる機会を提供できた。                                                          |

## 3. 今後の課題と方向性

| 主要な事務<br>事業名称 | 施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）                                                                                     |
|---------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 各種大会の実施       | 高齢化、人口減少により、これまでの各種大会の参加者数は減少傾向である。<br>より多くの市民が参加できるスポーツイベントとなるよう、市スポーツ協会や各競技団体等と連携を図り、開催方法の見直しなど大会開催の在り方を検討する。 |
| 教室事業          | ニーズに応じた教室事業の開催を検討していく。                                                                                          |

# 竹田市教育行政点検評価シート

## 1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（スポーツ）

＜生涯学習課＞

|                         |                                                                      |       |       |      |
|-------------------------|----------------------------------------------------------------------|-------|-------|------|
| 基本目標                    | スポーツを通じた人づくりと地域づくり                                                   |       |       |      |
| 基本施策                    | 1. 市民が生涯にわたってスポーツに親しむ機運の醸成と環境整備                                      |       |       |      |
| 主要施策                    | ④ 安心・安全な運動の充実                                                        |       |       |      |
| 成 果 指 標 に 対 す る 自 己 評 価 |                                                                      |       |       |      |
| 成果指標の名称                 | 単位                                                                   | R5実績値 | R7目標値 | 自己評価 |
| 竹田市主催<br>スポーツイベント事故ゼロ   | 件                                                                    | 0     | 0     | A    |
| 評 価 理 由                 | 各大会において医師、看護師及びAEDを配置し緊急時に対応できる体制を図った。イベントの実施に際しては、事前の注意喚起、安全管理を行った。 |       |       |      |

## 2. 令和5年度の主な取組み（前年度の課題対応を含む）

| 主要な事務<br>事業名称          | 取 り 組 み 内 容                                 |                                                       |
|------------------------|---------------------------------------------|-------------------------------------------------------|
|                        | 事業概要                                        | 成 果                                                   |
| 緊急時に対応<br>できる体制の<br>整備 | 大会開催時に応急処置用の医療品、AED の配置、必要に応じて医師、看護師の派遣を依頼。 | 医師、看護師と連携を図り体調不良の方へ適正な処置を行うなど、市主催大会は事故なく無事終了することができた。 |

## 3. 今後の課題と方向性

|                     |                                                                        |
|---------------------|------------------------------------------------------------------------|
| 主要な事務<br>事業名称       | 施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）                                            |
| 安全性確保<br>のための周<br>知 | 参加者が安全で身近にスポーツに携わることができるイベント運営を行う。<br>落雷対策などスポーツ実施の際に必要な安全対策について周知を行う。 |

## 《外部評価委員による評価意見》

——有識者（学識経験者）による評価及び自己評価に対する意見——

大分大学名誉教授

山崎 清男 委員

### 1. 教育委員会の運営・活動について

竹田市教育委員会は、「首長から独立した合議体の執行機関」として、教育長と4名の教育委員で構成され、竹田市の長期総合計画において策定された教育行政施策効果的かつ具体的に展開するために重要な機能を果たしているが、まず令和5年度の教育委員会の活動をみてみよう。

教育委員会の主なる職務権限は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき19項目規定されている。今年度の教育委員会会議は、定例会議が12回、臨時会議が1回開催されているが、開催に関してはほぼ例年通りといえよう。審議議題は29件、協議事項及び報告事項をあわせて17件である。審議議題は昨年度に比べ減少しているが、このことは、教育委員会が教育行政施策展開に関し消極的役割しか果たしていないということの意味しない。審議議題をみても内容は多様であり、教育委員会が竹田市の教育施策策定や展開に積極的にかかわっている姿が読み取れる。

教育委員会会議以外の活動であるが、学校等の訪問、総合教育会議への出席、各種会議・研修会への参加、その他行事への参加、各種委員の就任などその活動内容は多岐にわたる。学校等への訪問は、竹田市の教育活動の展開を直接「肌」で感じる機会にもなりうるので、今以上の、積極的訪問の機会確保が望まれる。学校等の訪問に関しては、単に訪問するというのではなく、事務局の協力のもと、今日の学校教育等が内包する問題点などの事前準備に関する学習を行い、学校等がおかれた状況を理解し学校等の訪問に臨むことが求められる。このようなやり方は、竹田市教育行政施策の策定に際し、効果的な策定方法を提示するように思われる。

総合教育会議は、教育行政施策策定及び展開に関する重要会議であるといえよう。総合教育会議に出席し、意見を開陳することは、竹田市教育行政施策展開にとって不可欠なことであるといえよう。今年度は竹田市教育推進大綱の改定や、同じく今年度実施された中学校の統合（適正配置）に関し、意見交換がなされるなど、市長部局と教育委員（会）間の共通認識（共通理解）がはかられていると思われる。換言すれば、市長部局と教育委員会が教育問題に関し共通理解を行い、協調を確立することにより、積極的な教育行政施策の展開が可能になると考えられる。その意味で、総合教育会議への出席とそこでの意見交換は重要である。それゆえ、可能であれば複数回の開催が望まれる。各種会議・研修会への積極的参加、さらに各種行事への出席は、教育委員としての役割遂行や教育委員としての「力量」形成に重要な意味を持っていると思われる。地域住民にも教育委員（会）の存在意義を理解してもらうためにも、今後のさらなる活動が期待される。

報告書の中で、教育委員が積極的に学校を訪問し、教育活動に関する知見を深めるための学習などを行っている様子が論述されているが、このような活動は教育委員の力量形成にとっても意味あることと思われる。また「人権問題」などの、現代的問題に積極的に取り組んでいる点も評価すべきである。

教育委員会事務局と教育委員が相互に連携・協力し、教育委員会の運営にあたっている姿がみられるが、さらに連携・協力の姿勢を深化させ効果的・効率的に教育施策を展開することが求められる。

### 2. 教育委員会実施施策（事務事業）について

#### ○学校教育

竹田市長期総合教育計画に示された学校教育の基本目標は、「夢に向かって挑戦し自己実現を図ろうとする力を育む教育の展開」と「安全・安心な教育環境の確保」である。変化が激しい現代社会において、このような変

化を前向きにとらえ、「社会や人生、生活を、人間ならではの感性を働かせてより豊かなもの」にするために、まさに「夢へ挑戦し自己実現を図ろうとする力」を育む学校教育を展開するため9項目の基本施策と、その施策推進に対する28項目の主要施策が策定されている。これらの施策を展開するため、竹田市教育委員会は33の成果指標を設定し、点検評価を実施している。以下その点検評価の内容をみていく。

昨年度と成果指標の内容及び評価指標数が若干異なっているので、簡単に比較することはできないが、学校教育の評価結果はA評価12項目(36.4%)、B評価6項目(18.2%)、C評価7項目(21.2%)、D評価8項目(24.2%)である。昨年度と大きく異なっているところは、A評価項目の割合の減少とD評価項目の割合の増大である。昨年度はA評価項目が全体の45.2%、D評価項目が0.32%であった。すでに述べたように、昨年度と成果指標が必ずしも同じではないので、単純に比較できないがまずD評価項目からみてみよう。「オンデマンド研修の参加」は、コロナ禍や働き方改革、さらには教師の専門性の向上を目指した教員研修改革の方策として策定されたものであると思われる。しかし、このような研修方法に関する意義や、研修実施に対する条件整備が十分になされていなかったことも考えられる。したがって、「当初」の成果を上げることができなかったといえよう。また「教師の働き方改革の推進」に関しても、昨年度はB評価であったのが今年度はD評価である。学校や児童生徒を取り巻く状況変化が、このような結果を招いたと考えられるが、「働きがいのある働き方改革」を念頭におきながら、「時間外勤務が多い教師は固定している傾向にある」等の理由を分析し、効果的な働き方改革の推進に努める必要がある。

「適正な学校規模への対応」は、いわゆる学校の適正配置(学校統廃合)に関する事項である。この問題は、地域住民や保護者等との対応をふまえながら推進していかなければならず、「簡単に」解決する問題ではないといえよう。地域住民や保護者等との合意形成のための、さらなる「対話」が求められる。「不登校対策の充実」に関しては、不登校児童生徒数の減少に取り組む事項であるが、令和7年度の「目標値」に対する評価としてはD評価である。D評価ということで、教育行政関係者や学校関係者が何もしなかったというわけではない。「不登校問題」は複合的要素が関係しているので、解決は容易ではないといえるかもしれない。しかし関係者はそれぞれの立場から「不登校問題」解決に向けて、積極的に取り組んでいる事実は評価すべきである。

D評価項目に関しては「目標値」が数値で表されているがゆえに、数値という観点からのみ評価されているので、D評価がなされている項目もある。しかし、目標値達成に向かって様々な努力がなされている項目もみられる。したがって評価結果を分析、検証しながらその問題点を明らかにしつつ、改善点を模索する作業が必要になるとと思われる。

学校教育において、「学力」は重要事項の1つである。成果指標である「竹田市標準学力調査」は、昨年度と同様C評価である。全国平均を上回る教科数が小学校11教科中5教科、中学校10教科中ゼロ教科という結果である。このような状況をふまえると、中学校の学力向上は喫緊の課題であるといえよう(令和7年度目標値は小学校が全国平均以上の教科数が11教科8教科以上、中学校が全国平均以上の教科数が10教科中10教科)。さまざまな研修の機会を利用して、「わかりやすい授業」の実施等教員の授業力向上や授業改善、換言すれば教員の力量形成に努めつつ、児童生徒の学力向上の方策が考えられねばならない。

## ○生涯学習・社会教育

竹田市長期総合教育計画における生涯学習・社会教育に関する基本目標は、「多様な学習機会(内容・方法)の充実」と「自発的学習活動を支えるための条件整備(人的・物的)の充実」である。この基本目標の実現に向けて、3つの基本施策とその施策実現に向けて5項目の主要施策が策定されている。そしてこれらの主要施策を展開するために、10の成果指標が設定されている。今年度の成果指標に対する評価はA評価3項目(30.0%)、B評価ゼロ項目(0.0%)、C評価2項目(20.0%)、D評価5項目(50.0%)である。成果指標が少ないので、この評価のみで生涯学習・社会教育に対する「評価」をくだすのは若干問題があると思われるが、昨年度はA評

価が1項目であったが、今年度は3項目みられた。内容は「ジュニアリーダーセミナー」開催回数、「市民教養講座」開催回数、図書館サービスの充実における「市民登録率」である。今年度 A 評価が見られたこれらの評価結果を詳細に分析・検証し、その結果を他項目の活動展開に活用することが求められる。

反面、昨年度は皆無であった D 評価が、今年度は5項目となっている。内容は「人権教育推進指導者数や人権学習受講者数」、「家庭教育講演会開催回数」、「図書館の貸し出し冊数」に関するものである。さまざまな人権問題が生起している今日、人権教育や人権学習は全市的に取り組むべき事項である。これらの項目はなぜ目標が達成されなかったのか、その原因等を丁寧に分析・検証し来年度以降のプログラム作成の基礎資料とすることが求められる。また家庭教育講演会はコロナ禍の影響で、計画通り開催不可能な側面もあったと思われる。一般的に言えば、生涯学習・社会教育に関する評価は「コロナ禍」の影響を受けやすいと考えられる。理由は、「集まる(集める)」生涯学習・社会教育が主流を占めてきたからである。換言すれば講座開催回数や参加人数など、単純に数値化できる実績で評価されがちであったといえよう。ICT 技術等が発達し、さまざまな情報が入手容易な今日、単に「集める」生涯学習・社会教育から「とどける」生涯学習・社会教育という、生涯学習・社会教育への転換等が考えられねばならないと思われる。昨年度も指摘したことであるが、今後は講座開催回数や参加人数の多寡のみで評価するのではなく、活動展開のプロセスなどを重視した「形成的評価」等の視点を積極的に取り入れることが、十分に考慮されなくてはならないといえよう。

## ○歴史と文化

竹田市長期総合教育計画の中で示された歴史と文化に関する基本目標は、「文化財の保存・活用と歴史・文化施設の充実」と「文化芸術の振興」である。これらの基本目標のもとに、3つの基本施策とそれらをふまえた5つの主要施策が策定されている。成果指標は7項目設定されている。その評価内容は A 評価4項目(57.1%)、B 評価2項目(28.6%)、C 評価ゼロ項目(0.0%)、D 評価1項目(14.3%)である。昨年度 D 評価はなかったが、今年度は「岡城跡入場者数」が D 評価となっている(昨年度は B 評価であった)。

国指定史跡岡城跡の入場者数は、「コロナ禍」の影響により減少しているので、D 評価という結果になっている。これは評価理由にも記述されているように、「休業」や「各種の制限」によるものである。入場者数という「数」による評価結果であり、教育委員会関係者にその責任が転嫁されるものではないが、「定量」評価を用いる限り、このような結果になることは十分考えられる。今後は成果指標の見直し等を含めて、評価方法が十分に検討されねばならないと思われる。しかし、「歴史文化館入場者数」や「講座等実施回数」は A 評価である。これら A 評価項目の実施プロセスを分析・検討することにより、コロナ禍での問題点克服の方策を見出すことも可能になるといえよう。

いうまでもなく、竹田市は歴史ある文化都市といっても過言ではない。「文化都市竹田」を創造するためにも、基本目標である「文化財の保存・活用と歴史・文化施設の充実」および「文化芸術の振興」の実現のための方策を、現代的潮流や視点をふまえ新たに確立することが求められる。

## ○スポーツ

現代社会において、スポーツ活動は人々の生活に潤いを与える重要な役割を担っているといわれている。竹田市長期総合教育計画における基本目標は、「スポーツを通じた人づくりと地域づくり」である。この基本目標のもとに1つの基本施策と4つの主要施策が展開されている。評価対象の成果指標は4項目であるが、その内容は A 評価2項目(50.0%)、B 評価2項目(50.0%)である。今年度は、C 評価項目と D 評価項目は皆無である。B 評価である「体育施設利用者数」は、昨年度は A 評価である。昨年度に比べ今年度は利用者数が増大しているが B 評価であるのは、今年度の評価方法の変更によるものと思われる。「竹田スポレク教室数」は、昨年度同様 B 評価である。昨年度は23教室であったが、今年度は26教室開催され参加人数も増えている。関係者の努力の



結果であるといえよう。コロナ禍の影響から脱出し、今後教室数の増加が期待される。

すでに述べたように、現代社会において市民生活におけるスポーツ活動の重要性は、多方面から指摘されている。したがって、市民の生活に溶け込み、市民生活に潤いを持たすようなスポーツ活動はどうあるべきかという観点から、スポーツ活動に関する施策の展開が今後いっそう追求されねばならないと思われる。

今年度の竹田市長期総合教育計画における「点検評価」に関する自己評価結果は、A 評価 21 項目(38.9%)、B 評価 10 項目(18.5%)、C 評価 9 項目(16.7%)、D 評価 14 項目(25.9%)である。A 評価項目と B 評価項目を合わせると 57.4%であり、昨年度を下回る。その理由一つは、A 評価項目と B 評価項目の減少と D 評価項目の増加である。今年度はすでに述べたように、「点検評価」の方法が昨年度とは異なることもその大きな要因の一つに上げられると思われる。したがって、今年度は A 評価項目や B 評価項目が少ないという理由で、問題点が多々存在すると評価すべきではないといえよう。

ただ C 評価項目および D 評価項目に関しては、問題点を析出する作業を進め、改善点を追求することが必要である。言い換えれば、P-D-C-A サイクルを有効に活用しながら、今年度の評価結果をふまえて、来年度への改善点を展望することが望まれる。特に竹田市学校教育ビジョンは、取り組むべき学校教育活動が非常にわかりやすく示されていると思われる。このようなビジョンが「画餅」に終わることのないように、さらに有効に活用され学校教育の推進に生かされることが望まれる。

次に報告書の記述内容に関し、若干意見を述べさせていただく。ごく一部であるが評価理由が、評価理由になっていない記述がみられる。評価理由はなぜその項目が、評価基準に照らして A 評価なのか B 評価なのか、その理由を記述するものである。また事業概要はその事業の内容や取組の内容を示すものであるが、「事業」の内容をわかりやすく記述しているものと、事業内容を項目のみのきわめて概略的な記述で終わっている「事業」もみられる。また成果の記述も、成果ではなく事業の実施プロセスを記述しているものも存在する。

また今後の課題と方向性に関しては、次のことが指摘できる。一般に「問題」は解決すべき事柄とか対象を意味する。「課題」は、その問題を解決するために取り組むべき解決策であるといえよう。とするなら「今後の課題と方向性」に関する記述には、極めてあいまいな記述がみられるものもある。

的外れな意見になってしまった面も多々あると思いますが、何かの参考にしていただければと思います。事務局（担当者）の真摯な取組が表れている報告書です。興味を持って拝読しました。

## 1. 教育委員会の運営・活動について

令和6年度「竹田市教育行政に関する点検評価（令和5年度対象）」における「竹田市教育委員会の運営・活動状況」の報告ならびにその自己評価について、公開されている教育委員会会議録を参照しながら自己評価の記載項目にそって意見を述べる。

「教育委員会会議の審議」では、教育委員がそれぞれの立場や地域の抱える課題を捉え、住民や保護者の期待する教育の在り方等を論議している。月1回の定例会に加え、臨時会が1回開催されている。審議内容は通例の補正予算関連や「教科用図書の採択」などの国・県の動向に準じた議題の他に「就学援助費補助規定の一部改正」や「市立図書館条例施行規則の一部改正」など市独自の課題についても現状をふまえ、市民、保護者・児童生徒を主体として審議されている。運営面では、教育委員へのタブレット端末貸与により、充実した資料提供がされるようになったことは、評価すべき取組といえる。

なにより、教育委員会会議の会議録からは、今回も各教育委員の尽力されている姿がうかがえる。教育委員それぞれが経験豊かな分野や情報量の多い分野を中心に発言されていることで審議が深められている状況がうかがえた。多くの時間を費やして情報収集や考え方の整理をされて審議に臨まれており、職責に向かい合う姿勢には頭の下がる思いである。

「教育委員会会議以外の活動内容について」は、自己評価の文言が前年同様であることから、変わらず積極的参加がなされたと判断する。各教育委員の真摯な活動姿勢や情報共有への積極的対応が継続され素晴らしいと感じる。一方で、「課題対策」としての記述が前年同様であったり、R4年度(以降R4と表記する)の評価意見として提言のあった事項が1年あけてR6にむけた課題に挙げられたりするのはスピード感に欠けるように感じる。

人権啓発推進協議会をはじめ各種委員会に教育委員会を代表して参画したり、市民から教育委員へ相談が持ち込まれたりするようなので事務局との連携を密にし、関係各課と繋ぐ支援の継続は今後とも重要だと考える。

学校訪問にあたっては、学校訪問資料を早めに送付することで訪問時の意見交換が充実すると考える。今の教育に求められている授業スタイルや生徒指導の在り方、学校経営上の課題について意見交換が焦点化され、各校のその後の取り組みに生かされるよう事務局は事前準備を進めてもらいたい。ただ、そのために学校が過度な負担とならないようにすべきことは言うまでもない。

「その他教育委員会の運営について」の研修に関わっては、R4評価意見で「人権・部落差別解消推進に関する研修に加え、今後は時代を捉えた研修内容が求められるだろう。」と述べた例をあげた内容が、R6にむけた「課題対策」の欄に掲げられている。竹田市の子どもたち、学校現場、教育行政に関わって考えておきたいことを長期的視点で研修・論議する機会が求められていると思う。

竹田市教育委員会が、適正な学校規模への対応としてすすめている学校統合も様々な観点で論じておく必要があると考える。統合への手続きの在り方や統合後の子どもたちへの教育的支援はもちろん、廃校となる学校校舎・施設について教育財産活用することはできないかなども考えてみる必要はないだろうか。教育財産としてあるうちに教育活用することも含め、教育委員会で統合検討と併せて考えておくことも一考されたい。

## 2. 教育委員会実施施策（事務事業）について

施策（事務事業）の評価に関しては、まず全体的な評価方法の変更についての意見を述べ、その後、点検評価作業の流れを踏まえ、今回は担当課別に点検評価シートの記載内容について私なりの気づきを記すこととする。個人的見解や担当課の考え方との齟齬もあると思うが、取捨選択していただきながらも施策評価の見直しにつながる一助になれば幸いである。

R4の点検評価シートについては、「点検・評価・分析から今後の方向性の繋がりが分かりづらく、『効果』と『達成』の評点の判断指標や2つの相関が見えづらい。」という意見を添えた。また、成果指標の妥当性や成果指標の無い施策の評価の曖昧さについて指摘させていただいた。今回、シート様式を改訂し、すべての施策に評価の観点となる成果指標が設定されていること、自己評価のA～Dの評価基準が数値設定されたことは特筆すべき改善点と言える。

ただ、「成果指標」の在り方については再度検討していただきたい。「成果指標」であげられる内容は、評価の観点であると同時に目標に対する達成度をみることでできるものがよいと考える。今回の点検評価シートの成果指標の指標内容はその性質から大きく二つに分けられる。一つは、めざす姿に対してどの程度達成できているかという「目標に対する達成度」を示したものである。もう一つは、どの程度の取り組みができたかという「取組に対する達成度」を示したものである。例えば、「確かな学力の育成」が目標で、「学力調査の活用」を主要施策としている際に「学力調査結果の目標値」を指標とすることは目標に対する達成度を見ることができ。一方、「特別支援教育の充実」の一環で「教師の専門性の向上」を主要施策とし、その指標を「研修の実施回数」で設定しているのは取組に対する達成度といえ、専門性が向上したかは見えてこない。

取組の達成度が目標に向けての達成度に合致するのであれば問題はない。例えば、環境整備については取組が進めば進むほど整備状況はよくなると一般的には考えられるわけだから、取組の回数や率が指標で何ら問題はないと考える。しかし、取組の回数や率が目標達成度合と連動していると言い難い場合、あるいは目標達成に向けた一事例のみを指標としている場合は、点検・評価としては不十分と思われる。目標に対する達成度が見えるようにすることで「今後の課題や方向性」がはっきりしてくると思う。

### ■学校教育課担当施策の点検評価シートの中から

44 ある主要施策のうち 24 施策が学校教育課担当である。全体の 54.5%を占める。他の課からすると多いようにあるが、事務事業に携わる職員数は公立の幼稚園・小中学校の職員も含めれば多いし、もともになる「竹田市長期総合教育計画」自体が学校教育に関わる人が多い構成になっているから仕方ない。よって、評価意見も学校教育課分は多くなることは理解いただきたい。以下、基本目標にそって意見を述べていく。

#### ◇「夢に向かって挑戦し自己実現を図ろうとする力を育む教育の展開」の中から

##### 1. 確かな学力の育成

###### ①学びの基盤づくりの推進

R4評価に対して「市全体としての学習集団としての質の状況は、各校から報告される『学校評価』をもとに成果指標をつくって評価した方がよい。」と申し上げた。今回、その方向で指標が設定されたことで「学びの基盤づくり」がどの程度すすんでいるか見えやすくなった。そして、評価基準に照らして自己評価がされていることで、信頼度が高い評価になったと言える。ただ、各校の重点目標の達成度状況から指標の「学習習慣及び生活習慣の自己評価の肯定率」の実績値はどのようにして導かれたものかを記述しておくとうわかりやすいと思う。

この「学びの基盤づくり」は、学校や家庭の取組に頼るところが大きい。事務局は、学校へのプランの周知と状況確認だけでなく、家庭・地域へ働きかける施策が必要ではないだろうか。

## ②多様な他者と協働した探究的な学びの実践（③ICT 活用の推進含む）

これまで成果指標のなかったところに、今回「ICT の活用を含めた他校との交流授業」の実施回数が指標として設定された。ただ、この指標でよいのか再検討願いたい。「ICT 活用を核とした他者との交流」が長期総合教育計画の主要施策と合致するのだろうか。シグソー法以外の協調学習や T 授業が基本計画にあり、「交流」より「探究的な学び」について取り組みが進められるべきだと思う。

この項以外にも「事業概要」や「今後の方向」の中に ICT 活用を重視した傾向が強く感じられる。事務局の事務事業の進め方が ICT 偏重となっていないだろうか。一つの手段として否定はしないが、より多様な学び方を通して深い学びに繋げていくことを大事にもらいたい。

## ④学力調査の活用

中学校への取り組みを追加して記述すべき。

## 2. 豊かな心の育成

### ①人権・部落差別解消教育の推進

成果指標は職員研修実施率となっており、取り組みとしては A 評価となっている。研修の回数が少ないから回数を増やすというが、本来ここでの主要施策は教職員に対しての人権・部落差別解消教育の推進の取り組みよりも、学校での教育実践をどのように進めていくかを記すべきだと思う。

### ②竹田郷土学の実践

この項にも新たに成果指標が設定された。「総合的な学習の時間におけるゲストティーチャーの活用（率）」としているが、指標の見直しが必要だと考える。ゲストティーチャーを招かなければ郷土学が行えないわけではない。ゲストティーチャーにこだわる必要はない。そもそも「総合的な学習の時間」は探究活動が先行するものであり、その過程でゲストティーチャーが必要なら招聘するだけのことである。各学校が教育課程にどのような時間を使い、どの程度の時間数で位置付けて実践しているか、そして児童生徒にとって主体的・探究的な学習活動が行われたと指導者がどれくらい自認しているかを把握して評価に役立てていく方向で考えてはどうだろうか。

### ③道徳教育の充実

R4 点検評価が生かされ、成果指標に市教委として特に重視する観点が表されている。

教職員研修だと思われる「放課後学習会」については、勤務時間外を思わせるのでネーミングを変えた方がよい。ただ、この取り組みは、希望者によるサークル的学習会の性質が感じられる。指導主事主導のサークル的学習会であればきちんとした研修会に改めるべきであり、現状で参加者が限られているのであれば止めた方がよいと思う。県教育センターが担っているような研修機関の業務を竹田市教委が行える余裕はないと思う。竹田市が抱える課題に対応するための研修であれば開催方法を見直した方がよい。

### ④読書活動の推進

新たに指標と R7 に向けた目標値が設定されたが、「読書活動」を点検評価するにあたっては「愛好度」を指標とするだけでなく、「図書の利用度」も併せて見た方がよいと思う。

## 3. 体力向上・健康教育の充実

この基本施策における主要施策は、「①生活習慣を整える取組」「②体力向上の取組」「③食育・虫歯予防の取組」の 3 点である。①生活習慣を整える取組に成果指標と R7 目標値が設定されたことが新たな変更点で、他は「事業概要」を見る限り毎年同じ取組を継続し、次年度の「課題と方向性」も前年度と似たようなまとめ方になっている。これで状況が改善されていけば継続でよいが、そうでなければ取組を見直す必要がある。

①生活習慣を整える取組では、「朝食摂取率」を指標にしたが、それをもって生活習慣と捉えてよいものだろうか。生活習慣として自律的起床・就寝、睡眠なども考慮した指標設定はできないものだろうか。R7の目標値「小89%・中91%」の設定根拠がわからない。年齢が上がるにつれ摂取率が下がってくることに気を付けないといけないとの指摘があるが。

③食育の推進の「今後の課題と方向性」において、全生徒へのアンケートにより朝食の摂取と不定愁訴との相関をみるような記述がある。この相関はすでに数々研究報告がされている。保護者の摂取と子どもの摂取の相関などもすでに報告がある。改めて竹田市で全生徒を対象に調査を行う必要があるのだろうか。文部科学省「食生活学習教材中学年用指導書」には、「朝食については家庭の実態をもとに指導することから、例えば児童によっては保護者に朝食を作ってもらえない場合もあることなど、事前に児童の家庭の状況などについて十分に実態を把握しておき、児童の心情に配慮しながら指導しなければならない。」とある。今後の方向性は見直すべき。

虫歯予防の取組の項で、むし歯保有者数（DMF）の実績値がR4の1.02からR5は0.71と大きく改善されている。DMF歯数は、年齢とともに上がっていくことになるが、小中学生の平均値が大きく下がったということは調査対象から外れた中学卒業生と入学して調査対象となった小学1年生の差が大きかったからだろうか。背景を分析する必要がある。

#### 4. 幼児教育の充実

①幼児教育推進のための体制の構築については、成果指標がR4まで設定されていた内容から変更されている。竹田市長期総合教育計画にある指標を変更する理由は何か。R4までに目標がすでに達成され「A」評価であったのであれば上方修正と考えられるが、そうではない。単に事業にあわせた変更ではないか。カリキュラムは紙上の道標、連携の体制づくりを市教委がどうつくるかを基本に考えてほしい。園や小学校に連携する体制づくりを丸投げしては、園や学校の負担は重くなる。1園1小学校の連携ならまだしも、そうではない。園からすれば1園と複数小学校、小学校は複数園と連携体制をつくらなければならない。連携体制構築までの組織づくりなどは、公立と私立、教育管轄と福祉管轄の垣根を越えた連携をすすめる上で市教委事務局が調整していく方が動きをつくりやすいと考える。一考されたい。

②関係機関との連携強化に新たに指標が設けられた。作業療法士の派遣回数が指標となっている。R4でも作業療法士の活用を評価規準として「A」評価を出している。合同研修などの取組はあげられていない。作業療法士派遣だけがこの項の施策なのだろうか。本来は、①の体制の構築により生まれた連携チーム内で情報共有や合同研修が行われることをめざしていたのではないだろうか。作業療法士の派遣の取り組みの評価はAだろうが、関係機関との連携強化はどうだったのだろうか。点検評価が必要ではないか。

#### 5. 特別支援教育の充実

##### ①特別支援教育体制の充実

R4評価意見として「教育委員会内部の体制を拡充していくこと、特別支援教育に関する相談窓口を明確にし、ある程度の知見をもって学校や市民の相談にあたる体制が大事である。」と申し上げた。今回、そうした取り組みが今後の課題と方向性の中に見られ、体制の充実に向け努力していると判断する。

一方、成果指標の見直しは行われていない。この主要施策の成果指標が「個別の指導計画の作成率」となっているが、前回も今回も作成率は100%達成である。「ネットワーク会議」、相談会やケース会議は学校からの相談要請に十分対応できていると思われるのでA評価でよいが、長期総合教育計画の「二一ズに応じたきめ細かな指導・支援の充実」という基本に立ち返ることが大事だと考える。学校が作成率100%の個別の指導計画を生かしているか、組織的、継続的な支援ができているかということの評価指標に追加していくとよいのではないだろうか。

## ②教師の専門性の向上

R4では、成果指標や目標値を設定していなかったが、eラーニングやコグトレオンラインを導入したことでA評価としていた。今回、成果指標に「校内研修の実施回数」、「オンデマンド研修参加（回数）」が設けられた。指標設定、目標設定することはよいことであるし、数値化により評価が明確になる方向を模索していることは評価する。

ただ、評価の観点としての指標とするのであれば、見直しが必要である。一般的な特別支援教育の学びの場として「校内研修の実施」は観点として考えられるが、「オンデマンド研修」は希望する者が研修を受けるスタイルであり、指標設定して向かわせるものではない。「今後の課題と方向性」に示された実態を改善するためには、前回も申し上げたように、現場教職員にとっては、学校での個々の状況に応じた教育の在り方を模索していくなかでの教えや学びが生きた学びとなり大事である。そのリーダーは校長や教頭、特別支援教育コーディネーターである。校内での特別支援教育推進委員会を通した学びの場を観点にすることもよいのではないだろうか。

## ◇「安心・安全な教育環境の確保」の中から

### 6. 学びを支える教育環境の整備・充実

#### ⑤地域とともにある学校づくりの推進

今回、新たに成果指標と目標値が設定された。残念ながら、前回評価意見として懸念を示した「作業部会の設置」が指標となっている。学校運営協議会に作業部会を設けるという発想は、まだ学校の自己中心的発想に思えてくる。学校運営協議会と学校が「委員と対等な立場で」と記しているが、作業部会という学校の困りごとを分担して解消・軽減してもらうための組織をつくろうとするのは、下請け組織をつくるように感じてしまう。まずは「作業部会」と称することを改めていただきたい。学校課題への対応にあたっては、グループで行うこともあれば全体で取り組むこともあるだろう。おそらく、以前からあった教育支援ネットワークのつながりに頼ることが多くなっているのではないかと。指標は「学校課題を学校運営協議会で共有し、家庭・地域の中で一緒に解決に向けて取り組みができた学校（％）」でよいのではないだろうか。

「学校サポーターの制度化」と記述があるが、制度化するのであれば、サポーターとしての任命権限や事故の備え、補償などについても市教委での対応としてすすめてもらいたい。

#### ⑥市内高等学校への支援

この施策に関しては、「中高連携を密にしながら～竹田の子どもたちの進学先の確保」という当初の基本計画に立ち返れば、学校教育課の中高連携の取組みに加え、市内の高校の維持・発展に寄与する何らかの取組みは教育総務課にも担当してもらった方がよいかと考える。

### 7. いじめ・不登校・子どもの貧困等の対策の充実

#### ①いじめ対策の充実

自己評価が前回B評価から今回はC評価になっているが、いじめ解消率の実績値は前回も今回もほぼ同じである。「人間関係づくりプログラム」に取組んだ成果だと前回も今回も記載されているが、この取組だけでは不十分ということではないか。成果指標が解消率となっているので、未然防止につながっているかどうかは、いじめの出現率や学校が発見した比率なども併せて見ていくとよいかと考える。

#### ②不登校対策

不登校出現率が小学校で改善され、中学校で横ばいとなった背景を探ることが今後の課題と方向性に生かされるのではないだろうか。また、登校支援ルームの成果と課題も今後の対策に生かされることと考える。

### ③子どもの貧困対策

今回、新たに「学校及びSSW等からの就学支援案件としてあがった家庭への援助費支給率100%」という指標と目標値の設定がされたが、支給要件に照らして申請をあげれば当然100%になる。この項に関してはSCやSSWなどの対応について評価基準を設定し、項目ごとの評価指数を出して自己評価していく等の方法も考えられるのではないだろうか。

## 8. 安全教育の充実

①防災教育の充実、②防災対策等の推進ともに指標と目標値が設定された。①の防災教育の充実については、学校の取り組みとして避難訓練の実施状況で判断していくことはよいと思う。一方で②防災対策等の推進については指標の見直しが必要ではないだろうか。長期総合教育計画には不審者対応や登下校の安全指導について触れている。この項での取り組みとして、災害発生時に市教委がどう動き、学校がどう呼応するべきかなどの相互連携に関係することを含めて考えたらどうだろうか。「防災対策等の推進」の主要な取り組み内容を見直していくことを求めたい。

## 9. 学校の働き方改革の推進と教師の健康の保持・増進

### ①学校の働き方改革

45時間以上の時間外勤務者がR2時点で27人、R7までに5人まで減らすことを目標にしていたがR5は29人と増えてしまっている。R4は23人であったことから自己評価はBとしていた。ただ、いくら減ったからB評価というのは、まさしく評価基準が定まっていなかったからである。今回評価基準をしっかりと定めたことでD評価となった。今回定められた評価基準に前回の状況をあてはめても縮減割合はわずか18%でD評価であったことになる。いかにこの状況が改善されていないかがわかる。改めて、今後について「より一層の働き方改革の推進」とするにとどまらず、超過勤務の傾向や内容、背景、要因を分析したうえでの改革方策を示してほしいところである。

### ②教師の健康保持・増進

この項には二つの成果指標が設定されている。前回まで「ストレスチェック受診率」と「健康診断再検査受診率」であったが、今回「ストレスチェック受診率」は「学校職員安全衛生推進者研修の開催率」に変更になっている。そもそも、成果指標を変更したのはなぜだろうか。長期総合教育計画にはメンタル面と身体面である健康診断が施策方針としてそれぞれ示されていることを考えれば、メンタル面に対する施策とその成果指標が必要ではないだろうか。全国的な教職員のメンタル疾患発症率はかなり高くなっていると報じられている。その要因には、職場内の人間関係や保護者対応、業務過多などあげられる。実効ある校内安全衛生委員会が求められるが、学校だけでは解決できないこともあるので、教育委員会としての負担軽減の取り組みをすすめる必要がある。

## ■教育総務課担当施策の点検評価シートの中から

### ◇「安心・安全な教育環境の確保」の中から

## 6. 学びを支える教育環境の整備・充実

### ①安心安全な学校施設・設備の整備・充実

R4自己評価と全く同じである。事業が滞っているということになる。

### ②ICT活用等教育環境の整備・充実

今回、成果指標が設定されたが、指標とした「普通教室における機器充足率」は前年度すでにR7目標値に達していたのではないだろうか。新たに指標を設定するのだからR7に向けて取り組むべきことを考慮した内容にする方がよいのではないかと思う。例えば、前回も施策の課題と展開方針に記されて



いた「タブレットの入れ替えに向けた準備」について、策定した年次計画を指標とすることも考えられるのではないかな。

また、この項について長期総合教育計画には、「ICT 環境を整備及び更新することにより『誰一人取り残すことのない公正に個別最適化された学び』の実現をめざすとともに、適切安全に駆使できる情報活用能力の育成」とある。機器充足率に加え、機器活用支援事業の評価観点を設けて指標追加した方がよいと考える。それにより、年度ごとの「主な取組み」や「今後の課題と方向性」の記述につながると思う。

#### ④適正な学校規模への対応

学校統廃合については市民の間に賛否の声がある。市民の分断を招くことのないよう、そして教育行政への信頼が損なわれぬよう、今後もより慎重で丁寧な対応を願う。

### ■給食調理場担当施策の点検評価シートの中から

#### ◇「安心・安全な教育環境の確保」の中から

##### 6. 学びを支える教育環境の整備・充実

##### ③学校給食の充実

今回指標が設けられた。安全・安心を第一に考えて「異物混入件数・ゼロ」指標・目標値にしたと理解する。加えて、アレルギー対応にも尽力し、食材の工夫もしているので指標に追加しながら「主な取組み」として点検評価するとよいのではないかなと思う。

### ■生涯学習課担当施策の点検評価シートの中から

#### ◇「多様な学習活動機会（内容・方法）の充実」の中から

##### 1. 心豊かな暮らしをつくるための学習活動

##### ①青少年教育の充実

R4評価意見として「事業概要に年間開催予定教室名や活動概要を記載するとわかりやすい」「成果指標がジュニアリーダーセミナーのみであれば開催回数より参加者の評価をアンケート方式で集約し、そこから得られる評点を指標にするなどした方が「青少年教育の充実」の施策への評価になると考える。」と述べた。残念ながらそれに関する記述はなく、前回同様の言葉でまとめられている。充実度が開催回数に比例すると考えているからであり、施策に自信がある表れだろうか。今後の課題と展開方針も前回同様である。継続することがベストということであろうか。登録者数が減っているが。

##### ②成人・高齢者の学習活動推進・支援

ここでも「開催回数に加え、参加者の評点も加味する方が事業の充実に向けては意味がある。」との意見を添えていた。今回、「事業成果」の欄には参加者目線での事業の振り返りが見られた。ただ、参加者の減少傾向は続いている。参加者増に向けて検討していくということであるなら、参加者数も目標値設定し、評価の観点として加えてもよいのではないだろうか。

##### 2. 住みよい地域や職場をつくるための学習活動

前回まで B、C 評価であったが、今回からの評価基準に照らして D 評価となった。しかし、研修会の開催回数を増やすなどの努力はしている。これまでが取組度合の評価であったと考えられる。目標達成に向けては対策を講じる必要があると判断される。

##### 3. 子どもの健全育成に取り組む学習活動

家庭教育事業が公立幼稚園 PTA 連合会の事業計画に乗って行われている。私立の幼稚園や保育園（所）、子ども園などにも広がりをつくるのが大事であることを再度申し上げる。学校教育課が進める

「幼保小の架け橋プログラム」と協働しながら、市教委が研修や合同会議の日程、保護者を巻き込んだ講演会などの調整を行っていけば、この施策は充実すると考えるがいかがか。

◇「自発的学習活動を支えるための条件整備（人的・物的）の充実」の中から

4. 自発的学習活動を支えるための条件の整備充実

「公民館分館教室事業」が地域のニーズに応じて自主事業を積極的に行っていることは評価される。R7 目標値に対しては 64.8%の達成度で C 評価であるが、前回の達成度 52.5%から大きく伸びた。公民館分館の努力は平素より市民に見えているし、数値としても表れている。

中央公民館教室事業については今後の課題として検討を進めることになっているので期待したい。

◇「文化芸術の振興」の中から

3. 文化・芸術活動の支援、文化活動を通じた交流の拡大

①市民による文化芸術活動の支援

主な事務事業として「全日本高等学校声楽コンクール」がこれまでと同様な文面で記載されている。この項について改めて長期総合教育計画を見てみると、「文化活動を行う個人や団体に対し、発表会や展示機会の創造等の支援を行い、（中略）市民や各種団体の連携を促進し、文化芸術関係者が協力して取り組む活動や事業を支援します。」と施策の内容が示されている。「全日本高等学校声楽コンクール」は次項の②文化芸術によるまちづくりの推進で触れられている。よって、本来、ここでは市民の文化芸術活動への支援の取組みについて点検評価が行うべきだと考える。

②文化芸術によるまちづくりの推進

前述の通り、主な事務事業として「全日本高等学校声楽コンクール」と「義美記念館運営管理」があげられた点検評価シートにした方がよい。この 2 件については成果指標が「応募者数」や「入館者数」であることから、より多くの方々に来てもらえるようにどんな取り組みをしたかが「主な取組み」の「事業概要」に記載されることが望ましい。

前回自己評価は A 評価であったが、今回は評価基準に照らして B 評価になっている。しかし、実績値は 2 つの事業とも R4 より R5 の方が向上している。両事業に関わっている市民、楽しみにしている市民も多いので更なる充実を期待する。

◇「スポーツを通じた人づくりと地域づくり」の中から

1. 生涯にわたってスポーツに親しむ機運の醸成と環境整備

①総合型地域スポーツクラブ等の推進・支援

ここでの指標は、「教室数」であり目標値は「29」としているが、参加人数に関する記述があるので参加人数・会員数も指標に加えた方が評価としては見やすくなる。ちなみに R3 では 24 教室 362 人、R4 では 23 教室 346 人、R5 は 26 教室 370 人となっており、横ばい状況である。R7 目標値を 29 教室 400 人として考えても今回の B 評価は妥当である。

部活動の地域移行の動きについては、国・県の動きが出始めてようやく動き出した感がある。竹田市においては十数年前から「部活動検討委員会」で論議することがあったが、中学校現場から中体連大会参加や学校間連携や移動の問題、生徒指導との絡みなどを背景として前進させられなかった経緯がある。少子化、学校の小規模化、教職員の働き方などの情勢変化もあってようやく動き出したのであるが、竹田市は喫緊の取組として進めなければならない課題だと思う。是非、生涯学習課の積極的支援の中でより良い体制づくりを進めてもらいたい。

②市民スポーツを支える環境整備

今回、成果指標と目標値が設定された。R7 目標値の 3 件というのはどういうことから設定されたのだろうか。公共施設整備計画に基づき計画通り実施できたのが R5 で 6 件である。補足説明願いたい。

施設の整理に関しては、前回も申し上げたが地域特性や施設特性、市外競技団体利用状況等を考慮し単なる一極化は避け、地域のまちづくりとあわせて市民の理解を得ながら関係各課と連携協議していくことを望みたい。

### ③各種大会、教室等の充実

評価基準設定により自己評価が前回 A 評価から B 評価へ下がったが、成果指標である体育施設の利用者数は前年より 4,716 人増えている。施設別や教室・競技別の内訳を分析しつつ、自己評価シートに記載の通り、より多くの市民参加を得られるよう今後の在り方の検討をすすめていただきたい。

### ④安心・安全な運動の充実

今回、成果指標と目標値が設定された。「事故ゼロ」という指標は、確かにめざすところである。ただ、これは年度ごとの事務事業の成果の積み重ねによる R7 目標値設定ではない。毎回のイベントでの安心・安全への配慮事項であり、当然すべきことである。では、ここで何をすればいいのか。長期総合教育計画には、「健康を維持するため、屋外で安心・安全に運動・スポーツを行うために、周りの人へ配慮すべき点の周知を行うとともに、屋内(自宅)で気軽に行える運動・スポーツの推進を図ります。」とある。これに従えば、「安心・安全のための周知業務」と「屋内での軽スポーツ推進」に関する事務事業について点検評価することになるのだろうか。検討してみる必要があると思う。

## ■図書館担当施策の点検評価シートの中から

### ◇「自発的学習活動を支えるための条件整備（人的・物的）の充実」の中から

#### 4. 自発的学習活動を支えるための条件の整備充実

##### ②図書館サービスの充実

図書館については成果指標が 3 観点ある。何れも基本目標・基本施策をふまえた上での目標達成度評価といえる。取り組みは多世代へのアプローチがあり、明確な戦略をもって事業が進められている。

しかし、貸出冊数の伸びにはつながっていないため D 評価や C 評価となっている。その中であって直入図書室の貸し出し数が 2 倍以上になっているというのであるから大いに参考になる要因があるのではないか。

SNS による情報発信を始めたことは今回の特筆すべき取り組みだと思う。今後、情報発信をもとに病院や諸施設など小中学校以外との関係づくりや来館者の傾向から新たな方向性を探ってみることなども考えてみてはどうか。

## ■まちづくり文化財課担当施策の点検評価シートの中から

### ◇「文化財の保存・活用と歴史・文化施設の充実」の中から

#### 1. 文化財保存・活用のための組織、仕組みの充実

##### ①文化財理解のための学習機会の充実と保存・活用の組織づくり

前回「施策名と事務事業の内容の整理が必要ではないか。」とする旨の意見を出していたが、今回も前回と同様な点検評価シートとなっている。

改めて長期総合教育計画に立ち返り、その内容を見てみると、取り組む事業として 2 つのことがあげられている。一つは、「歴史的価値あるいは文化的価値を知り、その保全の重要性を認識すること…市民へ文化財理解に係る普及活動や学校教育での郷土学習への支援を行うとともに、民俗芸能等の伝承者となる子どもたちの地域間交流等による啓発が必要」。もう一つは、「同時に、文化財の保護、公開活用の作業…、そのための組織的仕組みづくり」ということである。多くの取り組むべき内容が、一つの主要

施策にまとめられているため、取り組みの全容が見えにくい。そのため、「主な取り組み」と「成果指標」との整合が読み取りづらくなっている。

A「文化財理解普及・学習支援・啓発活動」、B「保護・活用とそのための仕組みづくり」に分けてシートを見返すと、Aの取り組みに関しては「子ども学芸員事業」「モデル校事業」の二件。Bの取り組みは「岡城跡の環境整備・工事」に関する4件で、内「清掃の日の開催」が仕組みづくりと理解する。

Aに対する成果指標は「講座等実施回数」で取組度が求められているので整合が図られている。目標値を大きく上回り取り組むへの努力が顕著である。Bの成果指標が「岡城跡入場者数」であろうか。環境整備等をすすめれば入城者増に繋がるということだろうか。長期総合教育計画の指標があるので従わざるを得ないのだろうが、この指標をもって取り組みの自己評価としなければならないのは担当課には厳しいものがあると思う。

## ②文化財保存活用地域計画の策定・推進

「竹田市文化財保存活用地域計画」が国の認定を受けたことで、取り組みの推進力が増し、目標値を上回り素晴らしいことである。

## ■歴史文化館担当施策の点検評価シートの中から

### ◇「文化財の保存・活用と歴史・文化施設の充実」の中から

#### 2. 歴史・文化施設の活用の充実

歴史文化館の活動に敬意を表する。市内外への発信にも尽力されている結果が高評価につながっている。まちづくりにつなげていこうとすることも重要な観点だと思う。子ども学芸員による展示などで学校教育との連携を探る動きやガイドブックによる発信の広がりを探る動きに期待する。

## ■R5 点検評価シート全体を通して

自己評価全体としては、44の主要施策について54観点(R4は52)でA～Dの評価がされている。今回より、数値で示す評価指標が全施策に設定された。また、A・B・C・Dのそれぞれの評価基準（達成度による評価の判断基準）が統一された。これにより、目標に対する進捗状況を捉えやすくなったと思えるし、課題も再確認できたのではないかと考える。

今回の54項目の指標に対するA～Dの評価の内訳はA評価が38.9%、B評価が18.5%、C評価が16.7%、D評価が25.9%となっている。R4評価ではA評価が48.1%、B評価が34.6%、C評価が13.5%、D評価が1.9%であった。評価方法が変更されたので、前回と単純比較はできないが、際立つのはAやB評価が減り、D評価が多くなったことである。

これは、取り組みが低下したというわけではない。二つの評価方法の変更に影響している。繰り返しになるが、一つは、すべての施策に指標や目標値が設定されたこと。前回までは指標やR7目標値の設定の無い施策が44施策のうち19施策、全体の43.2%あった。もう一つは、A～Dの評価基準が目標に対する達成度として統一されたことである。前回までの評価は、どれだけ取り組んだか、どれだけ効果があったかを前年度までと比較して自己評価していたと思われる。今回は、目標値に対して現状はどうかという見方で自己評価することになった。

つまり、前回までは取組や実績の伸びを見て判断していた自己評価だが、今回は、R7の目標まであとどれだけかという現状を確認できる自己評価と言える。今後の課題と方向性がより見えやすい点検評価となったのではないと思う。

今後、基本施策・主要施策と連動した成果指標の在り方・評価の観点の見直しが進められれば、事務事業の捉え方も整理され、より目標に向かっての道筋もはっきりしてくるのではないだろうか。それによって「竹田市長期総合教育計画」がめざした教育行政の充実・発展につながってくると思う。

——令和５年度竹田市教育行政点検・評価についてのまとめ——

令和５年５月８日、感染症法上の分類でインフルエンザなどと同等の５類に引き下げられ、約３年半に及ぶコロナ禍は終わりを告げ、待ち望まれた平時の生活を取り戻しました。本報告書の点検・評価対象年度である令和５年度は、制限を受けることなく活動し始めたものの、コロナ禍で縮小した行事をすべて元に戻すべきなのか、新しい生活様式の良い部分は残すべきなのかなど、思案しながらの１年間となりました。

教育委員会の運営・活動においては、毎月の定例会における議題審議に際して、事業の進捗状況を説明する中で出された質疑・ご意見にお答えし、いずれも提案どおりの承認をいただいたところです。学校訪問については平年どおりの内容で実施することができました。委員の皆さん方のご要望によって、令和４年度から新たに始めた学校給食共同調理場と教育支援センター「サフラン」への訪問は、現場職員の方々と積極的な意見交換をすることができ、充実した訪問となりました。また、県内外の各種総会や研修会等は、リモート開催や中止となることなく開催され、先進事例を学び、他市町村の教育委員との意見交換を行う良い機会となりました。市内の学校行事も規模の縮小はあったものの参加することができ、ようやく通常の活動を再開し学校での子どもたちの様子を間近に見ることが出来ました。

外部評価委員からは、「総合教育会議への出席とそこでの意見交換は重要である。それゆえ、可能であれば複数回の開催が望まれる」また、教育委員に対して、学校訪問については「今日の学校教育等が内包する問題点などの事前準備に関する学習を行い、学校等がおかれた状況を理解し学校等の訪問に臨むことが求められる」といったご意見がありました。ご指摘のとおり、教育委員と事務局との連携を更に密にし、教育委員会の果たすべき会議の活性化を図っていきたいと思います。

教育委員会各課の実施施策・事務事業については、今年度から全ての事業に対して目標値と成果指標を設定し、令和７年度の目標値に対する達成度で評価する方法を採りました。これは昨年、外部評価委員の両名から、全施策にわたって「評価基準が曖昧である」という根本的なご指摘がなされましたためでした。そのおかげで成果の数値化が図られ分かり易くなりましたが、一方でこれまでの評価と単純に比較することができなくなりました。前年度の（令和４年度）と比較して、評価の段階を上げることができたのは、わずかに４項目で、評価を下げたものが全体の３７％の２０項目に及びました。特に、基本目標「安心安全な教育環境の確保」の施策では、全１６項目中半数以上の９項目で評価が下がっており、新たに成果指標を設定した項目でその傾向が見られます。しかし、外部評価委員からも「数値という観点からのみ評価されているので、Ｄ評価がなされている項目もある」や「評価方法が変更されたので、前回と単純比較はできない」と評価意見をいただいているとおり、このＡ～Ｄの評価をもって「問題点が多々存在すると評価すべきではない」、「取り組みが低下したというわけではない」と思っております。これまで、評点の基準が不明確であったため、自己評価を行う担当者によって差異が生じ、主観的な判断になっていたものが、それぞれの施策の達成度を示す成果指標を設定したことによって、個々の課題やこれからの目指すべき方向が分かりやすくなっています。しかしながら、成果指標が本当に目標達成のための目標値となっているか、違った目標値や成果指標を設けることでより達成度を確認できる項目はないかなど、改めて考え直す必要がある事業があることも確かです。

令和７年度をもって完了する「竹田市長期総合教育計画」の終盤に差し掛かることもあり、点検・評価の方法や、外部評価委員の先生に対する説明の方法など再考すべきことも多々ありますし、翌年の評価対象年度である令和６年度は、既に半年を過ぎようとしています。外部評価委員の両名からいただいた貴重なご助言を生かし、ＰＤＣＡを有効に機能させて、次年度の取組に十分な反映ができるよう各施策を推進してまいります。

末尾ながら、竹田市教育行政に関する点検評価報告書に対し、ご多忙中にもかかわらず真摯に評価意見を頂いてくださった外部評価委員の山崎清男先生、畑山誠二先生に感謝申し上げます。ありがとうございました。